

福島市民憲章作文コンクール（中学生の部）

作品集の発刊に寄せて

「福島市民憲章作文コンクール」は、市民憲章の普及・啓発のため市内の中学一年生を対象に実施しており、十六回目の開催となる今回は、市内十四校から百七点の応募をいただきました。

応募いただいた生徒のみなさんに御礼を申し上げますとともに、本コンクールを通して、市民憲章の精神がさらに多くの皆様に浸透される機会となるよう願っております。

さて、今年度の応募作品につきましては、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」の三つの項目に関わる作品が多く見受けられました。

新型コロナウイルス感染防止策として、三密を避ける生活様式が強いられている状況においても地域の人々とのふれあいやつながりは大切にしていきたいという思いや福島の豊かな自然を守り続けていきたいという思いなど、みなさんの作品から、未来への強い希望を感じ取ることができました。

同世代の中学生のみなさんをはじめ、ぜひ大人の方々にも読んでいただきたい内容です。

福島市民憲章は、市民全ての幸せと、郷土福島の限らない発展を願いながら、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるためのよりどころとして、昭和四十八年四月に制定されました。今後とも、様々な普及・啓発活動を通して市民憲章の意義を一人でも多くの市民の皆様方に理解していただき「住んでよかったと、心から思える福島市」の実現を目指していきたいと考えておりますので、ご協力よろしくお願い申し上げます。

結びに、本コンクールの開催にあたり、各学校で作文指導にあたってくださいました先生方をはじめ関係各位に対しまして、心より御礼を申し上げます。

令和三年一月

福島市民憲章推進協議会会長

山 本 和 宏

素敵な感性を持つ君たちへ

今年度の「福島市民憲章作文コンクール」に応募をいただいた中学生の皆さんにまず感謝したいと思います。一人ひとりが、市民憲章を読み、感じ、そして自分の考えをまとめ、文章にした時間はとても貴重なものです。その作品からは、中学生らしい感性と素直な文章表現で自分の考えを伝えようとする意欲が感じられ、とても好感が持てました。

人間は、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくかという目的を自ら考え出すことができます。これからの時代は、人間の持つ感性が重要になる時代とも言えることができるかも知れません。

「感性」とは、物事を敏感に感じ取って、その中に何らかの意味や関係性を見出し、さらに想像力を高めていく能力ともいうことができます。「感性」は才能とは違い誰でも持っているものです。ただ、「感性」を磨くことをせずそのままにしておくといくら鈍くなるものかも知れません。

感性の豊かな人は、

○ 物事を色々な角度から見る事ができる

物事を一つの方角から見のではなく、横からも後ろからも斜めからも見ようとします。

○ 想像力が無限に広がっている

人が思いつかない事を考える事ができ、想像するだけで常にワクワクして楽しそうでしょう。

○ 人とは一歩違う創造力がある

自分で思いついたものを形にする事ができるのも特徴です。

○ その人オリジナルの表現ができる

心に浮かんだ事を素直に感じとり自分なりの感覚で表現することに長けているようです。

○ 自分の心に浮かんだ事に正直である

自分の直感を信じていることができるのが特徴でしょう。

○ 子供のような純粋な心を持っている

純粋な心を持っている事が多いようです。

○ 五感をフルに稼働させている

人から受けた情報ではなく自分自身で感じ取りイメージを広げていきます。

○ 目には見えないものをも感じ取る

目には見えない人の心の動きや感情の流れを敏感に感じ取ります。

あなたたちのみずみずしい感性を持ち続け、自分らしさを大切に、そして、「福島」で育ったことを忘れず、「笑顔」で「誇り」をもって、「夢」に向かって突き進んでください。

令和三年一月

福島市民憲章推進協議会委員

福島地区中学校長会 福島市立西根中学校長

伊 藤 隆 幸

目次

◆金賞

心と心は密でいられるように

福島市立信陵中学校

濱崎 凌……………1

◆銀賞

『理想の町』の実現のために
大好きな福島市

福島市立渡利中学校
福島市立野田中学校

藤田 香凛……………2
小林 那字……………3

◆銅賞

福島のよさと大きな壁
おかえりの一言で
理想の市をつくる行動

福島市立福島第一中学校
福島市立清水中学校
福島市立信陵中学校

斎藤 梨摘……………4
児玉 和花……………5
石井 陽向……………6

◆佳作

愛情ある福島へ
エールを音に
思いやりある安全なまちをつくる
人々が協力し、助け合える福島市に
私の取り組み
福島市『福』
きれいな福島を
子供の笑顔があふれる福島市へ
親切で愛情あふれるまち
改めて考えてみて

福島市立福島第一中学校
福島市立福島第二中学校
福島市立渡利中学校
福島市立清水中学校
福島市立北信中学校
福島市立西信中学校
福島市立西信中学校
福島市立野田中学校
福島市立吾妻中学校
福島市立飯野中学校

高橋 咲良……………7
森澤 奈央……………8
山崎 来未……………9
三瓶 和佳……………10
松浦 美空……………11
國分 美翼……………12
武藤 悠海……………13
佐藤 有紗……………14
加藤 萌々香……………15
朝倉 ひまり……………16

福島の良いところ
 大好きな福島の自然
 震災と自然
 親切に触れたとき
 平和な福島をつくりたい
 福島をもっと美しく
 一つのゴミでも
 よりよい福島市にするために
 福島の四季
 福島のわらじまつり
 福島市民憲章について
 もっとよりよい町にするため
 福島市民憲章について
 福島市が明るい町になるために
 新しい町をつくるために
 私達が自ら出来ること
 図書館をよくするために
 活かそう地域のスローガン
 親切で愛情あふれる所にするためには
 一人一人が笑顔になる町にするには
 情けは人のためならず
 美しい自然であふれる『ふくしま』へ
 自然や環境の大切さ
 福島の自然

福島市立福島第一中学校	及川	知悟	17
福島市立福島第一中学校	佐藤	祐斗	18
福島市立福島第一中学校	渡辺	想礼	19
福島市立福島第一中学校	高橋	綾音	20
福島市立福島第一中学校	福原	陽愛花	21
福島市立福島第一中学校	斎藤	瑠々	22
福島市立福島第一中学校	新田	ひより	23
福島市立福島第一中学校	本間	諒大	24
福島市立福島第二中学校	遠藤	慧	25
福島市立福島第二中学校	佐藤	大晃	26
福島市立福島第二中学校	赤平	ひなた	27
福島市立福島第二中学校	市川	愛羽	28
福島市立福島第二中学校	大橋	綺音	29
福島市立福島第二中学校	笠井	萌衣	30
福島市立福島第二中学校	藪内	悠大	31
福島市立福島第二中学校	稲毛	愛音来	32
福島市立福島第二中学校	吉田	美空	33
福島市立福島第三中学校	五島	美空	34
福島市立渡利中学校	加藤	帆乃佳	35
福島市立渡利中学校	鈴木	孝奈	36
福島市立渡利中学校	大内	悠生	37
福島市立渡利中学校	坂本	藍	38
福島市立渡利中学校	平栗	夢香	39
福島市立渡利中学校	眞島	美里	40

自分から誰にでも親切を
緑豊かな福島であるために
みんなが住みよいまちづくり
市民みんながあたりまえのことを
綺麗な福島市にするために
六年間の安全に感謝を
他人事と思わず
優しさと笑顔あふれる福島県
福島市をもっと良いところに
福島のPRのためのまちづくり
愛情あふれる緑のまちを
すてきなまちに
愛情いっぱい私のまち
僕にできること
『安全』それは…
事故一つない福島市
親切な心
なぜごみが捨ててあるか
交通ルールを守るために
大切なまちと私たちの問題
会いたい気持ち
目指せ！日本一きれいな町
教育と文化を尊び希望に輝くまち
福商通りをより良くするためには

自然を大切に作る町にしよう
 私たちの幸せ
 美しいまち『福島』
 きれいなまち
 最近のまちについて
 私が福島市民憲章について思ったこと
 まちをきれいに
 愛情あふれる美しいまち
 僕の願い
 福島の未来のために
 親切や愛情
 福島市民憲章
 みどりのまち
 平田のまち
 福島市のほれる水
 僕の住む町
 親切心がうつる福島
 よりよい福島市にするために
 福島市民憲章と福島市の問題点
 暮らしやすいまちにするために
 もっと素敵にするために
 みんなが幸せに暮らす日々を願って
 福島を住みやすい地域にするために
 福島市と僕

福島市立北信中学校	千	夕梨恵	65
福島市立北信中学校	八	遙花	66
福島市立西信中学校	南	陽菜	67
福島市立西信中学校	佐久間	琉音	68
福島市立西根中学校	松浦	栞奈	69
福島市立西根中学校	今村	颯来	70
福島市立松陵中学校	菅野	里紗	71
福島市立松陵中学校	高橋	望菜	72
福島市立信夫中学校	佐久間	遥希	73
福島市立信夫中学校	佐藤	光莉	74
福島市立信夫中学校	影山	未桜	75
福島市立信夫中学校	渡邊	悠	76
福島市立信夫中学校	川島	成智	77
福島市立信夫中学校	木村	純羽	78
福島市立信夫中学校	阿部	劉命	79
福島市立信夫中学校	高橋	永士	80
福島市立信夫中学校	後藤	沙織	81
福島市立野田中学校	渡辺	梨瑚	82
福島市立野田中学校	安西	蒼太	83
福島市立野田中学校	佐藤	ゆうな	84
福島市立野田中学校	中野	結依	85
福島市立野田中学校	佐藤	真那	86
福島市立野田中学校	椎野	菜那	87
福島市立野田中学校	吉田	湊太	88

金賞

「心と心は密でいられるように」

福島市立信陵中学校

濱崎 凌

「親切で愛情あふれるまち」この文章を見た時、一つのこと、僕の頭をよぎった。つい最近、学校の帰りに、スーパーで母が迎えに来るのを待っていると、

「今日は暑いね。もう学校は終わったのかい。カバン、重そうなこと。野球部に入ったのかい。かっこいいこと。」と、やさしい目のおばあさんが、話しかけてきてくれた。

そして、近くにあった自動販売機から、ジュースを買って「暑いから、飲みなね。」と僕に、そつと手渡してくれた。知らない人からいただいてもいいのだろうか、戸惑いながら、「ありがとうございます。」とお礼の言葉を伝えると、

「おばあちゃん、こわい人でないかんね。おばあちゃんにも、孫がいつから、何だか買ってあげたくなっちゃったんだ。おばあ

ちゃんと話してくれてありがとう。」と言って、自転車に乗って、行ってしまった。ほんの少しの時間だったけれど、楽しい時間だった。きつと、このおばあさんは、一人で迎えを待つ僕が心細くならないように、話しかけてくれたのだなと思つてあたたかい気持ちでいっぱいになった。

そういえば、僕の周りには、「おはよう。暑をつけてね。いつてらっしゃい。」と暑くても寒くても、雨でも雪でも、毎朝、声をかけてくれて、僕達の安全を見守つて下さる地域のボランティアの皆さんもいる。この地域の人々のやさしさは、昨日今日でさがつたものではない。僕たちが生まれるずっと前から地域みんなで築きあげてきたものなのだと思う。地域みんなの深いかかわり。それは、最近の都会での生活には少なくなつてきていると思う。僕は、福島市で生まれ、愛情あふれるやさしい地域の人々に支えられて育つてきた。そんな福島市が大好きだし、誇りに思う。

今まで「福島市民憲章」というものがある事など、全く知らなかった。この作文のおかげで、福島市のすばらしい所を再発見

することができた。僕は、地域のみんなと密接にかかわっていければ心も身体も、安心して豊かに生活していけると思う。

新型コロナウイルスの影響で、人と人との距離をとって生活していかなければならぬ世の中になつてしまったけれど、地域みんなが、今まで大切に築きあげてくれた、深いかかわり合いと絆は、これから僕たちが、しっかり引き継いでいかなければならない。そして、心と心は、いつも密でいられるやさしさと愛情あふれる、福島市にしていきたいと思つた。

銀賞

「理想の町」の実現のために

福島市立渡利中学校

藤田 香凛

福島市民憲章。私はこれを見て「理想の町」だと思った。この「理想の町」に福島

市はあてはまるだろうか。確かに福島市は自然に恵まれていて、平和な町だ。しかし、道にゴミが落ちていたり、交通ルールがしっかり守れていない人がいたりするのも現状だと思う。実際に私も登下校の時、道にティッシュのゴミやたばこの吸い殻がたたくさん落ちていて不快だと感じたこともある。また、横断歩道を渡っていて何度かひかれそうになったこともある。他にも福島市にはまだまだ多くの課題がある。これらをどのように解決・改善してゆくか、具体的な案を考えてゆく必要があるのではないだろうか。

私が福島市を「理想の町」にするために考えた案は三つある。

一つ目は看板・ポスターの掲示だ。これ

の内容は、横断歩道付近に「この先横断歩道有り。周りをよく見て！」というものやポイ捨てが多い場所には「福島市を汚さないで！」などと言葉をつづったものを掲示すれば、危険だと思ったり不快だと思ったりする事が減ると思う。

二つ目はテレビやラジオ、動画サイト等での福島市民憲章の発信だ。最近はこのようなメディアが普及しているので、子供から高齢者まで見て、聞いて、知ってもらえると思ったからだ。このようなメディアでおもしろく、ユーモアのあるものを発信したら、さらにより多くの人に知ってもらえると思う。

三つ目は色々な職場での呼びかけだ。これは働いている人限定になってしまいが、職場の上の立場の人から言われたら、守る人が増えるだろう。また、たばこの吸いがらのポイ捨てや交通ルールを守らず車を運転するのは大人なので、大人の人にきちんとルールを守っていくために良いと思う。これが次世代を担う子供達にも伝わり、理想の町、「美しい町」になり、これからの福島市がさらに発展していくだろう。

このように私は「理想の町」をつくるための案を考えた。これらの案はなかなか難しいことかもしれないが、福島市の益々の発展、「理想の町」のためには、具体的な活動が必要だと思う。そして一人一人が美しい心、豊かな心を持って生活してゆくことが「理想の町」になると思う。

そして小さな親切が誰かを笑顔にするので、市民がより安全に安心に気持ち良く過ごすためには相手のこと、同じ福島市民のことを思いやった行動が大切だと思う。また二〇二一年に予定されているオリンピックでは暖かい心で、世界中からくる方々を迎えていたい。そのために「福島市民憲章」について考え、そして誰から見ても福島市が「理想の町」になるよう市民一人一人が思いやりを持つことで、みんなの大好きな福島市になるだろう。

銀賞

「大好きな福島市」

福島市立野田中学校

小林 那 宇

私は、福島市民憲章を初めて知りました。ですが、昭和四十八年から制定されていたことに驚きました。福島市民憲章を読んで、特に心に残ったのは、二つあります。

一つ目は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」です。私の通学路には、梨の木、桃の木、そして、大きな田んぼ、野菜畑があります。また、春は桜がきれいです。夏はセミがたくさんいて、鳴き声がひびきます。秋は、紅葉がきれいです。冬は、雪が降り、雪遊びができます。とても、四季を感じることができて、気持ちいいです。ですが、時々マスクやペットボトルなどのゴミ、犬のフンが目立ちます。人が捨てたゴミなどを拾おうという気持ちにはなかなかないと思うので、捨てないようにする、ポスターなどで呼びかけることが大切だと思います。とても小さなこ

とですが、市民全員がやればきれいになります。私も、絶対にゴミを捨てないようにしたいと思います。また、「犬のフンは拾いましょう。」という看板があるのに、その辺の道に落ちている場合があります。呼びかけても直らないときには、他の対策を考える必要があると思います。

二つ目は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」です。私の住む地域のおばあさん、おじいさん、お姉さん、お兄さんはとても優しいです。この前、おじいさんにあいさつをしました。すると、「こんにちわー。今日も頑張つてねー。」と声をかけてくださいました。一言でも応援されると、心があたたかくなります。毎日、通るたびに必ず誰かしらは声をかけてくれるので、孤独感がありません。私たちは地域の人たちのおかげで、毎日明るく、楽しく生活できているのだと思います。私も大人になったら、地域の人達のような人になりたいです。そのために今から困っている人がいた時は自ら近くに行つて出来る限りのことはしようと思います。また、福島市民憲章の「だれにでもできる親切を自分か

らしましょう」を読んでみて、だれにでもできる親切とは何かを考えました。まずは、大きいことを考えずに、小さなことからやろうと思います。例えば、あいさつ、重い物を一緒に運ぶなど、相手のためになることをやっていこうと思いました。

私は、福島市に生まれて、育つてよかったと思います。なぜなら、自然がたくさんあり、地域の人達が優しいからです。また、福島市が大好きです。大人になつてからも、大好きな福島市に住みたいです。そして、福島市のよさをどんどんアピールし、もっと住みやすく明るく楽しいまちにしていきたいと思いました。

銅賞

「福島によさと大きな壁」

福島市立福島第一中学校

斎藤 梨摘

私は、福島によさを知っています。福島を田舎だと言う人もいるだろうし、私もそう思う一人です。しかし、都会と比べて良いこともたくさんあります。

福島の一番のよさは、やっぱり自然だと思います。私は、祖母の家の近くで吾妻山を見たことがあります。普段は、悠々とした姿で、福島を見守ってくれてるなと感じます。ですが、ある時期だけ吾妻山にうさぎが見えるときがあるのです。母に聞いてみると、うさぎが見えてきたら、種まきを始める時期と言われてきたそうです。私は、この地域だけかもしれないし、私の家族の間だけかもしれないけど、吾妻山にそんな役割があつたんだと知り、すごいなと思いました。いつも見ている山がほこらしく感じました。

福島は、東日本大震災の影響で復興の

まっ最中です。その影響で福島のイメージがとても悪くなったと思います。しかし、九年たった現在、福島の桃は美味しい、果物は美味しいという環境がもどりつつあります。これは、福島の人達や、支えんしてくれた方々が頑張った奇跡の証だと思います。

今、福島にまた大きな壁がぶつかってきました。「新型コロナウイルス」です。約一カ月、最後の小学校の日々、約二カ月の最初の中学校の日々が失われました。今でも、マスク生活、手洗い、検温などのコロナ対策をしなくてはなりません。今、福島にできること、私達にできることは何でしょうか。私が思うことは、二つあります。

一つ目は、一日一日を大切に生きることです。部活を頑張ったり、友達と遊んだり、小さな幸せが実は、大きな幸せであることを忘れていけないと思います。

二つ目は、自然に学ぶことです。吾妻山を例に見てみましょう。吾妻山は、雨が降っても、太陽に照らされても、がまん強く輝き続けます。遠くに行かない、密になるところに行かないと決心し、がまんすること

も大切だと思います。

福島は、東日本大震災という大きな壁のりこえ、今、新しい壁に立ちむかっています。コロナ前の環境にもどれるように。逆境をのりこえてきた福島なら、きっとできるでしょう。身のまわりにある福島のたくさんの自然とともに、たちむかい、のりこえていきたいと思います。

銅賞

「おかえりの一言で」

福島市立清水中学校

児玉和花

「おかえり。」

下校中の事だった。とつぜん、知らないおばあさんから声をかけられた。どう言葉を返せばいいのか分からず、私は頭を下げ、その場を去った。

翌日、昨日、声をかけてきたおばあさんが公園の掃除をしているのが目に入った。おばあさんはたった一人で黙々と落ち葉をはいている。私は、「あの…。」と声をかけた。すると、

「あら、おかえり。今日は部活帰りかい？」と、少し汗ばんだ顔であいさつをしてくれた。

「はい。お疲れ様です。」と私が言うと、おばあさんは何も言わずに、明るい笑顔を見せてくれた。

それから、帰りにおばあさんと小話をするのが私の日常となっていた。どんな話で

も真剣に聞いてくれた。悲しい話やつらい話も沢山した。聞いてくれていただけなのに、不思議と心を落ちつかせてくれるのだった。決して長い時間ではなかったが、私にとってはとても大切な時間だった。

ある日、公園の前を通ると、いつもいてくれるおばあさんの姿がなかった。時間が合わなかったのだろうか。残念に思いながら私は家に帰った。明日はきつと会える。そう思っていた。

けれど、それからおばあさんに会うことはなかった。近所に住む知人に聞くと、一人暮らしだったおばあさんは、市外に住む娘夫婦と同居することになり、つい先日引っこしてしまったのだった。

おばあさんの引っこしから数十日が経ち、ずっと公園の前を通ることを避けていた私は久しぶりに通ってみることにした。公園の前を通ると、おばあさんはもういないということを実感してしまうから。でも、このまま過去にしがみついていたのはだめだ。その思いで公園の前を通った。するとそこには何人かの人が掃除をしていたのだった。私はすぐ理解した。おばあさんは

私だけではなく、みんなを支えていたのだった。そして、おばあさんがしていた掃除を、環境を守る仕事を受けついだのだと。今まで気がつかなかったが、みんなを支え、そして心までも動かしたおばあさんは、とっても素晴らしい人だったのだ。

もしも、おばあさんがこの市にもどってくるのなら、私は言いたい。「ありがとう」と「おかえり」を。

銅賞

「理想の市をつくる行動」

福島市立信陵中学校

石井陽向

私は、「福島市民憲章」の五つのテーマの中で、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち」というテーマを見て、あることを思いました。

私は、小学六年生の夏休みに、近くの公園で行われていたゴミ拾いに参加した。その時の公園は、いつも私が遊ぶ公園とは違い、たくさんゴミであふれていた。ゴミの周りには汗を流しながら、ゴミを一つ一つ丁寧に拾っている近隣の方々がいた。その光景を見た私は、いつも公園が綺麗に保たれているのは、このような方々が、朝早くから集まって、公園の清掃をしてくれているからだと初めて知った。清掃作業は暑い中、四十分ほど続いた。けれど、ゴミ拾いに参加している方は、誰一人として疲れた表情を見せず、自分が行っている一つの仕事に対し、誇りをもって行動していた。

そんな方々が居る福島市は、とても良い市だ。その時、心からそう感じた。

他にも、ゴミ捨て場のあみから、はみ出し、カラスやネコなどに荒らされたゴミを、自分の家のゴミではないのに、ほうきで掃いて、綺麗に掃除をしてくださる方もいる。それも一人だけではない。たくさんの方々が協力して、福島市の環境を少しでも良くしようと行動してくれているのだ。そして、この協力によって、団結力も生まれているのだ。

このことから、私たちが日々、過ごしやすい環境で暮らしているのは、自主的に、ゴミを拾ったり、環境の乱れを見つけ、改善するために、行動してくれる方が居るからだということがわかった。また、私たちの生活の土台には、多くのきまりがあることも分かった。このように、日々の生活の中には、たくさんきまりがある。

そこで、私たちにできることを、自主的に見つけていかなければならない。例えば、落ちているゴミを拾う、公共物や、施設などの、利用ルールをしっかり守り、大切に扱うなど、ささいなことから、自分たちに

できることを見つけ、誇りと喜びをもって行動をする。……一市民として、できることを実行していかなければならない。

このような、より良い環境をつくるために、きまりを守ろうという気持ちで、市民の団結力や、たがいに助け合おうという気持ちを生み、福島市民憲章のテーマの一つである、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち」という理想のまちへの実現へ、つながり、より良い市を、つくることができるのではないだろうか。

佳作

「愛情ある福島へ」

福島市立福島第一中学校

高橋 咲良々

「おはよう。」

ふいにかけられた言葉に、私は驚いた。

今日の出来事だ。朝、私はいつもより早めに家を出た。用事があったからだ。歩きながら制服のえりを直していたら、いつも会わないおじいさんが前にいた。うつ向きげにその場を通りすぎようとしたときに、

「おはよう。」

とおじいさんが声をかけてきた。ふいにかけられた言葉に、私は驚いてしまったが、すぐに

「おはようございます。」

とかえした。おじいさんは、あいさつをかえしてくれたことがうれしかったようで、にこにこしながら、

「いつてらっしゃい。」

とやさしく見送ってくれた。そんなあたたかな事があり私は、すがすがしい気持ちで

学校へ向かった。

愛情がこもったあいさつは、した人もされた人も、気持ちが良くなる。顔見知りでも、初めて会った人でもだ。だが、見ず知らずの人にあいさつをする人は、少ない。ましてや中学生ともなると思春期まっただ中だ。あいさつをする人は、もっと少なくなる。福島市民憲章の一つに、「親切で愛情あふれるまちづくり」が、かかげられているが、あいさつをしない中学生がたくさんいる中で、本当にそんな町がつかれるのか疑問だ。

私は、今の福島に一番必要なのは、親切・愛情だと思っている。コロナウイルスが流行している今、自分一人で行ける事も少なくなっている。「ソーシャルディスタンス」があたりまえになって、人と人の心の間もはなれているきがしてならない。コロナウイルスは、みんなが他の人々を気づかいながら、たすけ合い、協力しながら乗りこえていかねばならない。今の福島には、それができているのだろうか？今まで語ってきた事は、私一人の意見にすぎない。だが、一人、また二人と、このことを意識しながら

ら生活していくようになったら…。この市民憲章について、もっと考えてほしい。もしたら、今よりも、もっともったいい福島になるのではないか。

佳作

「エールを音に」

福島市立福島第二中学校

森 澤 奈 央

響き渡る笛の音。旗をなびかせる風の音。
リズム良くテンポを取る太鼓の音。耳をす
ませば、今でも頭の中によみがえりそうな
ほど鮮明に覚えています。

小学校六年生の春、「栄冠は君に輝く」
を鼓笛パレードで演奏しました。たくさん
の人達に囲まれて、小さな幼稚園児達も見
ていて。そんな中、足を高く上げ、手首を
動かし、指揮者の指揮棒を見ながら、自分
のできる精一杯の演奏を、仲間達と共に出
し切りました。

この気持ちを引き出せたのは、仲間達と
の絆と、古関裕而先生の「栄冠は君に輝く」
のおかげだと思います。NHKで放送され
ている、朝ドラ「エール」で、全国の人が
改めて古関先生を認知したと思いますが、
福島でならほとんどの人が放送前から知っ
ていたと思います。そんな古関先生の曲は、

心に響くものがあります。優しい気持ちに
させてくれるものや、元気を出させてくれ
るものなど、いつも心に寄りそってくれる
ものばかりです。

私の小学校では、「栄冠は君に輝く」を、
鼓笛パレードで毎年演奏し続けています。
最初は「またこれか：」「違うのもやりた
いな」と思っていました。けれども、先輩
達の息の合った演奏や、胸打つメロディー
に感化され、いつのまにかこの曲が大好き
になっていました。そして、先輩達のような
美しい演奏を仲間達と共に奏でられたら
いいな、とも思い始めていました。それか
らは、昼休みや下校している時に、仲間や
先輩に、教え、教えられるながら一生懸命に
練習したり、メロディーを口ずさんだりし
て、最高の演奏を目指しました。その努力
のかいもあって、昨年の本番では、自分な
りに満足のいく演奏ができました。みんな
で喜びあったあの時を私はいつまでも忘れ
ません。

今年は、新型コロナウイルスの影響で、
鼓笛パレードは中止になってしまいました
が、街なかに音を届ける存在が現れました。

通り過ぎると、心地良い音楽が耳に流れて
くる、メロディーバスです。朝ドラ放送記
念で作られたメロディーバスは、朝ドラ
「エール」が放送している間だけ、という
期限付きですが、私が見かけた時にはたく
さんのお客さんが乗っていました。わずか
な間だけですが、メロディーバスは街の人
に愛されている存在だと思います。このバ
スを本当に終わらせていいのでしょうか。
私は、福島のアスベキ存在として、ずっと
運行してほしいと思います。メロディーバ
スは、第二の古関先生といってもいいぐら
いすてきな存在です。

この福島市が尊ぶべき一番の文化は、古
関先生と、古関先生が生み出したその音楽
達だと思います。古関先生の曲で希望が生
まれ、その希望を輝かせるエールも、古関
先生から生まれました。福島市は、古関先
生の音楽に包まれながらあるのではないか
と思います。

佳作

「思いやりある

安全なまちをつくる」

福島市立渡利中学校

山崎 来未

私は福島市を快適で明るく住みよいまちにするために、キーワードを考えました。それは、「思いやりある安全なまち」です。今は、お年寄りの方々が増え、そのための工夫が大切になってきています。道がでこぼこになっているなどの設備面に加え、お年寄りをいたわる心が課題になってくると思います。

まず、設備面です。道を歩いているときに道がでこぼこだったり側溝が流れていたりにしている所があります。誰もが使いやすい安全なまちにするためには、ユニバーサルデザインを取り入れるといいのではないのでしょうか。しかし、そう簡単に設備を整えるのは難しいと思いました。

だから、誰もを思いやる親切な心が大切だと考えます。今は、コロナウィルスの影

響もあり、お年寄りと関わる場面が少なくなってきたと思います。毎日の挨拶を大切にするのはもちろん、気遣いをしてお年寄りの方々が楽しく健康に過ごせるように一人一人が努力をする必要があると思います。

安全なまちにするには、個人が交通ルールを守ることが大切です。ルールといってしまうと、堅苦しいイメージがありますが、やはりここでも思いやりが大切になってくるのではないのでしょうか。道をゆづったり、自転車に乗るときはスピードを落とすなど、一人一人の意識で、町は安全になってくると思います。

ここまで色々な改善点を挙げましたが、福島市は、自然豊かでとてもすてきな町だと思います。その良さを生かし、よりすてきな町を目指すために一人一人がすべきことを二つ考えました。

一つ目は、誰と接するときも、親切な心を持ち、助け合って生活することです。優しい心で相手と関わり、その心を行動に移すところまでが思いやりだと思います。

二つ目は、安全な環境づくりに貢献することです。例えば、公共施設の使いやすさ

を考え、さらに安全なデザインにしたり、市民はそれに協力したりします。みんなが住みよい町をみんなで作っていくのが重要だと考えました。

この二点を、「思いやりある安全なまち」にしていくための方法として積極的に実践していきたいです。思いやりを周りに広げていき、市民全体が明るく過ごせるようにしたいです。

佳作

「人々が協力し、

助け合える福島市に」

福島市立清水中学校

三 瓶 和 佳

「ひとにはいつも明るく、やさしい態度で接しましょう」私は福島市民憲章を読んで、この言葉がとても心に残りました。

私は十才の時、ここ福島市に転校することになり、どちらかというと暗かった私が友達をつくることができるか不安に感じていました。しかし、その不安はだんだん消えていきました。クラスの人と話しかけてきてくれたからです。でも、苦手な人がいました。Aさんです。クラスや部活動で同じだったAさんは、いつも明るく、だれにでも優しい、まさに前に書いた憲章のような人でした。とてもいい人なのですが、私はAさんが、ハキハキ話す所が苦手でした。でも今は友達です。きっかけは、六年生の時にした朝のあいさつ運動でした。Aさんは、登校してくる人に元気にあいさつして

いて、他の人にも元気を分けているように感じ、話しかけやすい人なのかもしれないと思いました。その後、クラスや部活動で話す機会も増え、とても仲良くなれました。私はAさんの明るい所、積極性がある所、優しい所がとてもいいと思っていました。だから、私もAさんみたいになれるように、あいさつを明るく元気にしたり、委員会の仕事に熱心に取り組んだりすることをがんばりました。その結果、小学校ではとても楽しい思い出をつくることができました。

中学一年生になり、私は学区の影響で、また転校したような感じになってしまいました。つまり、また一から友達をつくるということです。でも、前よりは友達をつくることに心配しませんでした。一度経験したからというのものもあるかもしれませんが、一番は、Aさんの明るい所、積極性のある所、親切な所を真似していれば大丈夫だと感じたからです。実際に今、クラスには多くの友達がいます。

私は、このような出来事から、人にいつも明るく、やさしい態度をとれば、人々との交流が深まり友達がつくれるのだと思

いました。だから、私はこの福島市民憲章がもっと普及し、人々が仲良く暮らす、「今よりもっと協力し、助け合える福島市」をつくっていききたいと思いました。

佳作

「私の取り組み」

福島市立北信中学校

松 浦 美 空

私達は毎日、たくさんのごみを排出している。その中で、私の住む福島市は一人一日当たりのごみの排出量が、人口十万人以上の都市で全国ワースト三位である。また、全国と同規模の都市と比較すると、一人一日当たり五百二十グラムも他都市より多くごみを排出していると知った。この現状から、私はごみの減量を進めれば、もっときれいな住みやすいまちになるのではないかと思った。

私は、毎朝学校に登校する時、道端に落ちているごみを一生懸命拾っている人をよく見かける。その人は、暑い日も寒い日も朝早くから、町内をきれいにしようとしてくれている。私はその姿を見て、朝からすがすがしい気持ちになる。私はその人に、「おはようございます。いつも本当にありがとうございます。」

と声をかけると、

「おはようございます。うれしい言葉をかけてくれてありがとうございます。」

と笑顔で答えてくれた。そして、学校からの帰り道、ごみが一つも落ちていない道端を見ると、本当に感謝の気持ちでいっぱいになる。その人のように市民一人一人が少しでもごみを無くし、きれいなまちにしようとする人が増えると空も水もきれいな豊かなまちづくりができるのではないだろうか。

先月、私は母と北信学習センターで行われたダンボールコンポスト講習会に行った。ダンボールコンポストとは、微生物の力を借りて生ごみを優良な堆肥にする生ごみ処理器である。今まで自宅で捨てていた生ごみが、野菜や草花を育てる堆肥になる事に驚き、私は、その日からダンボールコンポストを使い始めた。野菜の皮や食べ残しを投入している。堆肥にするには、三ヶ月程かかるので、まだごみの減量を始めたばかりであるが、三ヶ月後を楽しみにしている。堆肥が出来たら、その堆肥を使い、庭に私の大好きなトマトを育ててみたいと

思う。生ごみを活用して、豊かな土と緑を再生したい。

私の取り組みは、ささいな事かもしれないが、市民一人一人が協力して、自分の出来る身近な取り組みを行えば、それがまち全体をきれいに豊かにすると思う。

私の生まれ育った大好きな「福島市」が、いつまでもみどり豊かなまちであり続ける事を願っている。

佳作

「福島」

福島市立西信中学校

國分美翼

「福島ってすごい。」当時小学一年生だった私は、久々に帰ってきたふる里を見て思った。

私がいちさいの時に東日本大震災が起こった。さらに福島では、東日本大震災の影響で原発事故が起きた。私は家族と一緒に父の実家がある三重県に引っ越した。三重県は福島と比べると被害が少なく、私は三重県の保育園に入った。三重県の人とは少しだけ言葉が違っていただけ友達もできた。三重県での生活にも慣れてだいぶたった頃に、父に、

「福島もだいぶ安全になったし、そろそろ福島に帰ろっか。」

と言われた。私は福島へ帰ることが嫌だった。三重県の方が福島よりもいる時間が長いし、友達だっている。それなのになんで今更帰らなくちゃいけないんだろう？私は

そう思った。でも私は福島県へ帰ることになった。母が、友達のお母さんに、

「福島に帰って大丈夫なの？」

と聞かれているのを聞いて不安になったのを覚えている。

久々に帰ってきた福島姿を見て私は驚いた。ニュースで見ていた福島とは全く違って、私の持っていた不安は消えていった。引っ越し前に住んでいた家に帰ると、近所のおじさんに、

「久しぶりだね。ずいぶん大きくなったね。」

と言われた。私は、私のことを覚えていてくれたのが分かって、すごく嬉しくなった。小学校に入学して福島でも友達ができた。地域の人達は明るくあたたかく接してくれて嬉しくなった。私が福島に帰ってきたら、雪がふっていたので私は驚いた。三重は雪が降らない地域だったので、久しぶりに見る雪はとても綺麗だった。吾妻山を見ると、しっかりと雪うさぎが見えた。福島は田舎かもしれないが、それからは田舎ならではの自然や環境が、私は大好きになった。私が福島に帰ってきて驚いたことは、もう一

つある。福島に住んでいる人達の力強さだ。福島は原発事故があり大変だったはずだ。しかし、数年たった今では、福島市はもう元通りになっている。福島の特産品である桃もたくさん売れている。それに、今年は福島で二〇二〇オリンピックまでやる予定だったのだ。私はそんな力強い姿が、とてもかっこいいと思った。

この県には、たくさんのお優しい人や地域の人々の努力などがあふれている。今では私も福島に帰ってこれて本当に良かったと思う。いつまでも私は福島が大好きだ。

佳作

「きれいな福島を」

福島市立西信中学校

武藤 悠海

僕は、福島に生まれて福島で育ちました。福島以外で暮らしたことがないので、あまり感じたことはなかったのですが、兄は大学の四年間を横浜で生活していたので、帰省するたびに、「福島は良いな、静かで落ち着く。」と、よく言っていました。僕は、兄のいる横浜の方が都会で電車どこにでも行けるし便利なのにな、と思っていました。福島が大好きな兄に福島の魅力聞いてみると、空がきれいで、吾妻山の四季が良くて、川の水が澄んでいることなど僕が気にしていなかった福島の良いところをいろいろ教えてくれました。兄から話を聞いたあとで、朝起きて空を見ると、どこまでも広がっていききれいです。初夏に見たたくさんのホテルはとても幻想的でした。ホテルはきれいな川にしか生息しないので、福島の荒川はともきれいなんだと感じま

した。福島のシンボルである吾妻山は、季節で色が変わります。今は夏なので緑が濃く感じますが、秋には赤く色づき、冬になると山頂が白くなり、町にも雪が降ることを一番に知らせてくれるのです。そして、春には山の雪が解けることで山にうさぎの形が出てきます。これは種まきうさぎといつて、昔から種まきうさぎが出てきたら農作業を始める準備をするというので、昔の人からの教えなんだと、改めて実感しました。

今、地球温暖化が進み、猛暑だったり、大きな台風がきたりと大変なことが起きています。僕の住んでいる福島も盆地のため、気温が上がリ、ニユースにもなるぐらいの高温になります。僕は、このきれいな福島を守るために僕達に何ができるのか考えてみました。いちばんは省エネルギーに取り組むことです。エアコンの設定温度を夏は二十八度、冬は二十度にする。使わない電化製品は主電源を切り、コンセントからプラグを抜いておく。誰もいない部屋の電気を消しておく。テレビを付けっぱなしにしない。どれも小さなことですが、みんなで

取り組んでいくことで、地球温暖化を進行させないようにできるのです。一つ一つは小さなことでも、僕達のきれいな福島を守ることに繋がっていくと思うので、これからは注意しながら生活していきたいと思います。

そして登校の時には、時々立ち止まり、吾妻山を見上げて、福島の四季を感じながら成長していきたいと思っています。

佳作

「子供の笑顔があふれる福島市へ」

福島市立野田中学校

佐藤 有紗

「家庭、学校、地域社会が一体となり子どもたちに行き届いた教育をする」とは、どういうことなのか。

私は、小学校の六年間でたくさんの校外学習に参加した。自然や歴史、工業など、教科書の勉強では限りがあるが、実際にふれ合うことで視野を広げたり、あるいはもつとふかく学んだりすることができ。校外学習ではさらにふかく学ぶということが可能にする。そのためには、家庭、学校、地域社会が一体となる必要があるのではないだろうか。また、地域社会などが一体となることで私たち子どもは、学ばなければいけないことを学ぶことができる、このことが子どもたちに行き届いた教育ということだと思う。

しかし、「家庭、学校、地域社会が一体となり子どもたちに行き届いた教育をす

る」ことは簡単ではないと思う。先程の校外学習の話もそうではないか。家庭と学校だけが協力しても、見学先の地域の施設などが協力してくれなければ何も始まらない。また、学校と地域が協力したとしても、私たちの親、家庭が協力しなければ、それこそ学校と地域の協力は水の泡になってしまう。子どもたちに行き届いた教育をするためには、家庭、学校、地域社会、この三つがそろわなければならない。

さらに、その三つが一体となるだけではいけない。実際にふれ、知り、学ぶ私たちが感謝し、誠意を持って学習しようと思うことはとても大事なのではないか。福島市民憲章に「教育と文化を尊び希望に輝くまち」にあるように、教育、文化を尊ぶことは大切であると思う。こうしてあたりまえのように勉強している私たちが、世界には勉強したくてもできない子供たちがたくさんいると考えると勉強するのはあたりまえと思えることは、とても幸せなことなんだと感じた。

このことを踏まえると、「家庭、学校、地域社会が一体となり子どもたちに行き届

いた教育をする」とは、大人たちが協力し、それに対して私たち子供が感謝することで行き届いた教育、ということになるのではないか。私は今まで、感謝したことがたくさんある。きつと、これから先も感謝することがたくさんあると思う。その時は、だけれどが協力して何かをやってくれているのではないか。感謝し、感謝される、明るい福島市にしていきたいと私は思う。

佳作

「親切で愛情あふれるまち」

福島市立吾妻中学校

加藤 萌々香

私達の住んでいる福島市には、親切な人達がたくさんいます。例えば、お年寄りの方に席を譲ったり、子供が道に迷って泣いている時に、優しく大丈夫と声をかけたりしている所などを私は何度か見た事や体験などをしたことがあります。私が、小学六年生で、弟が小学五年生、妹と母で買い物に行つて、帰ってくる時の事でした。母は車の免許を持ってなく、電車で遠い所へ行っていました。私と弟が重い荷物を持って電車に乗ると、その時、ちょうど帰宅ラッシュで、どこも満席でした。なので、重い荷物を持ったまま、つり革をつかんで、立っていました。私達が乗った駅から、私達が降りようとしている駅まで、一時間ぐらい待たなければなりませんでした。私は、こういう事が、一回も無かったので、どうしたらよいか、全然分かりませんでした。私

も、席にすわっていて、何回か、おばあさんや、おじいさんが来ても、私は「まあ私はまだ子供だし、別に席を譲らなくても、大丈夫だ。」と思っていたのですが、実際に相手の立場になると、とても大変だし、つらいんだなと思いました。でも私は、がまんして、立っていると、席にすわっていた、高校生ぐらいのお兄さんが、急に立ち上がって「この席、良かったらすわってください。僕が降りる駅は、もうすぐなので。」と言つて、譲ってくれました。母は何回もお礼を言い、私と弟をすわらせてくれました。でも、さっき譲ってくれたお兄さんは、もう少しで駅に着くと言つたのに、全然降らないで、乗った駅から、だいたい五十分くらいして、降りました。あのお兄さんは、私達が気をつかわないようにしてくれたんだと思います。この時、私は親切にしようと思つて、とてもうれしいし、助かるなと思いました。親切にするのは「子供だから、別にやらなくても、いいよね。」とか「もう大人なのだから、これくらい大丈夫でしょう。」ではなくて、子供から大人までみんな困っている時は、たがいに助

け合う事がとても良い事だと思います。そこで福島市を、もつと親切で愛情あふれるまちにするには、どうしたら良いか。まず一つ目は「人に言われたから、やる」とかではなく、人に言われてなくても、進んでやる事が良いと思います。

次に二つ目は、子供だけとか、お年寄りだけとかではなく、みんなに親切にする事が大切です。

最後に、人にはいつも明るく、優しい態度で接する事で、子供から大人までみんなうれしいと思います。でもこれは、みんな普段やっていることです。だからみんないつも親切にしています。そして、これからも続けていくことが、一番大切だと思います。

佳作

「改めて考えてみて」

福島市立飯野中学校

朝倉 ひまり

わたしが住んでいる飯野町には、良いところがたくさんあります。山や森など自然がたくさんあり、地域の人も、とても優しいです。

わたしは、この作文を書くときに、初めて福島市民憲章があることを知りました。この憲章を知って、わたしは、今までのことをふり返ってみました。

飯野中学校には、志保井が丘憲法というものがあり、十条で成り立っています。その中の九条は、自分で考えて書くのですが、面倒くさくて書いていませんでした。それで、今この機会を使って、九条を考えました。わたしの考えた九条は、「毎日明るく楽しく」です。みんなで、学校全体を明るくすれば、全員が楽しく授業を受けることができると思います。また、生徒全員が、学校を好きになることもできます。苦手な

授業がある日、いやなことがあつて、学校に行きたくない日。そういうときでも、友達に会える、先生に会える、部活ができる、という好きなことを、思いうかべ、学校がいつも楽しみになれる学校にすることだってできます。

また、これが、学校だけでなく、町全体に広がれば、「親切で愛情あふれるまち」をつくれます。まちをもっと明るくできて、福島市全体の人が、いつも笑顔で幸せになれることもできます。そうすることで、人にも、環境にも、もっと優しくできる福島市民になります。これが、わたしの考えた九条です。

今まで、あまり意識をしていなかった志保井が丘憲法。初めて知った福島市民憲章。改めて、しっかり考えると、やっぱり大切に、守らなければいけないものだと思います。これからは、この憲法、憲章を、しっかりと意識して、守ります。そして、小さなことでも、面倒くさがらずに、真面目に真けんにとりくんで、明るく楽しい学校、まちを、つくりあげていこうと思います。また、そのような、すばらしいまちを、

つくったら、次は、志保井が丘憲法。福島市民憲章。どちらも、「守らなければいけないもの」といいましたが、そうじゃなくて、「あたりまえのこと」そういう考えの人が増えてきて、もっともっと明るく、楽しいまちを、つくりあげようと思います。そのために、まずは、小さな親切をくり返し、自分から、つくり始めていこうと思います。

「福島の良いところ」

福島市立福島第一中学校

及川 知悟

福島市といえば、みなさんは何を思い浮かべますか？ぼくが真っ先に思うのは、福島 of 自然です。例えば、冬になると白鳥の戻ってくる阿武隈川。また、最近学校の水道には、蛇口から出る水道水金賞受賞、なんていうものはられています。さらに福島市民憲章には『空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。』という項目だつてあります。それほど福島市にとって自然が豊かであるという点は、強みであり、ほこりなのです。

しかし、中には自然が豊かだなんて、まだ福島が開発が進んでないことを言い換えただけ、と思う人もいるでしょう。ですが、それはまた、福島市は田舎と都会のいいところ取りをしているということなのです。

例えば、福島駅の方へ行けば、さまざまな買い物をすることができます。さらに、

新幹線に乗れば、たった数時間で東京に行けるなど、アクセスが悪いなんてことはありません。

そしてまた、駅から車を少しばかり走らせれば、白鳥にえさをやることのできる阿武隈川。空気も澄んでいて、夜になればきれいな星だつて見ることができでしょう。

こうして見てみると、福島は田舎と都会のいいところ取りをしていると思ってきましたか。

しかし福島では、東日本大震災による風評被害。最近では福島駅前の顔であったと言つても過言ではなかった中合の閉店などの出来事がありました。

しかし、チャンスは今、やって来ています。一番大きいものと言えば、朝ドラで今やっている『エール』でしょう。エールの元の人物である古閑裕而は福島県出身です。他にも、さまざまな福島出身の人がテレビなどで活躍しているのを見ます。

そんなチャンスの今だからこそ、福島のよさを広めたいのです。そしてよさを広めるためには、まず自分から見つけていくの

が大切だと思います。これから二十から三十年後には社会の中心となっているぼく達が福島のよさを広め、福島を変えていくのです。もちろん、変えてはいけないものだってあります。それこそ、福島 of 自然、人情などです。これらを考え、変えた方がよいものは変え、変えてはいけないものは変えない。そんな福島にしていくべきだと思うのです。

今回は、福島 of 自然を主に伝えました。でも、福島 of よさはこれだけではありません。探せば探すほど見つかっていくものだと思います。それを探しながらこれから生活していくてみませんか。

「大好きな福島 naturally」

福島市立福島第一中学校

佐藤 祐斗

僕は福島に住んでいる。僕は小さい頃から福島の町で育った。そんななかで、福島の大好きなところがある。それは森や海、湖などの自然豊かなところである。

僕の家近くには大きく立派に育っている竹林や大きな田んぼなどがある。そして家からは小さな山が見える。その山は春になると桜が咲き、秋になると、回りの木が赤や黄色になりきれいな紅葉が見られる。そのため、回りにはいろいろな生物たちがいる。春ごろには様々な鳥がまるで歌っているように、夏には田んぼに行きザリガニやおたまじゃくしなどをとっている小学生がいる。

けれども、約九年前自然は時におそろしいということを学んだ。東日本大震災である。あの時のテレビのニュースで見た荒れた海。倒れて道を塞いでいる木。その後の

二年間僕は自然はこわいものだと思っていました。けれど親の社員旅行で今まで考えていたものがちがうと思ったのです。泊まったホテルからは海と山が見えました。それがあまりにもきれいで忘れられませんでした。

しかし、福島に帰ってきた時に改めて外のけしきを見ました。そして感じました。旅行先で行って見た光景と同じくらい自然が豊かで緑にあふれている町だなと感じたのです。

それから約五年後、ぼくは、学校に行くたびに福島はやっぱりきれいだと感じました。澄んだ空に映える吾妻山に橋の下を流れるあぶくま川の透明な水。それを毎朝見ると今日もがんばろうとやる気が出てきます。他にも、南相馬やいわき市の澄んで青い海、会津のいなわしろ湖など他にも僕の大好きな自然があり、福島で育って良かったと感じます。

空も水もきれいなみどりのまち。僕はそんな福島が大好きです。そして、これからもそんな町づくりをしていくためにみんなが助け合いながら意識をもって町づくりに

こうけんしたらいいと思います。それがそんなに簡単なことではないと思いますが一人ずつでもやっていけば、自然が豊かで澄んだ青色の空や水を守り、後につなげていけると思います。

そしてなにより、自分達、今の若い僕のような人達ができるボランティアのごみ拾いや落ち葉はきなどをそっせんしてやれば、よりきれいな町にできると思います。

これからは、福島市民憲章を生活の中で意識し緑豊かでそして笑顔いっぱい福島をつくっていききたいです。

「震災と自然」

福島市立福島第一中学校

渡 辺 想 礼

私は、今の福島は自然に囲まれていて、美しいまちだと思います。

昔も、自然は美しく、豊かだったと思います。

ですが、二〇一一年、福島を東日本大震災が襲いました。それまで美しかった自然は、荒れはててしまいました。山は崩れ、川はにぎり、農作物も全てダメになってしまいました。ひなんした人々の中には、絶望している人や、現実を受けとめられない人もいたと思います。

そんな中、福島が元にもどるようにと、日本だけでなく、世界からも願ってくれたのです。中には、ボランティアにきて、福島の復興を手伝ってくれる人もたくさんいました。わたしたち、福島県民は、そんな人々から、勇気をもらい、はげまされたのだと思います。

ですが、復興はそんなに簡単ではありませんでした。外の放射線の量が多く、思うように復興が進まなかったり、余震がきたりしました。また、荒れはてた自然を美しいものにするには、相当な時間と労力が必要なのです。

それでも、「一日でも早い復興を」と、復興に一生懸命とirkundeきました。その結果が今の福島と言っていると思います。

私が一番驚いたのは、「水」です。福島の今の水道水は、最高金賞をいただけるほど、美味しい水なのです。特に、薬をあまり使っていないくてもそんな水ができるのは、すごいと思います。

ですが、問題もあります。わたしはいつも登下校するときに阿武隈川の橋の上を通ります。その橋の下を見ると、水がなくなってきたいました。どんどん蒸発しているのでしょうか。底が見えてしまっているところもありました。

水だけではありません。木々も最近減ってきているように感じます。これは、きつとどんどん伐採されているからだと思います。

このように、自然が少しずつ壊されていき、生活が豊かになっても、自然はとても大切なものなので、なるべく自然を壊さずに守り、受け継いでいきたいです。

また、震災は、いつ襲ってきてても、おかしくありません。いつ襲ってきてても大丈夫なように、非常用持ち出し袋の中をきちんと準備したり、避難経路を確認したりして、備えたいと思います。そして、まわりの人にも呼びかけ、対策をとっていききたいです。

「親切に触れたとき」

福島市立福島第一中学校

高 橋 綾 音

「こんにちは」

その一言が、言った人も言われた人も少しうれしくさせると思う。

私は、学校の帰り道、近所の人とすれちがった。私は、はずかしくて

「こんにちは」

と言えなかった。次の日、またその人と会った。そのとき私は

「昨日は言えなかったけど今日は大きな声で言うぞ！」

と心の中で強く思った。心臓が、バクバクしながら

「こんにちは」

と言うと、笑顔で

「こんにちは」

と返してもらえた。自分が大きな声で言えたのと、あいさつを返してもらえたうれしさで胸がいっぱいになった。そして、あい

さつの大事さが分かった。私は、あいさつをして、返してもらえて少しうれしくなった。同じ経験をした人がいるかもしれない。あいさつをしている人も、していない人も、おはよう。こんにちは。などの一言で少しうれしくなり愛情あふれる町をつくっているのかもしれない。

私は、うれしくなった事がもう一つある。田んぼが広がっていてその間にある、車一台が通れる道で、私は自転車に乗っていた。向こうから犬の散歩をした男の人が来てすれちがう時だった。男の人が止まって、道のわきのはじの方によってくれたので、私は、

「ありがとうございます」

とお礼を言った。男の人は、あと一歩行ったら田んぼに落ちるぐらいのところまでよっていた。私は、まったくよけようとせずまっすぐ行こうとしていた。私は、あとになって、よければよかったと思った。

私は、小さい時から今まで、親切にされたことがたくさんある。でも、自分が親切にしたことは、親切にされたときより少ないと思う。親切に触れると、誰でもうれし

くなるし自分も人に親切にしたいなと思う。実際に私も、親切にしてもらえて自分からも、人を助けて、人の役に立てるようになりたいと思った。

一人一人が、親切にすることを心がけることで、親切で愛情あふれる町をつくっていけるのだと思い、今までの生活の中で出会った「親切」を忘れず、誰にでも笑顔であいさつをしていき、市民憲章の一つである「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」に協力していきたいと思った。

「平和な福島をつくりたい」

福島市立福島第一中学校

福 原 陽愛花

今後の福島はどうなるのでしょうか。

犯罪やポイ捨てなどは普通の人ができることではないです。犯罪やポイ捨ては心が真っ黒になっている人でないとできません。

私は、ある体験を思い出しました。それは、学校がある朝のことでした。その時に朝ご飯を食べていました。ご飯を食べながらテレビを見てみると、家にどろぼうが入った、〇〇〇がぬすまれた、人が亡くなっているなどというニュースが流れていました。犯罪者は罰を受けるということを知っているうえでやっているのでしょうか。被害者側はくやんでも、くやんでも、くやみきれないほどのうらみがあると思います。そしてあるニュースも目に止まりました。それは、環境問題です。川や道にゴミが捨ててあるということでした。そのゴミ

の量はかなり多かったと思います。私が小学生の時の登下校中にたまにポイ捨てをされていたことがありました。そのゴミをわざと捨てていつているのか、それか、知らないうちに落ちてしまったのか分からないけれど、ゴミを捨てるということは、環境を汚染しているということです。環境を汚染してしまうと、動物にも悪影響ですし、人間たちにも悪影響をおよぼしてしまいます。ですから、自分で出したゴミは自分で持ち帰るということを「心がける」ことが大切だと思います。

私はそこでどうして犯罪やポイ捨てなどの環境破壊ができるのか、その後罪をつぐなうことになるのにも思いました。犯罪をする勇氣があるのなら、福島が平和になるような活動を勇気を持ってやっても良かったほうが、福島市民が平和に、そして安全に暮らすことができると思います。

そして、この犯罪や環境を汚すことは、自分だけがいやな思いをするのではなく、自分の周りにいる人などにも迷惑をかけることになります。一人でもそのような行為をすることにより、仕事が増える人だって

いると思います。

最初に、「今後の福島はどうなるのだろうか」と問いかけてましたが、それには、たくさん人の意味がこめられています。一つ目は、人の命を無闇に落としてはいけない、二つ目は、物が壊れても、直して使ってあまりゴミを出さない、三つ目は、犯罪を犯すようなことはしないなどのほかにもたくさん意味がこめてあります。

やっぱり私が、実現したいことは、福島の人たちが、平和で楽しく、安全に暮らせることが一番です。なので、みんなで呼びかけや、協力などとおたがいに助け合いたいです。

「福島をもっと美しく」

福島市立福島第一中学校

斎藤 瑠々

「またこれか。」

外を歩いていた私は、落ちていたたばこの吸い殻を見てふと思った。毎日のように見かけるたばこの吸い殻やポイ捨てされたゴミ。これを見るのは何回目だろうと思ってしまう。周りを見渡してみると、さらにゴミが落ちていた。縁石にはさまったたばこの吸い殻はまるで「早く拾ってくれ！」と訴えているようで、少しさびしい気持ちになった。

そこで私は、何年か前に町内でのクリーン活動に参加したことを思い出した。ゴミ拾いを行ったが、住んでいる地域だけでも袋いっぱいのごみが集まった。その中には、たばこの吸い殻だけでなく、食べ物のゴミやペットボトルなど、さまざまなゴミが入っていた。

どうしてポイ捨てをする人が増えてし

まったのだろうか。原因は何なのか。私はこのことを家族の話題に入れてみた。意見は二つでた。一つ目は、

「食べ歩きをする人が増えたこと」

最近、食べ歩きをしながら町を歩いている若者が増えてきている。食べ終わったゴミを持ち帰るのが面倒臭いということでポイ捨てをする人がいるのだろう。

二つ目は、

「外でたばこを吸う人がいること」

たばこも食べ物のゴミと同じくらいなほど至るところに落ちている。たばこはとも依存性がある。そのため、一日何十本もたばこを吸う人がいる。外でもたばこを吸って、そのまま捨ててしまうのだろう。

ポイ捨てをする人々は町中にごみが増えて、どのような影響があるのかを理解しているのだろうか。

例えば、川や海でのポイ捨て。海の中などへのポイ捨て。海の中などにゴミの山があり、えさと間違えた生き物たちが誤って食べてしまい、死んでしまうということで話題になっていた。このように、自分たちが住む町の環境を自分たちでこわしてい

のだろうか。

その反対に、町のために活動している人もいる。

テレビをつけると、ある番組が目に入った。ある男の人が地元ゴミ拾いの旅をする番組で、歩道や高速道路のゴミ拾いを一生懸命やっていた。

「すごい量だなあ。」

男の人は大きな袋に詰まったゴミを見て、そう言っていた。このように環境のことを意識している人が増えてほしい。

環境を守るのは、意識している何人かが毎日ゴミ拾いすることではない。みんなが意識することだと思う。その一人一人の意識で、福島をより美しくしていこう。

「一つのゴミでも」

福島市立福島第一中学校

新田 ひより

みなさんは道路や歩道にゴミが落ちているのを見たことがありますか？ほとんどの人は見たことがありますよね。私は、このゴミを見て、

「いやだなあ。」

「だれがこんな事するんだろう。」

と思う事がよくあります。

つい先日、家から中学校までの通学路に、だれかが飲んで捨てたとみられる、パックがつぶされて落ちているのを見かけました。少し市街地の方に行ってみると、やはりゴミが落ちていて、タバコのすい草や、コンビニのコーヒーのカップなどが多いように感じました。私はよく、駅の近くで買い物をするのですが、建物などの出入口のそばに缶コーヒーの容器が置いてあるのを見たことがあります。私は、

「自分で持って帰ればいいのに。」

と思いました。

私が小学生の時に、小学校の取りくみで、「ボランティア活動」がありました。私は、学校の側にある公園のゴミ拾いをしました。この公園は、子供が遊ぶだけでなく、大人の働く人たちも昼食をとったりしている公園でした。しかし、たくさんゴミが道ばたや、草むらなどに捨てられていました。ゴミの中には、大人の人が吸っていたらろうタバコの吸い草や、コーヒーなどの缶、ペットボトルなどのゴミがたくさん落ちていました。

一週間後にも、同じ公園のゴミ拾いをしましたが、前と同じように、タバコの吸い草やペットボトルのゴミが落ちていて、

「またか。」

と思いながらゴミ拾いをしました。

福島市民憲章には、

「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」

とありますが、前に述べたように公園や、駅の周りにゴミが落ちているようでは、

「みどりのまち」

は作れないのではないのでしょうか。

私はこの福島市を改めて見て考えた事は、

「一つのちいさなゴミでも、道ばたや歩道に捨てずに、家に持って帰る」

という事を市民一人一人が心がけるべきだという事です。レジ袋が有料になって、空き袋にゴミを入れて持ち帰ることが難しくなったかもしれません。しかし、ちいさな物でも、持って帰るといふ事が大切だと思います。私はこれから、心のすみにこの事を置いて「美しい福島」にしていきたいです。

「よりよい福島市にするために」

福島市立福島第一中学校

本 間 諒 大

みなさんは、福島市の自然は良いものだと思いますか。僕は良いものだと思います。しかし、それは完ぺきではないと思います。

この前、川を通ったとき、ふと川のほうを見てみると思いがけない光景が広がっていました。川の上には、缶やビニール袋、油などが浮いていました。前に見たときは、ゴミはあまり浮いていませんでした。この光景を目にして、とても信じられませんでした。

家に帰ってから、なぜあれほど川にゴミや油が浮いているのだろうとお父さんに聞いてみると、ゴミがたくさん流れているのは、主にポイ捨てが原因だと言っていました。川の横には、ランニングコースがあるので、そこを通っている人がポイ捨てなどをしていて考えられます。油が浮いている原因を聞くと、キッチンで料理などをす

るときに使う油などが原因だと言っていました。それが川に流れ出て、油が浮いていると考えられます。

このように、ポイ捨てなどをすると水は、汚れてしまいます。それ以前にポイ捨てなどは、やってはいけません。そこを通った人達も嫌な気持ちになると思います。

それは、川だけでなく、道路などでも同じことがいえます。みなさんも道端にペットボトルやアルミ缶がポイ捨てされていると嫌ですよ。そして僕達自身もポイ捨てなどは絶対にしないように心がけましょう。

しかし、福島市は、そんな悪いことだけでは、ありません。良い例もあります。

それは、福島市にある花見山です。花見山には、桜などのいろいろな花がたくさん咲いています。春には、遠くから見ても、きれいなピンク色が見えます。花見山に行ったとき駐車場にいろいろな地域のナンバープレートの車が停まっていました。山を登っているとき、たくさんのお客がいました。さらに、そのなかには、外国人の観光客も数多くいました。このような、き

れいな自然がこれからも続いてくれればいいなと思っています。

このように、福島市には良い例も悪い例もあります。良い例を残すことも難しいですが悪い例をなおすことは、かなり難しいと思います。一人一人が福島市の悪いところを知って、改善していけば、福島市の悪い福島市になると思います。

「空も水もきれいなみどりのまち」そんな福島を一人一人の意識で実現させたいです。

「福島 of 四季」

福島市立福島第二中学校

遠藤 慧

私の育った町、福島市。中学一年の今になり、福島 of 四季の素晴らしさに気づいた。

春、親子三代で造ってきたという花見山。私は毎年、ここに来ている。桜、菜の花、椿色とりどりの花が、とても美しい。サイダーを飲んでいる、小さな男の子、キュウリの一本漬けをかじっているお婆さん。青い空と、ピンクの桜に囲まれて、色々な人の声が聞こえてくる。人が活気づく、春。

夏、セミの音が少しうるさい時期。少しだけ、山に入るとある、アンナガーデン。そこには、外国のような建造物が並ぶ。夏の緑と合わせ、とても力強い。アイスクリーム、ピザという食べ物。置き物などを売っている、雑貨店、歩くだけでも、とてもワクワクしてくる。散歩するのも楽しいのだが、やはり何か食べたくなる。そこでおすすめなのが、ピザだ。夏にピザか、と

思うかもしれないが、外の席で食べるピザは最高だと私は思う。セミの音が響く、夏。秋、信夫山が、赤や黄色になってくる。

様々な年代の人でにぎわう、あづま運動公園。その広場といえるような所から、体育館までの道にある、イチヨウ並木。真っ黄色に染まった、イチヨウの美しさは、どこでも見られるものではないだろう。さらに、夜には、ライトアップもされ、さらに美しく、幻想的になる。そのイチヨウ並木の中、人がいない時に、自転車坂を降りていった時のことを私は忘れられない。少し、銀杏の独特なおいがするが、それも秋を感じさせる物の一つだと私は思っている。草木が、黄色や赤の葉を散らして、レッドカーペットを作る、秋。

冬、雪が降ってくる時期。朝、起きて、窓を見た時、雪で町が白くなっているのを見た時の高揚感、冬の朝の冷たい空気を忘れるようなものだった。小学生の時、雪の中を歩いていくことは、自然が与えてくれた楽しみだなど思った。学校の休み時間。クラスの人が、ほとんど校庭に出て、雪合戦、雪だるま作りをしていた。昨年は、あ

まり雪が降らなかったが、普段なら、雪が、道に十センチほどあることが多い。雪が固くなり、氷みたいになっている所を、転ばないように気をつけて、歩いていくのも、なんともいいない楽しさがある。町が、雪化粧をして、真っ白になる冬。

このように、福島市にいと、東京などの都会よりも、身近に、四季、自然を感じられる。これを読んだ皆様も、福島市に来て、福島市 of 四季を感じてみてはどうだろうか。

「福島のわらじまつり」

福島市立福島第二中学校

佐藤 大晃

僕は、小学校中学年のときに、「わらじまつり」に参加したことがあります。わらじまつりとは、日本一大きいわらじを、信夫山まで運ぶ、というもので、当時の僕は子供用の、といってもけっこう大きいわらじを、同級生といっしょに運びました。当時の僕は、わらじまつりをよく知りませんでした。みんなといっしょにわらじを運んでいる、という理由でうれしかったことを覚えています。でも、それより運び終わった後にもらったヤクルトの方がうれしかったことも覚えています。

そもそも、わらじまつりは、どのようにして始まったのでしょうか。わらじまつりの起源について少し調べました。

ところで、みなさんは、「暁まいり」というものを知っていますか？これは、江戸時代から続く、羽黒神社の仁王様のわらじ

を運ぶまつりです。この、歴史ある「暁まいり」を参考に、福島市と福島商工会議所が、市民の健脚を願って始めた夏祭りが、わらじまつりです。旧正月四日に、片方のわらじを運び、（暁まいり）八月にもう片方のわらじを運ぶ（わらじまつり）という形で、羽黒神社の仁王様のわらじがそろいます。

他にも、わらじまつりには、「わらじ踊り」や、「ダンシングソーダナイト」など、子供も楽しめるようなものも合わせて行われます。

前にも書いた通り、僕はわらじまつりに参加したことがあります。もう少し、その時のことを書きたいと思います。

僕が参加したものは、学校から学校へ、リレー形式でわらじを運ぶものでした。道路のまん中を通った時のあの快感は、今も忘れられません。「重いなあ」と思ってた運んでいた子供用のわらじよりも、大人がもっと大きいわらじを運んでいました。「僕もあれ運んでみたいなあ」と思いました。しかし、人とは思議な生き物で、「わらじを運んでいる」ことよりも、「テレビ局

の人達」に気が向いてしまい、思い出の四分の一くらいがテレビ局の人達になってしまいました。

残念ながら、今年のわらじまつりは、新型コロナウイルスの影響で、中止になってしまいました。コロナが落ち着けばまつりは復活すると思います。「日本一の大わらじ」を見ることができ、わらじまつりをぜひ見に来て下さい。

「福島市民憲章について」

福島市立福島第二中学校

赤 平 ひなた

私は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」と「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」ということについて考えました。

私が考える「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」は、事故や事件がなく、夜など少し暗いときでも安心して歩けるまちです。

そのためには、街灯を増やしたり、見守りの時間を長くするといったと思います。福島市では、四号線などの大きな道路の近くだと、車や人が夕方でもたくさん通ります。街灯や車のライトでてらされているので、明るくなっています。なので、いつでも安心して通行することができます。

けれど、そうではない所もあります。私に通っている通学路は、大きい道路から少しはなれた場所にあります。そこは、朝は

車がたくさん通っていますが、夕方になると人通りも少なく、街灯もあまりないので少し暗いです。見通しが悪い所もあり、車が急にきたら危ないと思います。

なので、そういう場所を減らせば、子供からお年寄りまで安心して生活できるようになると思います。他にも、信号や横断歩道を増やすなどをすれば、もっと安全に通ることができるようになると思います。

個人でできることは、もし何かあったときにどうするかを、家族で話しておくことだと思います。例えば、家に自分一人しかないときに具合が悪くなったらどうするかなど、具体的に考えておけば、その時にあせらずに行動できると思います。

私が考える「空も水もきれいなみどりのまち」は、川や町にごみがなく、空気もきれいで植物がたくさんある町だと思います。

福島市には、阿武隈川や信夫山があり、それ以外にもたくさん自然があります。でも、ときどき、ごみが落ちていたりするのを見ます。せつかくきれいで豊かな自然があるのに、私達のせいでよごされている

のは、とても残念です。

対策は、みんなでごみを拾う日をたくさんつくったり、ごみ箱を増やすなどをすればいいと思います。そうすれば、ごみが落ちていないことが少なくなり、自然がきれいなみどりのまちができると思います。

一人一人できることは、ごみが落ちていたら拾うことです。自分には関係ないことだと思わずに、自分から市民の一人として行動すればいいと思いました。

この二つのことを取り入れれば、福島市がさらに良くなるのだと思いました。

「もっとよりよい町にするため」

福島市立福島第二中学校

市川 愛羽

私は「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」と「空も水もきれいなみどりのまちづくり。」について書きます。

私が考えたのは「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」では事故をなくせるように危険な道路を減らすということです。建物で信号が見えないなど先が見えない道はとても危険だと思います。建物はこわせない場合があるので、道がガタガタして、つまづきやすい場所を減らすなどをすればよいと思います。そして「健康なまち。」では、自動車を使わずに、歩く日や、自転車の日をつくったらよいと思います。それとラジオ体操を毎月土曜日などに決めたら、みんな健康でいられると思います。

次に「空も水もきれいなみどりのまち。」について書きます。まずは水についてです。福島にはとてもきれいな清い流れの阿武隈

川があります。その川のきれいな状態を保つためには、福島県、福島市、全員がきれいにしようという心を持たないとだめだと思います。川でゴミを拾うのが大事だと思います。ゴミを拾うのが大事だということは川だけではありません。それは道も同じです。最近町を歩いていると食べ物の袋や、ペットボトルなどがたくさん落ちています。特にひどいなと思ったことがあります。私の通学路は高校生がたくさん通ります。そこにたくさんゴミが落ちていて、とてもいやな気持ちになります。なので、そこや町中にゴミ箱を多く設置してほしいです。それと緑がたくさんあるまちを目指していきたいです。そのためには、植物をたくさん植えて、自然をたくさん増やしたいです。今は森林ばっさいなどが多く見られます。私たちの町にはとてもきれいな信夫山があります。信夫山の植物はとてもきれいです。その信夫山がなくなってしまうのはとても悲しいです。なので、緑を大切にしようと思います。

以上のようにごみ箱を多く、設置して道や町中をきれいに美しくすればもっとよい

町になると思います。福島県民全員が意識すればゴミのないとてもきれいな町になれると思います。ゴミだけではなく、危険な道路をなくして、子供からおとしよりまで安全で健康なまちにできると、楽しく暮らせると思います。

「福島市民憲章について」

福島市立福島第二中学校

大橋 綺音

私の考えたことは「空も水もきれいなみどりのまち」についてです。

私の考える「空も水もきれいなみどりのまち」は、道にごみが落ちていなかったり、花や木などがたくさんある自然にあふれるまちです。ほかにも空気の汚染がない、や川にごみが落ちていないなど、考えられることはたくさんありますが、主にこの二つについて考えていきたいと思います。なぜ私がそう考えるのかというと、ごみが落ちていなかったりまちが自然にあふれていると暮らしている人たちがとても気持ちがいいと感じると思うからです。同時にこのみどりあふれるまちを守っていこうと、市民の人達が協力し合うこともできると思います。また、今地球が環境について問題になっているなかで、少しでもごみを出さないように、少しでもごみを減らす努力をしたり、

少しでもみどりを増やしたりすれば、環境問題の解決にもつながっていくことができるんじゃないかなと思います。

私は自然がたくさんあったり、ごみが落ちていないまちにするためには、「ゴミの分別を呼びかける」「ゴミ拾いをする」「木や花などの植物を植える」などのようなことをすればよいと思います。ゴミの分別を呼びかけるためにポスターを作ったり、チラシをくばって呼びかけていくのいいと思います。また、私達一人一人がゴミの分別を心がける事も大切だと思います。木や花などの植物を植えるためにはまず植える場所を確保する必要があるのです。そのためにゴミ拾いが必要だと思います。つまりゴミ拾いをする事で植物を植えることができたり、川がきれいになったりすることができるので、自然を増やすためにもゴミ拾いをする必要があるんじゃないかな、と思います。

これまで書いてきた福島市をよりよくするための方法を取り入れれば、福島市は自然あふれるみどり豊かなまちになると思います。また、福島市から始めることができます。

れば、県へとひろがっていくことができると思います。

私が提案したことは人と人が協力することのできるのだと思います。なので、「誰かがやってくれるだろう」「自分はやらなくてもいいだろう」ではなく、自分から進んで取り組み、人と関わり合い、みんなで協力して一つのまちをより良くしていくのではないかと思います。

「福島市が明るい町になるために」

福島市立福島第二中学校

笠井 萌衣

私は、五つのまちづくりについて考えました。

一つ目は、ゴミがなく空気がきれいなまちを作ることです。このことを解決するためには、川や海のところにたくさんゴミ箱を作ったり、ゴミを入れると勝手に分別してくれるゴミ箱などを作ることが、良いと思います。こうすることで、空気もきれいになると思います。

二つ目は、子どもを預ける施設や文化を楽しむことができる施設を作ることです。子どもを預ける施設は、面どうを見てもう人がたくさん欲しいです。なので、市内に募集ができる箱を作ると良いと思います。文化を楽しむ施設は、市内にあるのは古いのが、多いので、工事をして、外見を人を寄せつける色にしたり、自動で動く物を作ると良いと思います。

三つ目は、お年寄りが重そうな荷物を自分から進んで持つてあげることです。市内では、なかなか自分から助けてあげることができていない人が多いので、お年寄り専用のベンチなどを作ること、そのベンチに座っている人を助けることで前よりは、進んでできると思います。また、お年寄り以外にも、たくさん助けることで、福島市内の中でも、仲が深まり、明るく、元気な町になると思います。

四つ目は、みんなにきまりをしつかり伝え、安全な町を作ることです。最近、車が通っていないからと言って、赤信号で渡っていたりしているの、きまりをしつかり伝えたいです。きまりを伝えるためには、看板や音声で、みんなに聞こえるように、見えるようにすることです。そうすることで、赤信号で道路を渡ったりすることがあまりなくなり、みんなが安全で安心することができると思います。

五つ目は、子どもやお年寄りが通る時は、車が待っていてあげることです。今までは、ずっとは待ちきれず、だいたい行った所で、車が通っています。それでは、体に少し触

れてしまうことが、あるかも知れません。なので、お年寄りや子供が通るときは、お知らせの流れるボタンを作ったり、青信号の時間を伸ばすと、良いと思います。そうすることで、福島市民が、安全に暮らせて、良い環境になると思います。

これまで書いてきた、福島市をよりよくするためのやり方を取り入れていけば、みんなが仲良く、安全・安心できれいな町になり、暮らしやすくなり、とても良いと思います。

「新しい町をつくるために」

福島市立福島第二中学校

藪内 悠大

僕は、親切で愛情あふれるまちづくりと空も水もキレイなみどりのまちづくりについて自分の考えをかきます。

僕の考えは、電車やバスなどで老人の方や体の不自由な人がいたり途中から乗車してきたりしたら積極的に席をゆずる事のできる町にしていきたいです。これを当たり前にするためには、つねに周りを見ながら生活をし、相手の気持ちを考えることが大事だと思っています。席をゆずるということは、周りを見なければなりません。それに気付けても実行しなければ意味がありません。だから、自分も年をとったら、体が不自由だったりと相手の立場になって考えれば実行もできると思います。あとはドアなどに呼びかけるようなポスターをはったりアナウンスで呼びかけたりすれば、その場で気付き実行できると思います。その他にも、

あいさつを元気にすること、人への愛情だと思っています。あいさつを元気にすればされた側も、した側も気持ちがよくなり、だんだんと親しくなっていくと思うからです。僕は、あいさつは人と人との心を結ぶための一つだと思っています。なのであいさつがしっかりとできて、周りを見て相手の気持ちを考えながら生活していけば親切で愛情のあふれる町ができると思います。

二つ目の空も水もキレイな緑の町づくりについて僕は、川や海の水も青空のようなキレイさで緑の自然が豊かな町にしていきたいです。今の町の様子はゴミなどがたくさん落ちていて山や川がきたなくなっています。それはなぜおきるのか。それは目の前にゴミ箱があるにも関わらずゴミ箱に入れなかったり、ゴミ箱がないからと言って道路や川、山に捨てて行ってしまう人が居るからです。なのでゴミのポイ捨てをなくすために、市内のゴミ箱を増やしたり今も行っている所があるゴミ拾い活動を増やしたりする必要があると思います。ゴミをゴミ箱へ入れるという当たり前のことをでき

ない人を市で支えていけば、それに影響されてゴミをポイ捨てる人が減ると思います。それに親切で愛情のあふれる町づくりでもいった通りに、相手の気持ちを考えるということをして一人一人が意識しながら生活していけば空も水もキレイなみどりの町ができると思います。

これは全てこの先の未来にもつながると思います。なのでこの二つの町をつくるためにはさきほど言った四つのことをしっかりとやればできると思います。他の町をつくる時も相手の気持ちを考えることが大事だと思うのでこれを特に意識しながら生活していきたいです。

「私達が自ら出来ること」

福島市立福島第二中学校

稲 毛 愛音来

私は「空も水もきれいなみどりのまち」と「教育と文化を尊び希望に輝くまち」「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」この三つについての考えを書きます。なぜこの三つにしたかと言うところの福島が今よりも、もっとよりよいまちにするためには一番はその三つがいいかと思ったのでその三つにしました。

まず、「空も水もきれいなみどりのまち」についてです。私の理想は川や街にゴミがなく緑もありつつのきれいなまちです。そのために私達がする、できることは、川や街にポイ捨てをしない。あと、森林破かいを防ぐことだと私は思います。

次に、「教育と文化を尊び希望に輝くまち」についてです。私の理想は、文化の施設が多く皆が福島を知っている有名なまちです。そのために私達がする、でき

ることは、いろいろな人が福島にたいして施設の要望を書くことができると思います。

最後は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」についてです。最近の子どもは、あまり外で遊ばないで家でインターネットゲームなどで遊んでいるため、とても健康とはいえないです。おとしよりは、最近増えてきています。ですが、急な階段などはおとしよりに適切ではありません。そこで私が考えた理想のまちは二つあります。一つ目は、バリアフリーが多いまちです。二つ目は、子どもが楽しんで遊べる施設を外に作り多くの子が遊んでいるまちです。施設は施設でも、公園などの楽しんで遊べる施設です。私が考えた理想のまちにするために私達ができる、することは、子どもやおとしよりが困っている時は助けてあげるや福島に提案をしバリアフリーを増やすことができると思います。

私が提案した三つの案はどうでしたでしょうか、自分ができる事があったらぜひ行ってみてください。皆も自分出来る事を自分自ら考えてみてはどうでしょう

か。私が紹介した、「空も水もきれいなみどりのまち」「教育と文化を尊び希望に輝くまち」「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」の他にも、「親切で愛情あふれるまち」「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち」があります。なのでこの二つの事について考えるのもいいですね。家族の人ともいっしょに出来ることを考え、実際に考えたことを行ってみてみましょう。

「図書館をよくするために」

福島市立福島第二中学校

吉田 律

僕は「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」について考えました。三つ考えを紹介します。

話すのは図書館についてです。福島には県立図書館があります。僕の家近くには市立図書館もあります。今回は行ったことのある市立図書館について考えます。

僕は六年生の時の夏休みに図書館で課題をやっていました。館内には「走らないで。」や、「うるさくしないで。」のような看板があったので集中して勉強できる。と思っていたのですが、大きめの声で笑っている女の子や、走っている一年生ぐらいの子がいました。その子たちは親に注意されてやめました。少しの人が帰っていました。そしてその親子達が帰る時に店員さんに注意されていたように見えました。僕はその場の空気が重くなったように感じました。

このような経験から「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」をもとに自分の考えを出してみました。

一つ目はきまりをもっと考えて、少しだけ罰をあたえるということです。例としていうと、他客が不快に思う行動をとらない。ということや、罰として何週間出入禁止とすることを取入れたらよいと思います。そうすればきまりを守る人が増え、帰っていつてしまう人も減ると思います。そうすれば店員さんも楽しく働けると思います。

二つ目は、サービスなどを企画して客を増加させるということです。初めて来た客だったら三十冊まで好きなだけ借りれるなどや、十回目、二十回目、三十回目といった来館日には、三十冊まで好きなように借りていけるなどというサービス精神のある店にしたらよいと思います。このようなことをすればお客さんが増加して、図書館が活性化していくと思います。

三つ目は、店員を増やす、ということです。カウンターに店員を配置するのは当然

り前ですが、カウンターから見て目の届かないところはあると思います。なので本を整理する人や、棚清掃をする人を置き、見張りや注意をもらうようにすると良いと思います。こうすることで、すぐにめいわくな人が減り楽しい図書館、きれいな図書館になっていくと思います。

このような考えが「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」に当てはまるのなかと思いました。考えるだけではなくて、自ら実行していきたいと思います。

「活かそう地域のスローガン」

福島市立福島第三中学校

五 島 美 空

私の母校は福島市立福島第三小学校です。学校の先生や学年がひとつになって勉強や学校行事の運動会、研究公開、歌声集会など、小学校では小学校でしか出来ないたくさんさんの学びや思い出を作ってきました。

卒業を間近に控えた今年二月のことで、新型コロナウイルスのニュースが度々、テレビで放送されるようになり、どこからともなく「もしかすると卒業式ができなくなるかもしれない」という噂が聞こえてきました。そして三月三日、担任の先生から臨時休校の話がありました。その時の私の気持ちは、コロナウイルスに感染する危険性よりも、明日からの学校生活が、卒業式が、これからの生活はどうなるのだろうかという悲しさとショックと不安が混じった、今までに感じたことのない気持ちになって

いました。

新型コロナウイルスは、外国から日本に上陸し、国内でも感染者数が一万人を超え、あつという間に、私達が生活する福島市にも感染者が確認されるようになりました。なんとか卒業式や入学式は行うことが出来ました。今も不安や恐怖は消えません。

ある日、家族との会話で福島市の鼓笛パレードが中止になったことを知りました。私は、今の六年生が私達の卒業式と同じように、学校行事が中止や延期になって悲しさやショックを同じように感じているのだろうと思うと同時に、社会全体がそういう状況であることを受け止め、私はこれまで、学んだことを活かしてこの状況を乗り越える方法はないものかと考えた結果、第三小学校の教訓である、「愛・誠・勇」という教訓でした。愛とは、友達や家族を思いやる心、誠とは、人に対して誠実に関わる気持ちや姿勢、勇とは勇気をもって最後まで諦めずにどんなことにもチャレンジしていくこと、を私は学んできました。

この三つのキーワードが重なれば、新型コロナウイルスだけでなく、いじめも、差

別も無くなり、子供やお年寄り、障がいのある人もない人も、今よりも安心して生活できるようになると感じます。私はこのように考えましたが、大事なものは、それぞれの人達が学校や地域で一緒に取り組んでいる身近にあるスローガンを、今の状況に当てはめて生活していくことを意識することで、困難な状況を乗り越える大きなヒントになるのではないかと私は思います。誰もが住み慣れた地域で安心して生活していただけるように、まずは、自分で実践したり人に伝えていくことから始めてみたいと思います。

「親切で愛情あふれる所に

するためには」

福島市立渡利中学校

加藤 帆乃佳

私は、福島市をだれにでも親切に出来るような愛情あふれる所にしたいと思っています。今、福島市では、親切に声をかけていたり手伝ったりしている人は少ないと思います。その理由は、いろいろありますが特に「いそがしい」というのが理由だと思います。そんな中でも親切にできるような人を多くするためには、どうすれば良いのでしょうか。

まず、親切にする前に声をかけるのにていこうする人が多いと思います。だから、だれでも声をかけやすいような環境をつくる事が大切だと思います。そのために、呼びかけなどをしてやりやすくすることが良いと思います。次に、声をかけた後に、どう対応するかです。時間がないのに、時間のかかるたいへんな事をたのまれるといや

で、次はもうしなくなってしまうと、また人が減ってしまうので、自分も時間がなくて助けてあげられない時は、たとえば駅だったら、

「駅の人があの所らへんにいるので行ってみるといいですよ。」

など、工夫をすることで相手も声をかけた方もほっこりして、声をかけた方は

「人を助けることは、いい事なんだ。」

と思って、相手は、

「人に助けてもらうと助かるな。自分もほかの人に親切にしよう。」

と、声をかけた方も相手も工夫をするだけでいい方向にむいていいと思います。

このようないい環境をつくるには、一人一人の意識が必要だと思います。だから、私はこれからは、できる限りこまっている人がいたら積極的に声をかけることを意識して、相手への思いやりも忘れずに、工夫して相手も声をかけた方もほっこりできるように、自分で努力をしていきたいです。また、私がほかの人に助けてもらうことがあるとしたら、しっかりお礼をしたいと思っています。このようにして、福島市をだれに

でも親切に出来るような愛情あふれる所にしていきたいです。

「一人一人が笑顔になる町に

するには」

福島市立渡利中学校

鈴木 孝 奈

私達が住んでいる福島市には、子供からお年寄りまで、たくさんの方が住んでいます。ですが、福島市民憲章の「親切で愛情あふれるまち」になっているか、なるためにしたら、どうしたらよいかを考えていかなければいけません。

福島市の現状は、お年寄りの人から子供が楽しく暮らしていて、交通関係でも、お年寄りや子供はもちろん、私たち中学生にまで、車のドライバーの方は、点滅信号を渡る時にもゆずってくださったりしてくださいます。私もゆずってもらった時には、礼をして進んだり、車にゆずったりと、自分が今できる親切を考え、実行しています。ですが、学校の人間関係などで、たくさん悩んでいる人はたくさんいるというのが現状です。

今の現状をどう変えていけばいいのかを自分なりに考えてみました。

一つ目は、相手の事をたくさん知ることです。こういうことをされたら嫌というのは誰にでもあると思います。それを理解して、接していかなければなりません。そして、あんまり関わりのないお年寄りのことも知っていかなければなりません。例えば、行動に少し時間がかかってしまうなど、他にもあります。なので、自分が接する相手を理解して、その人に合った親切をしていくことが大切だと思います。

二つ目は、普段から明るく笑顔で接することです。一人が明るければ周りが明るくなると思います。そして、明るい、自分が嫌だなと思うことも楽しくなると思います。なので、普段から明るく人と接することが大切だと思います。

三つ目は、親切を心がけるということです。誰でも、親切をしてもらうと、うれしいです。これは、誰もがそうだと思います。親切は、ちょっとしたことでいいので、親切をするということが大切だと思います。

「親切で愛情あふれるまち」になるには少し時間がかかると思います。相手のことを理解することが必要で、そのためには努力をしなければなりません。ですが、一人一人が努力をして、親切をするのがあたりまえになるような福島市にしていきたいです。

「情けは人のためならず」

福島市立渡利中学校

大内 悠生

私にはこんな経験がある。

公園のすべり台から落ちて泣いている小さな子に声をかけてあげられなかったのだ。私は驚き、心配はしたが行動を起こせなかった。

急なことだったのでなかなか勇気が出ず、他の人が助けに来るのを待つばかりだった。

私は福島市民憲章の「親切で愛情あふれるまち」という項目を知ってこの出来事を思い出し、声をかけた方が良かったかなと改めて思った。そして、その子を助けた人はとても正義感が強く、私は純粹にいい人だなと感じた。

私は最近道德の授業で親切について考えた。親切とは困っている人に手を差し伸べる事だ。でも、人に良い事をするときその心がめぐりいつか自分が困っているとき誰か

に助けてもらえる、という事も分かった。

良い事をすれば誰だって気持ちが悪くなるもの。困っている人がいたとき、助けあげられる親切な人が福島にもっと増えるといいなと思う。

しかし親切とは困っている人がいないと成り立たないのか。

私はそうは思わない。実際にその場に困っている人がいなくても、誰も見ていなくても親切はできると思う。

例えばゴミが落ちていたとき。直接助けを求めているわけではないが、ゴミを拾い回収したら、より一層きれいな町になり気持ちも晴れるはずだ。逆にこれを見過ごしにしてしまったら、なんだか心にもやもやが残ってすっきりしないだろう。

他にもこのような事はあると思う。倒れてしまった自転車を立て直したり、清々しい挨拶をする事もそうかもしれない。

私は身の回りに私にもできそうな親切がたくさんある事に気づき、自分にもより良い福島をつくり上げていくお手伝いができそうな気がしてうれしい気持ちになった。

このうれしい気持ちがたくさんの人

を結ぶのだとよく分かった。

「情けは人のためならず」ということわざがあるが親切とは本当にその通りだと思った。私も自分にできる事を一つ一つこなして困っている人を見かけたら温かい心で手を貸す事のできる人になりたいと強く思った。

そしてたくさんの人と、その心の手を繋いで大好きなこの町をもっともと良い町にしたい。

「美しい自然であふれる

『ふくしま』へ」

福島市立渡利中学校

坂本 藍

私の住んでいる町には、花見山や弁天山、阿武隈川などの自然がたくさんあります。今年は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため花見山への客入りが中止になってしまいました。しかし、今年も桜が満開に咲き、コロナウイルスで不安な気持ちを明るく、元気にしてくれました。また、渡利には、歩道のわきに花だんがあるなど、渡利の町に彩を加えてくれます。

このように、自然はなくてはならない存在です。そのため、自然を守り大切にしていかなくはなりません。そこで私は、日々の生活の中でできることを四つ考えました。

一つ目は、ゴミをポイ捨てしないことです。当たり前のことだと思っている人もいるかもしれませんが。しかし、タバコの吸い

殻や食べ物の袋や容器など、捨てられているところをよく見ます。そして、ポイ捨ては、私たちにも影響を与えます。例えば、小さい子供が、捨てられたゴミに触れ、ケガや誤飲をしてしまうなどの危険があります。だから、ポイ捨ては、本当にやらないでほしいです。

二つ目は、積極的にゴミを拾うことです。私は、小学生の頃、阿武隈川のゴミ拾いをしました。河原には、ビニール袋や発泡スチロールのトレイ、雑誌や新聞紙などが捨ててありました。川には、サケなどの魚が住んでいます。それで、ゴミは生物たちにも影響を与えます。また、ゴミが多くあると、鳥や魚が、渡利へもどってきてくれるのが心配です。しかし、私たちが、ゴミを見つけたときに拾うことで、少しでもゴミを減らすことができるのではないかと思います。

三つ目は、油や洗剤を排水口に流す量を減らすことです。川へ大量の油や洗剤が流れると、川が汚れ、川に住む魚が減ってしまいます。そのため、油を使用したときは紙でふきとったり、洗剤の使用量を減らし

たりするなどして、心がけてほしいです。

四つ目は、自分でも、木や花などの植物を育てることです。育ててみることで、自然の大切さなどを知ることができ、一人一人が行うことで、木や花でいっぱいの美しい町になると思います。

このような心がけをみんなですること
で、美しい自然であふれる明るい町をつくる
ことができます。そのようなところに福
島もなっていけばいいと思います。

「自然や環境の大切さ」

福島市立渡利中学校

平 栗 夢 香

私達が住んでいる、福島市の環境は、もつと良くなれると思います。

今の福島市は、ぱっと見た感じでは、きれいな環境に見えますが、人があまり見えない所や河川には、ゴミがたくさんあります。実際、私の家の近くの阿武隈川の所にも、川の増水によって流されてきたゴミなどが、たまっていたり、もしかしたら誰かが捨てたゴミもあるかもしれません。また、人が多い駅周辺にも、たまにゴミが落ちています。私は、ゴミが落ちたりしていると、どうしてゴミを捨てるのだろう？と思います。ゴミをその辺に捨てても、環境が汚染するだけで、良いことはありません。

水の場合、川や海がありますが、水もきれいにしなくてはなりません。例えば、食事使った食器が汚れているとしたら、その分の洗剤の量も増えて水が汚染してしま

います。水の汚染を少しでも防ぐのなら、汚れた食器をティッシュや新聞紙で拭き取ると、洗剤の量も減らすことができ、水の汚染を防げます。

このように、環境汚染の影響では、環境だけでなく動物や魚などの住みづらい環境になってしまいます。

まちなどの美しい環境については、学校や駅周辺は、花がいっぱい咲いていたり、木が植えてありますが、家庭で、植物や花を育てている所は少ないと思います。花は、いい香りがしたり、心が癒やされたりするので、とてもいいです。

今までの事をまとめると、一つ目は、ゴミはその辺にポイ捨てしないこと。二つ目は、洗剤の量などを最低限にとどめて使うこと。三つ目は、環境汚染で生き物達の住みづらい環境にしないこと。四つ目は、まちや家庭を花いっぱい、緑いっぱいにすること。五つ目は、自然を愛し、大切にすること。私は、この事の中から、自分たちで、出来る取り組みをしていけたらいいなと思っています。

そして、一人でも多くの取り組みが、福

島市の明るい未来をつくれると願っています。

「福島 of 自然」

福島市立渡利中学校

眞 島 美 里

私は幼稚園の年長の夏に福島に引っ越して来ました。小学校に入学すると、遠足や校外学習などで花見山に行くことがこう例となっていました。

花見山には、わざわざ花を見に、県外からはもちろん、外国からお客さんがやってきます。春は特に、空の青さとたくさん花の色でとてもキレイです。

そんな花見山も、大勢の人に守られていることを知りました。今では後けい者のいない花木農家さんもいて、そういう人達の支援をしている人達がいることも知りました。今となつては高れい化が進み、手入れを出来ずにいた花たちも、たくさんサポートがあつて昔のようにきれいに咲きほこるようになったと思います。

また、福島にはあぶくま川もあります。私は、学校の授業でサケの稚魚放流や水質

調査をしたことがあります。

サケは母子帰をします。産卵のためにわざわざ母なる川へともどつてくるのです。私は、それをとて不思議に思っています。川のおいを記おくしてもどつてくるなんて、私たちでは想像もつかないほど不思議な世界だと思っています。

そんなあぶくま川も、やはりサポートされて流れています。私は学校の授業であぶくま川のごみひろいをしたことがあります。パツと見ただけでもごみがけつこう落ちてゐるのが分かりました。拾い集めていくにつれペットボトルやビン、まさかのつぶれたタイヤまで見つけました。しかし、五、六十人でやつて疲れていることをボランティアの方々は十、二十人でごみひろいをしてゐるのです。私は、それを聞いてとても驚き、本当に苦労しているんだなあ、と思いました。

自然破壊が問題になつてゐる中、私たちにできることを考え、簡単なことでもいいから実践してみることが大切だと思いました。未来でもこの自然を見れるように願つて、できることからやつていこうと思ひ

ます。

「自分から誰にでも親切を」

福島市立渡利中学校

菊地 結奈

私が朝、学校に行く途中には、地域の人
がランニングをしていたり、草むしりをし
ていたりします。みなさんは、地域のその
ような人に、自分から進んで挨拶していま
すか。私は少しためらいを感じ、挨拶をさ
れたら返す、という事になってしまいます。
私は、挨拶は地域の人への親切心が表れる
と思っています。

挨拶が多い町は親切で愛情あふれるま
ち、だと思っています。ですが、進んで挨拶を
する人はあまりみかけません。私の住んで
いる渡利地区でも、近所の人に挨拶をする
ような人はあまり見ません。みんなが挨拶
をしないのは誰も挨拶をしないからだと思
えました。最近部活で帰りが遅く、あまり
見ませんが、私が小学生の時には帰り道に
「見守り隊」の人がいました。その人たち
は私達の安全を見守ると同時に、

「おかえり。今日は暑かったね。」

などと声をかけてくれていました。私も挨
拶が返しやすかったし、慣れてくると自分
から

「こんにちは。」

と挨拶できるようになっていました。他の
学校帰りの人も見守り隊の人には挨拶をし
ていました。誰かが挨拶をすればみんな挨
拶をします。

しかし、問題が二つあります。一つ目は、
最初に挨拶をするのは誰か、という事です。
誰も挨拶しない時に、自分から挨拶するの
は勇気がいると思います。でも、こう考え
たのは私なので私から挨拶しようと思いま
す。最近、私は朝、地域の人に自分から挨
拶しています。もう一つの問題は、私だけ
挨拶しても、返してもらえなかったら意味
がない、という事です。私が挨拶をすると、
ほとんどの人が笑顔で挨拶を返してくれま
す。しかし、たまに会釈しかしてくれない
人がいます。挨拶をした人も悲しいし、そ
のまま立ち去ることも気まずいです。しっ
かり返してほしいし、こうやって地域の人
で協力して挨拶をふやしていくことで、私

達の理想のまちに近づくのではないでしょ
うか。

最近は新型コロナウイルスで外出が制限
され、久々に外に出られた時は嬉しかった
と思います。家族以外の人に会うのも久し
ぶりな人もいると思います。そんな時は人
に明るく優しい態度で接し、誰にでも、自
分にできる親切を実行していきたいでしょう。
明るく挨拶をして、今よりもっと親切で愛
情あふれるまちに出来るよう、頑張りたい
でしょう。

「緑豊かな福島であるために」

福島市立渡利中学校

佐藤 結衣

「空も水もきれいなみどりのまち」が福島市民憲章の一つにある。

福島の川や山は美しく、たくさんの木が生いしげっている。空は青く澄んでおり、福島はとても緑豊かな町だと私は思う。しかし、道を歩いていると、たばこやビニール袋などのゴミが捨てられているのをよく見かける。いくら緑豊かな町であっても、ゴミを見かけると、いい気分にはならないはずだ。さらに、今は大丈夫であっても、ポイ捨てなどが増えるといずれ、福島の自然を壊すことにつながってしまうかもしれない。ポイ捨てされるゴミの量は、年々増えてきているのではないかと私は思う。それを防ぐために私達にできることはたくさんあるはずだ。

私は、ポイ捨てをしないように「自分自身を意識すること」が最も大切なことだと

思う。みなさんも私達にできる取り組みを考えた時に、この考えが真っ先に思いつくのではないだろうか。しかし、実際にこの行動が私達には取れているだろうか。取ろうとしているだろうか。

「めんどくさいからいいや。」

「まあ、大丈夫でしょ。」

という軽い気持ちで、平気な顔をして、普通に道ばたにゴミを捨てている人は何人もいるのではないだろうか。

いくら誰かがゴミを拾っても、誰かがゴミを捨て続ければ、永遠にゴミが無くなることはない。「自分自身が意識する」ということは、口で言うのは簡単なことだが、実際に行動していくことはとても難しいことだと思う。しかし、一人一人が意識していくことで、ゴミの量はいくらでも減らすことができる。

また、ゴミを見つけたら拾うことも、とても大切なことだと私は思う。誰が捨てたのか分からないゴミをなぜ拾わなければならないのだろう。と思う時も、もちろんあるだろう。私にだって、そう思う時がある。しかし、ゴミが目の前に落ちているのに見

て見ぬ振りをするより、拾った方が絶対にスカッとした気分になれるはずだ。また、自分だけでなく、ゴミのない風景を見た人も晴れやかな気持ちになることができるだろう。

私は、緑豊かな福島が大好きだ。どんなささいなことでもいい。その一つの行動が、福島が緑豊かであり続けることにつながっていくと思う。私達にできることは、「意識する」「ゴミをポイ捨てしない」「ゴミを拾う」のほかにも、まだたくさんあるはずだ。一人一人が意識していくことによって、いつまでも自然あふれる福島であってほしい。

「みんなが住みよいまちづくり」

福島市立清水中学校

倉 島 秀 悟

僕は、福島市民憲章の中で、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」が、一番印象に残りました。理由は、四つあります。

一つ目は、安全なまちをつくれば、安心して暮らせるからです。僕は車に乗っていたとき、赤信号になっているのに止まらずスピードを出して曲がってきた車とぶつかりそうになり、とてもこわくて、危ないと思いました。もし、歩行者がいたら、事故が起きていたかもしれません。

二つ目は、歩行者を優先してくれる人が多いからです。一つ目の理由であげた事よりも多く経験しています。僕が登下校中に、信号のない道の歩道を歩いているときや、コンビニエンスストアの駐車場の前を歩いているとき、車が道路に出ようとしても、歩行者がいると、先にとうぞと合図

をしてくれて、ゆずってくれます。今、あげたような人がたくさんいると、もっと安全になると思いました。

三つ目は、体を動かしている人が多いからです。僕のおじいちゃんは、ダンスと卓球をしていて、とても元気です。また、お父さんと川の方にサイクリングに行くと、ジョギングや散歩をしている人がいて、若い人から高齢者までいます。運動をすると、気持ちよくて、体力もつくので、健康になっていいと思います。

四つ目は、交通ルールを知ってもらう取り組みをしているからです。僕が通っていた清水小学校では、「交通安全母の会」という方々が来てくださり、信号の色の説明や交通安全の標語、自転車の乗り方などを教えてくれます。また、委嘱状というものをわたし、「家庭の交通安全推進員」に委嘱されます。交通安全推進員になったら、交通のきまりを守りみんなのお手本になることや、シートベルトを着用すること、みんなに交通のきまりを守るよう声をかけることを実行しなければなりません。このような取り組みをすると、みんなが責任感を

もち、交通のきまりを守ろうという意識が高まってくると思います。

これまであげたようなことをみんなで取り組み、**「市民一人ひとりが心をあわせ、快適で明るく住みよいまちづくり」**を進めることができ、**「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」**をつくることができます。

「市民みんなが

あたりまえのことを」

福島市立清水中学校

田 中 心 埜

私は五つの福島市民憲章を見た時、「空も水もきれいなみどりのまち」という憲章が目にとまりました。きれいなまちをつくりあげるには、少ない人達の努力ではなく福島市民全員が努力することで実現できると思います。

私はこの福島が、ごみのないまちで、緑のあるまちになってほしいと思っています。

福島市民憲章は、平和で住みよいまちをつくるために定められたことを知って、私なりにごみのない、緑のあるまちをつくりあげるためには具体的にどのようなことをすれば良いのかを考えてみました。私が考えたのは、みんながポイ捨てをしないことと、公園の緑を大切にしたり家で植物を育ててみたりすることです。そうするこ

とで、きれいで緑のあるまちがつけれると思います。

今は、道にごみが落ちていることがよくあります。道にごみが落ちていると、私は少し残念な気持ちになります。しかし、ごみが落ちていない、きれいな道だと、とても気持ちがいいです。これは私だけでなく、市民のみんながそうだと思うので全員があたりまえのことができれば住みよくきれいな福島になると思います。

この、清水中学校があるところには、植物がたくさんあって、緑を大切にしていると思います。でも、駅のほうへ行くと大きな建物がたくさんあって植物があまりないように感じます。福島がどんどん発展していくのは嬉しいけど、植物がないのは少しさびしい感じがするので憲章にあるように、自然を大切にすることが必要です。

来年は東京オリンピックが開かれ、福島が会場になる競技もあります。そうしたら、外国の人が福島にもたくさん来ると思います。せっかく福島に来たのにごみが落ちていたら楽しい気持ちが台無しになってしまうので、緑がきれいな福島を見てほしいで

す。

私はごみが落ちていることなく、花などの植物がたくさんある福島になってほしいと思っています。そのためにはみんなができる、ポイ捨てをなくすことが、きれいな福島をつくる第一歩だと思います。ポイ捨てをしないのは、あたりまえのことだけに難しいことでもあります。でも、一人一人の意識がこの福島をつくっていきます。私も、きれいな福島になるように私にできることをやっていきます。

「綺麗な福島市にするために」

福島市立清水中学校

渡 邊 晴 斗

僕は、六年前に横浜から福島に引っ越してきました。

小学一年生だった僕は、引っ越して来た時に、自然豊かで空気が綺麗だと思っていた。ところがある日、飲みきったペットボトルや空き缶をゴミ箱に入れずに、公園のかたすみにポイ捨てをしている人を見かけました。その時僕は、ポイ捨てする悪い人もいるんだと思いました。

それから年月が流れ、福島に引っ越してきて六年。僕は中学生になりました。

中学生になった今、僕は初めて福島市民憲章があることを知りました。僕は、福島市民憲章のうちの一つ、『空も水もきれいなみどりのまち』という観点に着目して、いろいろなことを調べてみました。

僕は、テレビで国道沿いや、河川敷などでごみのポイ捨てが問題になっていること

を知りました。そこで、僕は国道沿いや河川敷などに落ちているごみが、環境に対してどのような悪影響を与えているのかを、調べてみました。

日本でよくポイ捨てされるたばこやペットボトル、空き缶といったごみは、雨で流されて、川に流れ込み、いずれ海へ漂流します。こういったごみは、「海ゴミ」と呼ばれ、日本の海岸に漂着するごみの総量は、年間約十五万トンといわれています。

こうしたごみなどは、海流に乗ってハワイなどの太平洋諸島やアメリカ西海岸に流れ着きます。

プラスチック類は動物の体内で消化されず、生分解しにくいため、ごみを食べてしまったアホウドリなどの野生動物を殺傷する一因にもなっています。

また、海底に沈んだごみが分解されずに残ってしまうことで、深刻な問題になっています。

海岸に漂着している物の中でも、たばこの吸殻が多く、海に漂着しているごみのおよそ一割を占めています。

このような環境への悪影響を改善するた

めには、どうしたらいいのでしょうか。それは、たばこの吸殻やペットボトル、空き缶といったごみのポイ捨てをやめることが大切です。

一人一人がポイ捨てをしないよう意識する事で、ごみが落ちていない綺麗で美しい福島市が創れるでしょう。

「六年間の安全に感謝を」

福島市立清水中学校

佐久間 ひかり

私が小学生の頃、一年生の時からお世話になっていた、交通ボランティアのおじいさんがいました。

おじいさんは、毎朝私たちが安全に横断歩道を渡れるように見守ってくれていました。学校行事があれば、「がんばってね。」校外学習があれば、「いつてらっしゃい。」と言ってくれていたことがすごく嬉しくて、毎朝、頑張ろうと思いました。

しかし、ある日の朝、横断歩道に行くと、おじいさんがいませんでした。私は、心配になりました。おじいさんは若いというわけではありませんでしたが、すごく元気な人だったからです。だからといって、おじいさんになにかあったという確証はありませんでしたが、心配でしかたありませんでした。

数日経って、横断歩道に行くと、おじい

さんが立っていました。「よかった。元氣だ。」と心の中で思いました。おじいさんに話を聞くと、「軽いかぜだった。」と言われてやっと落ち着いた気がしました。

その時はなぜそんなに心配になったんだろうと思いましたが、今思い返してみると毎朝、おじいさんに元気づけられて、優しさに触れていたからかなと思います。

私が五年生になり、委員会などの仕事で朝、早く学校に行くことが多くなり、おじいさんに会うことが少なくなってしまいました。それでも、会った時にはいつものようにあいさつをしてくれて、顔を見れば毎回思い出してくれました。その度に、私は嬉しくて、毎朝おじいさんがいるか楽しみにしていました。

六年生になると、五年生の時よりもっと会う日が少なくなっていました。一週間に一回、会うか会わないかくらいでした。それでも、会った時には、元気にあいさつをして、横断歩道をわたっていました。

卒業式の日、新型コロナウイルスの影響を受けて、卒業式は縮小されることになり、おじいさんは来ませんでした。三月上旬か

ら急に臨時休校となり、おじいさんにお別れをきちんと言えずに中学校に入学することとなりました。

今思えば、私たちが事故もなく安全に六年間学校に通えたのはおじいさんをふくめる、交通ボランティアの方々がいたからなんだなと思います。福島市には、自分だけでなく、お年よりの方や子ども達のために役に立とうとしている人がたくさんいるんだなと思いました。

「他人事と思わず」

福島市立清水中学校

那 須 瑛 太

このコンクールで初めて「福島市民憲章」というものを知った。そしてその中で空も水もきれいなみどりのまちという一文が気になり、これはもつと自分が心に刻みこむべきものだなと思った。

公園や川などの近くにいくと、ときどき空き缶などが落ちているのを見る。

町の美観を損なうようなことをなんでするんだろう。ひどい人がいるなあ。とは思うが、別に拾おうともせず、他の誰かや風がどうにかするだろうと思っっている自分がある。

とある日。海岸がゴミで汚れているというような内容の新聞記事に、ちよつとした興味をもつて、パソコンで調べてみたことがある。そこで出て来た写真は、僕の想像をはるかに上まわるひどいものだった。そこらじゅうに広がるゴミ、ゴミ、ゴミ。ペッ

トボトルにゴミ袋、何かの食品トレイ。

これをどうにかするのに一体どれくらいの月日がかかるのかとゾツとするほどだった。

しかし、そんなものを見ても他県の話だし別に自分には関係がない、ここからではどうにもできないしと他人事と思っっている。

また、プラスチックゴミの影響により、海ガメが減っているなどの環境破壊に関するニュースを見ても自分はそんなことやっていないもんな、ゴミを捨てている人はひどいなあ、拾っている人は偉いなあと、あくまで自分には関係ないと浅い思いしか出てこず、自分の家の敷地内にゴミが入つてようやく少し怒りはするがまあいいか、と思ってしまう。

そんなひどく小さなことしか考えていない自分に気づきつつも、別に人に迷惑をかけているわけでもないいいよなと思っっていた。

だから、この福島市民憲章の空も水もきれいなみどりのまちという文を読んだときにドキッとした。

また、この文を読んで僕と同じくドキッとしてしまった人もいるのではないかと思う。

僕の友達には下校中に道にゴミが落ちていると、拾ってバッグの中に入れ、家に持ち帰って捨てるということをしている人がいる。

僕はそれを見るたびに偉いけどちょっと変だな、酔狂なことやっていると思っていた。きつとこれは自分は拾おうとみじんも思わないことの罪悪感を消すために思っていたのだろう。

僕は恥じるべきことに、この文章を書いて、初めて自分のそんな思いに気付いた。今日から少しずつ変われたらいいなと思っている。

さあ、今日から何をしよう。小さなゴミでも拾ってみようか。

そしてあなたは今日何をしますか？

「優しさと笑顔あふれる福島県」

福島市立清水中学校

高 安 優

私は両親の仕事の都合で静岡県から、福島県に引っ越してきました。入学式初日、私は知らない人達ばかりでとっても不安でした。

それに新型コロナウイルスの影響によって清水中学校に通う事の少ない中、私は一生懸命、友達を作ろうと心に決めていました。しかし、知らない人に声をかける勇気が無かったため友達作りは、とても困難な事でした。

そんなある日、私がいつも通りに授業を受けていると、一人の女の子が話しかけてくれました。その子はとても優しい子でした。

私はその子のおかげで同じクラスの子や、ちがうクラスの子にも、自分から話しかけられるようになりました。

今でも私は、話しかけてくれた子にはと

ても感謝しています。

私が話しかけてくれた子にとっても感謝しているように、他の人に優しくする事によつて優しい人が増えるのではないかと思いい、私は人に接するときに、二つの事について心がけています。

まず一つ目です。一つ目は困っている人がいたら声をかけてあげる事です。

声をかける事によつて、私のように声をかけるのがはずかしい！という人や、知らない人達ばかりで怖い！という人の手助けができて、私もうれしいし、それに福島県の人達も感謝の気持ちを持って人に優しくできると思ったからです。

そして二つ目です。二つ目は年齢関係なく人に対して優しくする事です。

そうする事によつて、相手も幸せな気持ちになるし、私も幸せな気持ちになれるので、いいなと思いました。

例えば、おばあちゃんの荷物を持って助けてあげたり、電車やバスで自分より年齢が高い人が立っていたら、席をゆずってあげたりする事です。他にもたくさんあると思いますが、特に席を譲る事と、荷物を持つ

てあげてを日々、気を付けています。
この二つを多くの人がしっかり心がけると、きっと福島県は優しさと笑顔あふれる県になっていけるのではないかと思います。

「福島市をもっと良いところに」

福島市立清水中学校

佐々木 詩織

私は、福島市を、緑豊かできれいなところにしたいと思いました。福島市には、自然がきれいだという良いところがあります。しかし、私はたまに、川を通るときや、道を歩いているときに、ごみが捨てられているところを見ます。そのたびに、どうしてこんなことをする人がいるのだろうと嫌な気持ちになります。そこで、福島市をもっときれいでよいところになりたいと思い、そうするためには、どうすればよいのかを、二つ考えました。

まず一つ目は、ごみを道に捨てないということです。ごみを、ごみ箱に分別して捨てるのはめんどくさいと思う人もいるかもしれませんが。ですが、これは、きまりを守るといふ事にもつながる事だと思えます。私が見かけるのは、悪い事だけではありません。最近では、ボランティアなど

で、掃除をしてくれている人たちも見かけます。そのような人たちを見て、自分にも出来ることは、ごみを落とさないように気を付けることではないかなと考えました。

二つ目は、もっと緑を増やすということです。私は、木を植えるのが良いのではないかと考えました。私の家の近所には、大きな木がたくさんあります。ですが、町の中などには、大きな建物などができてきて、木が少なくなってきたのではないかなと思います。私は、最近建物を建てるための工事をしているところをよく見ます。そのため、木を切ることが、増えているのではないのでしょうか。このまま、どんどん木を切っていたら、いつか、木はなくなってしまうのではないかと、考えることもあります。そうならないようには、木を植えるなどをして、もっと緑を増やし、緑豊かで住みやすいところにすれば良いのではないかなと思いました。

私は、福島市を緑豊かできれいなところにするには、ごみを分別して捨てる、ごみを落とさないように気を付けることや、木を植えたりして緑を増やすなど、これから、

自分が福島市のために出来ることを、積極的にやっつけていこうと思いました。そして、福島市が、緑豊かで住みやすく、きれいな、今以上に良いところになるといいなと思いました。

「福島のためのまちづくり」

福島市立清水中学校

柴田 夏希

みなさんは、福島市をよりよいまちにするためにとり組んでいることはありますか。

私がよりよいまちづくりをするためにしていることは、あいさつです。学校への登下校などで会った近所の方々には、なるべく自分からあいさつを出来るようにがんばっています。その理由は、「親切で愛情あふれるまちづくり」をするためです。だれにでもやさしく親切にすることは、「親切で愛情あふれるまちづくり」につながるので心がけています。

福島市をよりよくするために、みなさんにもしてほしいことが二つあります。

一つ目は、「空も水もきれいなみどりのまちづくり」です。そのためには、川や道路、家の周りに落ちているごみ拾いや側溝の草むしり、掃除をすること、公園などの花や

木を大切にすることを心がけましょう。福島市には、みどりが多い信夫山と清い流れの阿武隈川があるので、「空も水もきれいなみどりのまちづくり」でPRすることが出来るからです。

二つ目は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちづくり」です。そのためには、メタボ率が低い県ランキングワースト三位以内に入らないようにすることを目標に、日常生活にスポーツやレクリエーション活動を進んで取り入れることが大切です。

この二つ以外にも、「教育と文化を尊び希望に輝くまちづくり」、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちづくり」、私が初めに言った、「空も水もきれいなみどりのまちづくり」に心がけるようにしたら、福島が今よりもよいまちになると思います。

私は、よりよいまちづくりの呼びかけだけでなく、この福島市民憲章があることを少しでも多くの市民に呼びかけることも必要だと思います。そうしたら、一人一人の市民の意見が分かって、よりよいまちづく

りにつながるからです。

福島市がよりよいまちになり、他の県に、誰でも分かりやすくPRができるようになるまで、様々なよりよいまちづくりへつながる活動に力をあわせて取り組んでいきましょう。

「愛情あふれる緑のまちを」

福島市立信陵中学校

菅野 結太

僕はこの福島市民憲章を見て目に留まったのが『空も水もきれいなみどりのまち』と『親切で愛情あふれるまち』という内容です。なぜなら、僕が以前体験したことで思い当たることがあったからです。

ぼくは、休日におばあちゃんの家に行くとき、必ず地域のおじいさん、おばあさんということがあります。それは公園の草むしりです。毎年行っていますが、毎年思うことがあります。それは、子供がいないということです。自分達を使う公園なのに、お年寄りの方達が草むしりをしているということにだんだん疑問を抱くようになっていきました。お年寄りは毎年三回以上草むしりを行っています。それは、地域への貢献だと僕は思いました。僕も清掃活動に参加し、公園をきれいにしていると、

「えらいね。毎年ありがとう。」

と、よく声をかけてもらったり、お茶をくれたりしてくれて、とてもうれしい気持ちになり、今考えればそれも、お年寄り達からの愛情なのかなと思いました。

また、僕のおじいちゃん達は、そのまま地域を歩つて地域のゴミ拾いもしていました。みなさんつかれているのに、歩道を歩つてゴミ拾いをしていました。僕も参加して歩つてみると、たくさんゴミが集まりました。道路がキレイになってとてもうれしかったし、また参加したいと心から思いました。

僕のおじいちゃんの家では、畑で野菜を作っています。夏になると畑がたくさんの色で輝いていて、畑を見ているととてもうれしくなります。収かくした野菜を地域の人達にも分けています。野菜を分けに行くおじいちゃんについていくと、みなさん喜んでくれます。何日かすると、

「これ、野菜のお返し。」

と、言つて配つた野菜で作つた料理を持って来てくれる人もたくさんいます。後は、地域の人達との心のつながりがとても大きいと毎回実感します。

おじいちゃんを見ていると、おじいちゃん達は地域の人達に感謝されることをたくさんしていると感じます。

僕は、このような体験を元に、福島市も、もつと地域の輪を広げて、公共の場所をみんなできれいにし、いろいろなことを地域の人々と協力して、緑輝く福島市を目指して、いけたら良いと考えました。僕は、これからも地域の人達に感謝の思いを忘れずに毎日の生活を過ごしたいと思っています。

「すてきなまちに」

福島市立信陵中学校

赤間 桜子

私達が住んでいる福島市は、みどりあふれる自然豊かな町だ。山々に囲まれ、美しい川をもつ。私は市民憲章の「空も水もきれいなみどりのまち」というテーマを見て、思いあたるのがいくつかあった。

小学生のころ、その日は土曜日で母は仕事は休みのはずだったが朝はやくからでかけていった。

「どこに行くの？」

と私が聞くと、母は

「おばあちゃん家の清そうの手伝い。この辺は月に一回ぐらい、清そうの日があってそれぞれ家の片づけをしたりするんだよ。」

と教えてくれた。その時の私は地域の行事などにはあまり関心がなく、「へえ」というだけで手伝おうとは思わなかった。だが今は、それはとても大事な事だと思うよ

うになった。生活していく上で住んでいる場所を清潔に保つことは大事な事だし、何より気持ちが良い。その清そうの日には、家の片づけだけでなく、家の前の落ち葉をはいたり、草むしりをしたり、道路に落ちているごみをひろったりしている方もいる。おかげで私達は、毎朝気持ち良く登校できているのだ。

また、私の地区では育成会ごとに「はいん回収」というのを行っている。その地区に住んでいる人は前日に、新聞紙やびん、かんなどを家の前に出す。そして次の日の朝、育成会の子ども達が回収するのだ。私も小学生のころは参加していた。だが中学生になってから参加する人はほとんどいないので、私も行かなくていいと思っていた。けれど、市民憲章のテーマを見て、ふと一つの出来事を思い出した。小学生のころ、イヤイヤ参加していたはいん回収のこと。私は内心面どうくさいなあと思っていたがら回収しに行くと、庭の手入れをしていたおばあさんが、手を止め、

「いつもありがとうねえ。」

とこちらにほほえみかけてくれた。私は、

「い、いえ!!全然です!!」

とあわてたせいで、大したことは言えなかった。初めて言われたその言葉はとてもうれしくて、来て良かったと思うことが出来たのだった。そのことを思い出すと、「行ってみようかな」と思うことが出来る。

私はこのことから考えたことがあった。例えば私のように、「ありがとう」という言葉のおかげでまた来ようと思い、はいん回収に参加すれば、少なからずこのまちはきれいになるだろう。これは「親切で愛情あふれる」行動から「空も水もきれいなみどりのまち」が出来ていると言っても過言ではないだろう。このように、私は市民憲章のテーマは全てつながっていると考えた。小さなことでもこのまちのための行動を続けていけば、いつかとてもすてきなまちになるだろう。

「愛情いっぱい私のまち」

福島市立信陵中学校

佐藤 菜伯子

私は、この地域はたくさんの人の愛情であふれていると思う。この福島市民憲章を考えたとき二つほど思い出したことがある。

一つ目は、小学校二年生のころ、放課後に友人と遊びに行こうと思い自転車走らせていたとき、自分の不注意で自転車から落ちてしまいケガをしてしまった。まだ幼かった私は、痛みでたくさん泣いていた。傷が痛くて声なんて出せたものじゃない。そう思っていたその時、一台の車が停車し中から若い女性の人が出てきたのだ。その女性は私に向かってきて、

「大丈夫？」

と声をかけてくれたのだ。そこから先は、自分でも覚えていない。だが、このことを思いうかべてみると心が温まるような気がした。あの時助けてくれた女性の方には、

今でもとても感謝している。

二つ目は、幼いころのことだ。私の自宅のとなりには、果物畑がある。毎年その季節になると、ももやりんごなどがたくさん実る。その光景を見ていると、ああ、もうそんな季節なのだなとしみじみ感じる事ができた。ある日、なにげなく自宅で過ごしていたとき、インターホンが鳴った。その日、私は母と過ごしていた。母が様子を見に行った。私も少し気になっていたの、ちよつとのぞいてみようと思い、げんかんから顔を出した。すると、親の前には果物畑の老夫婦がいたのだ。なんているのだろうと不思議に思い、しばらく観察していると老夫婦は、果物が入った袋を手渡ししていた。その日を境に老夫婦は毎年、その果物の時期に出荷できないものを渡してくれるのだ。その戴いた果物は、甘く果汁も出ていてとても美味しいのだ。だがそんなうれしい事はずっと続くわけなく。今年の春高齢化で畑がなくなってしまった。それは、悲しかったしさみしかった。しかし、その親切にして頂いたことを決して忘れることはないだろう。今も、こういった善意ある

行動は少なからずあるだろう。では、私たちはどうだろうか。

例えば、道ばたにケガをした子どもや高齢者の方がいるとする。私たちは、それを見てどのような行動を取るだろうか。周りに助けを呼んで、その間ケガ人の世話を最後まですることが出来るだろうか。最悪の場合その人を見捨てて見ぬふりをするだろうか。私は、そのような事は起きてほしくない。私を助けてくれた人や親切にしてくれた人の愛情をつむいでいきたい。今からでもいい、自分たちのもらった愛情を他の人から他の人へ伝えるようにして行けばよいのではないだろうか。

「僕にできること」

福島市立信陵中学校

菅野 智一

僕は、この「福島市民憲章」というテーマを見て身近でできることはなにかと考えました。そして、なにより福島市をどんな町にしたいかと考えたときに、「空も水もきれいなみどりのまち」にしたいなあと思いました。

僕の家は、四代続く農家です。主になしとりんごと米を作っています。ぼくは祖父から若いころ山をかいたくしたなしの話を何度も聞いています。そのときなぜ、そんな大変なことをわざわざしようと思ったのか、今ある土地だけではだめだったのかと思ってしまうしました。現在、僕の家まわりの農家を営んでいる人もどんな年をとり、後継者不足から、やめてしまう人が増えています。やむをえず、せつかくのくだものの木を切ってしまうところもよく見られるようになりました。僕は、祖父が切り

開いてくれたくだものの畑を終わらせることなく続けていきたいと思っています。

福島のかだものはとてもおいしいです。実がぎっしりつまつたさくらんぼ、甘い桃、蜜がたっぷり入ったりんご、ジューシーななし。とてもおいしいくだものが作れるのは、福島のおいしい空気と水があるからだと思います。

僕は幼いころから、このなしの収穫を手伝ってきました。畑に行くとかエルやセミのぬけがら、虫の声がする中、たくさん緑の木の周りを走るのが好きでした。

大きく育った、たくさんのかだものをかごにいれて祖父のところへもつていくと「いっぱいとれたなあ」と言って笑顔で喜んでくれます。そんな小さなことに、僕は、うれしくなります。僕は、祖父の笑顔で喜んでくれる姿をこれからもずっと見ていきたいと思っています。そのためにも、僕は、福島の自然を大切に、守っていかうとする気持ちを持つことが必要だと思います。僕に何ができるかを考えて、小さなことを続けていくことが大切だと思います。たとえば、空気をきれいにするために植物を

植えたり、学校や家で緑のカーテンをつくったりしたいと思っています。また、水をきれいにするために、家庭で油や洗剤をできるだけ流さないようにすることや水の無駄づかいをしないように心がけたいと思います。

福島環境を守することは、僕達家族を守ること、四代続いた農業を守ることにつながります。

僕達が、身近でできることを真剣に考えることで郷土に貢献していけると思います。

「『安全』それは…」

福島市立信陵中学校

菅 藤 匠 真

僕は、この作文を書くのは福島市のことであり、みんなのことでもある、この世の中の「安全」についてだ。

僕が思う「安全」はだれでも守ることができることだと思う。事故のニュースを見ると「この世から命が亡くなってしまったのか。」そう思うときが多い。一日どれだけの「命」が亡くなっているか分からない。けれど防げるはずだった「命」が亡くなったら普通に亡くなるより何十、何百、何千倍も遺族が悲しむだろう。だから守ってほしい。

僕の夢は「鉄道運転士」だ。小さい頃からあこがれていて、小さい頃から責任感が必要な仕事だとは知っている。だから一歩いやだった、この世に事故があることを。人生は思い出作りだ。長い人生、短い人生があったとして、だれもが思うだろう「長

い人生」の方がいいだろうと、一分一秒が思い出だから。

みんな「安全」で思うのは、「どうせ、気をつけりゃいんでしょ。」と簡単に考える人もいるだろう。だが僕が思う「安全」はそう単純ではないと思った。小学校から何回も事故を見ている。だが、その人が心配そうに警察や家族に電話をしている姿はすごくかわいそうだ。特に高齢者は。僕にもいつしよに暮らしている祖父がいて、僕が野球をやっている送ってもらう日もあり、うれしかった。けど申し訳ない気持ちもあった。

今までは「乗り物」を挙げていたが、歩いているだけでもけがはする。僕には姉が二人いる。家にいると必ずスマホをいじっていて「大丈夫か。」と心配する。そう、「歩きスマホ」を。今は逆にいじっていないほうがめずらしい。僕は分からないがさすがに歩いている時はしてないだろうと信じているが、音楽を聴いているのは確かだと思う。いじっていないなくても音楽を聴いているのも周りの音が自動車の音。特に自動車の音は、静かな自動車などが開発され、ます

ます危なくなっている。だからといって、「外で音楽を聴くな。」とは思わない。もつと見る範囲を増やしてほしいだけだ。

ここまで読んで、「別に福島市に関係しないじゃん。」と思う人もいるかもしれないが、この福島市から気をつけようと心がけたら、県にも広がり日本にも広がって、世界に広がってほしいと思う。

最後に、よく見かけることがあると思う言葉がある「ふくしまからはじめよう。」それは安全のことだけでもないと思う。県のこともあるけど、福島市からはじめても僕はいいと思う。僕が大人になったときにはあの夢の「鉄道運転士」になり、たくさんのお客様の思いを乗せ、安全に駅まで運んで、世界一いや宇宙一の、「安全で健康なまち」にしていきたい。

「事故一つない福島市」

福島市立信陵中学校

熊坂 悠杜

僕は、福島市が事故一つない、安全な町になればいいなと思っている。「福島市民憲章」の選択肢の中で、この題にしたのは理由がある。

小学生のころ、僕の家近くにパトカーや救急車などがいっぱい止まっていた。母に何があったのか聞くと、

「あそこら辺で交通事故があつたらしいよ。」

と教えてくれた。僕は、ニュースで事故が頻繁に起きているのは知っていた。だが、そこまで考え込むことはなかった。今回は違った。僕が住む町で交通事故があり、人が亡くなってしまったのだ。

この事故があつてから、ニュースの事故に目を留めるようになった。そして、事故が起きないために、今僕ができることを考えてみることにした。ニュースを見てみる

と車での事故が多いと感じる。一般的に車のドライバーを責める声が大きい。だが歩行者にも問題がある場合がある場合も多いのではないだろうか。信号無視や飛び出しをしなければ起きない事故だつてあるはずだ。人の意思ではなく起こるのだから事件ではなく、事故というようになるのだろう。だから、一人一人が気を付け事故が起きないようにしなければいけないのだと思う。

僕の町には、親切な方がたくさんいる。毎朝笑顔であいさつをしてくれたり、「学校ががんばって」など声をかけてくれたり、毎朝事故がないように立ってくれている人達など、様々な愛情にあふれている。その中でも、この題を考えた時に、一番お世話になつていて感じた人は、毎朝僕達が交通事故に遭わないように立っていて下さるパトロール隊の人だと思った。毎朝、朝早くから、見守ってくれる方達だ。そのパトロール隊の皆さんのおかげで、僕が通っている小学校の生徒が事故にあつたなどという事故は六年間で一度も聞いたことがない。僕達子供が安全に暮らせているのはパトロール隊の方達のおかげだなどこの題を

考えていて思った。僕は今、パトロール隊の人達のようなことはできなくても、自分や家族、友達などに、教え、一つでも事故が減ればと思っている。

僕は、この福島市が大好きだ。親切な人がいっぱいいて、空気がおいしくて、楽しいイベントやお店がある。こんな素晴らしい市は他にあるだろうか。と思うほどの市が大好きだ。だからこそ、この市で事故は起きてほしくないと思っている。一人一人の一つ一つの些細なことが事故一つない福島につながっていくのだと思う。

「親切な心」

福島市立信陵中学校

小林 悠人

僕の家のお前には、小さな子やお年寄りの方がたくさんいる。福島市民憲章を見たときにそう思い、「親切」をテーマにこの作文を書こうと思った。

僕の家のお前には、団地があつたり公園があつたりして毎日のように遊んでいる小学生や散歩をしているお年寄りが多くいる。だからだいたいの方が顔見知りだ。朝、学校へ行くときは、「いつてらっしゃい」と声をかけてくれて、学校から帰ってくると「おかえり」と言ってくれる。それだけではない。お菓子やパンなどを持ってきてくれる人や「遊ぼうよ」と家に来てくれる小学生などもある。いつも親切にしてくれる人たちを見て、あることを思い出した。

小学一年生のころだ。まだ小学校生活がスタートしたばかりの僕は、毎日学校へ行くのが楽しみだった。早く学校へ行きたい

僕は、つい全速力で走ってしまった。そのとき、走った勢いでランドセルにつけていた防犯ブザーの留め具がはずれてしまった。防犯ブザーの音が住宅街に鳴り響いた。僕は、その音に気づき急いで探し始めた。しかし留め具は、なかなか見つからない。鳴りやまないブザーの音と焦る気持ちで僕は、今にも泣きそうになっていた。そのとき「どうしたんだい」と丁度ゴミ捨てに来ていた近所のおばあさんが話しかけてきてくれた。僕は、事情を説明して助けを求めた。おばあさんは、優しく協力してくれて無事見つけることができた。「良かったね」と言っておばあさんは、帰っていった。しかし僕は、きちんとお礼を言うことができなかった。

あのとき「ありがとうございました」の一言が言えていればと今でも後悔している。しかしそのときにたくさんのかんことを学んだ。困った人を助けたり誰かの役に立つたりすることで相手も自分も笑顔になれる。僕は、このことを忘れずに日々生活している。

そしてこれを活かした出来事があつた。

僕が家の前でバスケの練習をしているときだ。公園でバスケをしている小学生がいた。そこで僕は、あのことを思い出し小学生のもとへ行きコツなどを教えた。小学生は、聞いたことをすぐに実践してくれて少し上達することができた。そして夕方になり小学生が帰るときになった。小学生は、最後「ありがとう」と笑顔で言って帰って行った。僕は、とてもうれしい気持ちになった。「役に立つことができた」と思うとあのとき助けてくれたおばあさんの気持ちがよく分かった。

僕は、今回「親切」をテーマに考え、改めてその大切さを知ることができた。困ったときに助けてくれたり感謝を言ってくれる人がいるから僕も困っている人を助けたいと思う。これからもその気持ちを忘れずに毎日を過ごしていきたい。

「なぜごみが捨ててあるか」

福島市立北信中学校

神 崎 怜

みなさんは、ごみはごみ箱にきちんと捨てていますか。また、ポイ捨てをする人を見かけたことはありますか。

私は小学生の時、公園にごみを捨てている子どもを見たことがあります。その時は、すごくいやな気持ちになりましたが、まだ小さかった私はなんとも言えませんでした。でもごみを捨てていた子の友達が

「だめだよ。」

と言って注意していました。そのとき私は、すぐくすつきりして注意してるのがすばらしいと思いました。私は、その姿をまねしてみたくまりました。しばらくしたある日、友達と公園で遊んでいると、ポイ捨てされたごみがありました。悲しい気持ちになりました。遊びおわって帰る時にそのごみも持ち帰って捨てました。私は、なんだかとてもいいことをしたみたいで気持ちがよく

なりました。ドブなどにもごみがあったらひろえませんでした。朝のボランティアに参加した時に拾っていました。早起きは好きではないけど、いっぱい集まったごみを見ると、またやりたいという気持ちになりました。それからはボランティアには参加するようにしてます。

では、どうして人はポイ捨てをするのでしょうか。

まず最初に言われるのは、「めんどくさいから」だと思います。近くにごみ箱がないから、自分一人だけやっても大丈夫だという気持ちでやっているのかと思います。次に多いと思うのは、「友達もやっているから」だと思います。他の人もしたから自分もやっていいわけではありません。その捨てたゴミなどを集めて拾ってくれる人にとっても失礼になります。さらにそのごみを動物が食べたりしてしまったら、動物が死んでしまうかもしれません。そして最後に、「なんとなく捨てている」が多いと思います。なんとなくやっている人はなにかに夢中になって気付いていないかもしれません。

このようなままでのごみ捨ては捨てた場所の地域の人やそこを通る人などにとっても失礼です。この県には自分からすすんでごみを拾う人や注意している人もたくさんいます。福島市民憲章の空も水もきれいなみどりのまちを目指してみてもいいでしょうか。あなたがごみを一つひろうだけでその地域がいい場所だとわかります。みなさんは、ごみを道などに捨てないでください。

「交通ルールを守るために」

福島市立北信中学校

金子 葉谷奈

みなさんは、交通ルールをきちんと守っていますか。私は今までに二度、信号無視をしていた人を見かけたことがあります。どちらも、車通りの少ない、せまい道路での出来事でした。大きな交差点などでは、こんなことは起こらないのですが、せまい道路では、交通ルールへの意識が低くなってしまうのかもしれない。

私は、交通ルールは比較的守る方です。特に、自転車に乗るときは気をつけています。曲がり角では、必ず止まって左右を確認しますし、せまい道路でも信号は守ります。そうすることで、人目のつきにくい道路での事故を防ぐことができます。このように、交通ルールは、小さく人目のつかない道路でのほうが、意識して守る意味が強くなると思います。また、交通ルールを守るためには、そのルールをくわしく知る必

要があります。私は小学生のころ、交通安全教室で交通ルールについて学びました。二、三年生のころはあまり必要性を感じなかったのですが、四、五年生のころからじょじょに重要性を感じ始めました。特に印象に残っているのは、小学六年生のときに行われた交通安全教室です。自転車の交通ルールについて、説明を受けていました。内容は五年生のときと変わらず、知っているものばかりでした。しかし、そこで新しく、道路のはしに引かれている白線の種類によって、自転車の走行して良い場所が変わるというルールを知りました。このルールは、当時担任だった先生も知らない、とのことでした。大人でも知らない交通ルールもたくさんあるようです。私はそのことに衝撃を受けました。同時に、交通ルールは、守るだけでなく知ること必要だと感じました。

つまり、交通ルールは、せまくて人目のつかない道路でのほうが必要で、守るべきであり、守るだけでなく、知ること必要なのです。もしも交通ルールを守らずに事故を起こせば、その責任は交通ルールを守

らなかったほうにあるでしょう。せまい道路で事故を起こせば、発見がおくれるかもしれない。また、知らず知らずのうちに、交通ルールを破っているかもしれません。そうならないために、交通ルールは必要で、とても重要なものです。みなさんも、交通ルールをしっかりと守り、関心をもつことで、事故の起きない、安全な世の中にしましょう。

「大切なまちと私たちの問題」

福島市立北信中学校

齋藤 綺星

私たちがくらす福島市は、自然が豊かな、みどりが綺麗なまちである。春や夏になると色とりどりの花が咲き、たくさんの虫たちがやってくる。だが、福島市にはある問題がある。人間が出すゴミだ。市だけでなく、県にも目をやると、福島県は四十七都道府県の中でも一番ゴミの量が多い。しかも、そのゴミを道や川にポイ捨てをする人がある。これではいくら自然が綺麗でも意味がない。もしかすると、そのうち植物は少なくなり、虫も来なくなってしまうかもしれない。そのような事を防ぐためにどうしたらよいか、考えてみよう。

まずは、どんなゴミが多いのかだ。私がゴミ拾いをした時に一番多かったのは、たばこの吸いがらだ。たばこの吸いがらは、道や公園、側溝によく見られる。実際、車の中から捨てたり、道を歩きながらたばこ

を吸っていた人が、側溝に捨てていたのを何度か見た時がある。側溝に捨てられたたばこは、すぐ近くの川に流れてしまっていた。

二番目に多かったゴミは、ペットボトルや空きカン、レジ袋などの誰でも使うものだ。私の友人は、犬の散歩中に、犬がポイ捨てしてあったペットボトルのふたを飲みこんでしまい、急いで病院につれて行った事がある。

このように、ポイ捨てされたゴミは、自然を汚すだけではなく、人や動物にも迷惑をかける。もしかしたら、そのポイ捨てされたゴミで動物が命を落としてしまうかもしれない。だが、ポイ捨てをした本人は、そんな事など、気付きも、考えもしないのだろう。

そこで、対策として人々への呼びかけをすればどうだろう。それも、ポイ捨てをやめよう、というような内容だけでなく、それに加えてポイ捨てのせいで困っている事や、私の友人のような体験も呼びかけると、より効果があるのではないだろうか。呼びかけ方も、ポスターだけではなく短いアニメーションのようにして、誰でも使うバスや電車、コンビニやスーパーなどでなすと印象に残りやすいと思う。

私たちの身近にある自然や生き物を守るために、皆さんも自分なりに対策を考えてみたり、もう一度ゴミ問題について考えてみてはどうだろうか。一人一人が自然の大切さに気付き、問題の解決に向かって協力しあう事で、ポイ捨てのない未来に一步步く事が出来るだろう。

「会いたい気持ち」

福島市立北信中学校

遠藤 咲 空

「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」

と、いう福島市民憲章のテーマを見た時、私は近所に住んでいたおばあちゃんが頭にうかびました。

それは、私の家の後ろに住んでいたおばあちゃんです。そのおばあちゃんは私が小学校低学年で、朝、登校する時や学校から帰ってくる時に

「いつてらっしゃい。」

「おかえり。」

と、毎日のようにあいさつをしてくれました。

そのおばあちゃんは、たまに家に来て私のおばあちゃんとお茶を飲みながら話をしていました。私はそれを見るたびに和やかな気持ちになりました。

ですが、私が中学年のころ、そのおばあ

ちゃんの姿は、あまり見なくなりました。しかし私は、あまり気にしていませんでした。

しばらくたった頃、私はそうは言ってもやはり心配になったのでおばあちゃんに聞きました。

「後ろの家のおばあちゃん、どうしたの。」

「ああ。あのおばあちゃん、特別養護老人ホームにいったよ。」

「えっ。そうなの。」

私は、びっくりしました。いつも笑顔で元気なおばあちゃんが、その特別養護老人ホームという初めて聞いた所にいつてしまったからです。

特別養護老人ホームとは、在宅での生活が困難になった要介護の高齢者が入居できる公的な「介護保険施設」の一つです。「特養」と呼称されているそうです。そのおばあちゃんは、まだ介護されるくらいの年齢ではありませんでした。一人で生活をしていたので、それが心配になったため、特養に入居したそうです。

私は、おばあちゃんからその話を聞いた時のことを思い出し、高齢者の方が一人で

暮らしていると詐欺にあったり、大きな地震が起こったりすると心配になると考え、そのようなことが起こらないように「特養」という介護保険施設に入居するのは、いいことだったと思いました。

しかし、私の中ではまたもう一度会って「私、中学生になったんだよ。」

と、言いたいと思いました。

福島の方は、もう落ち着いています。新型コロナウイルスに感染した東京の方がまだ一日に二百人くらいずつ増えていきます。福島の方でもまた増えるかもしれません。一刻も早く、感染の拡大がおさまり、おばあちゃんといつかまた会ってたくさん話したいです。

「目指せ！日本」きれいな町」

福島市立北信中学校

圓 谷 心 音

私のおばあちゃんは、小さいころから花がとても好きで花専門のお店に行くことが多くあります。だからおばあちゃんの家の周りにはいろんな種類の花が多く植えられていてとてもきれいです。私もおばあちゃんの家に行ったときは花を買ってみんなで家の周りに植えます。時々おばあちゃんの家となりの家の人が、

「とてもきれいだね。おばあちゃんも元気いっぱいになれるよ。」

と言っていて私はとても嬉しい気持ちになり、また今度もいろんな花を植えたいと思います。

この前おばあちゃんとお店に行った時に、私がとてもきれいな花をずっと見ていたら、おばあちゃんが

「買ってあげるよ。一ヶ月もつたらすごいね。」

と言ったその花を買ってくれました。私はおばあちゃんから水のあげ方、どのように植えれば良いかを聞きました。花を育てるのはとても大変で、二日位水をあげないでないと、かれてしまうことがあると分かってからは、私は学校に行く前に水をあげることにしました。私はその日から学校に行くことが前よりも楽しみになっていました。休日になるとおばあちゃんの家に行き、花の写真を見せたり、いっしょに花を買いに行ったりします。私が気に入ったお花は家に持ち帰って、植木にみんなで植えます。植える時、みんなが植えたくて取り合いになることが多くありますが、それも私の家族の行事にもなっています。私の家の近所の人に花をプレゼントすることもあります。次の日に外を見てみると家の前に植えてありました。私はとても嬉しくてその人に、

「植えてくださり、ありがとうございます。」

と大きな声でお礼を言いました。その人はとても嬉しそうな顔で、

「この花、気に入っちゃったから植えて

みたけど上手に出来たかな。」

と話していて私は、

「花、きれいですよね。植え方も上手です。」

と言いました。私の気持ちを分かってくれた人があると分かっただけでも嬉しかったです。花という植物でこんなにも幸せになれることに気が付きました。今も私は花が好きでおばあちゃんと植えています。私は大人になっても花を植え、福島をもっと明るく、美しくしていきたいと思っています。そして、他の県からも、福島は自然がいっぱいできれいと言われるくらい有名になつて欲しいとも思っています。だからみんなが自然を愛し、大切にしていきましょう。私は空も水もきれいなみどりのまちという福島市民憲章を応援したいです。

「教育と文化を尊び

希望に輝くまち」

福島市立北信中学校

山田 芙寧

週の半分以上を剣道の稽古に通っている。福島市岡島にある陵武館剣道場。この剣道場ができてから五十年以上経過していると聞いている。福島市内からこの剣道場に多くの剣道愛好者が通い、道場を大切にしてきたと教えてもらった。

陵武館剣道場の稽古は朝稽古と少年剣道教室の二部門があり、子供からお年寄りまで幅広く稽古に通っている。たくさんの方から愛されており、道場もまだまだ現役である。高齢者の先生方は、日々道場の手入れを行ってくださっていて、安全に稽古ができる。

しかしはっきり言って建物は古くて、夜中にはお化けが出てきそうな雰囲気。剣道場。通い始めてしばらくの間、夏は外の気温よりも暑くなるし、冬はマイナスになる

ことが当たり前、正直行きたくないと思うときも多々あった。しかし、私はこの環境でやって来なければ病気になるにきい体や精神が強い、今の自分にはなっていないと思う。

令和元年東日本台風が福島市内にも甚大な被害を及ぼした。本当にすごい台風だった。台風が去った後、私と私の母は、なぜか剣道場が心配になり車で向かった。普段なら、車で十分もあれば行ける道だが、途中の土砂崩れや道路の浸水で通行止めがあり、回り道を何度も何度も迂回してやっとたどり着いた。

道場の玄関まで行くとごみや木くずが散乱していた。恐る恐る道場の中に入ると、床は泥で汚れていた。所々泥水が残っていて私は、道場の中にまで水が入ってきたのだと驚いた。

「稽古再開までには時間がかかるんだろうな。」

と残念な気持ちになった。

先生方が掃除をしてくださり、次の週からは、また普段通りの稽古が始まった。普段通りに使えるのは、剣道場に通う先生方

の愛が詰まっているからだ。感謝した。また、剣道ができるのが当たり前ではないということを感じた。

福島市内の規模から見れば、小さな道場ではあるけれども、多くの福島市内の剣道愛好者から慕われ、大事に大事にされてきた多くの愛が詰まった大事な道場であることは間違いない。そんな剣道場で剣道ができることをとても誇りに思いながら、また剣道ができることに感謝し、これからも剣道を続けていきたい。

「福商通りを

より良くするためには」

福島市立北信中学校

人見 太陽

福商通りは、スーパーマーケットや病院、塾、ガソリンスタンド、学校などの生活に必要な物が全てそろっている場所です。また、大人から子ども、お年よりの方まで楽しめるイベントも行われています。僕は、スイミングスクールに行くのに毎日福商通りを通っています。

このようなすばらしい通りですが、最近少し困っていることが二つあります。

一つ目は、「歩道のでこぼこ」です。福商通りには、車道と歩道との間に大きな木が何本も植えられています。緑の葉がきれいな木です。しかし、その木が大きくなり過ぎてしまい、歩道のコンクリートを根で押し上げてしまっているのです。これでは、自転車やお年よりの人がつまずいて転倒してしまうおそれがあります。今、市の

方が木の撤去を行っています。撤去が終われば、歩道のでこぼこもきれいになると思っています。ですがそうすると木がほぼ全ての木が無くなってしまいます。それでは福島市民憲章にもある「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」ができていないと思います。歩道をきれいにしても残す方法をこれからみんなで考えなければならぬと思います。

二つ目は、「歩行者のマナー」です。福商通りを通ると、タバコの吸い殻や食べ物、飲み物のゴミ、ひどい場合タイヤのスチール部分などが捨てられています。僕はこのゴミを見るたびに「ああ、また捨てられている。きたないな」ととても気分が悪くなっています。他の通る人もきつといやな気分になっていると思います。地域の方々がたまにゴミ拾いを行っています。なのにまたゴミが捨てられているのです。これは、歩行者のマナーが悪いのだと思います。福商通りを通る人はゴミを捨てないように一人一人が心がければ、きれいになると思いました。

福商通りは、学生や大人の方まで幅広く

通る場所です。そのような場所だからこそ、みんなで「福商通りをより良くするためにはどうすれば良いか」と考えなければいけないと思います。みんなの意見や考えを取り入れることで福商通りはさらに良い場所になると思いました。

「自然を大切にする町にしよう」

福島市立北信中学校

千葉 夕梨恵

福島市は、福島県の中でも果樹栽培が盛んで、自然を大切にしたい町づくりを進めています。私はこの自然を大切にする気持ちをもち続けてほしいと思っています。

私は、小学校のころにりんごの育て方について学びました。一年を通して様々な作業があり、また、りんごがおいしくなるように様々な工夫もされていました。春になるとりんごの白い花が畑をおおいとても美しかったです。りんごだけではなく、他の地域でも、様々な果物の花や実が果樹園をカラフルに染めています。しかし、そこには果物を育てる方々の努力があると思います。農家の方々が一生懸命に作業をし、おいしくするための工夫をしています。果樹園の美しさは農家の方々の努力もあると思います。

私は、小学校のころにもう一つ環境に

ついて学びました。それは水についてです。私達は日常生活で毎日たくさん水を使っています。水はたくさんあるからいくら使っても大丈夫と思いますが水の使いすぎは環境破壊につながります。水の使いすぎを防ぐには日常生活で意識するのです。例えば、体や頭を洗っている時にシャワーの水を止めたり、手を洗う時も水を止めて洗ったりすればたくさん水を使わずに済みます。しかし、もう一つ環境破壊につながるがあります。それは、下水に油をたくさん流したり、洗剤などの使いすぎです。下水に油をたくさん流したり、洗剤などの使いすぎは下水を汚してしまうのです。なので油は下水に流さず、いらなくなつた布でふきとるなどの工夫が必要です。また洗剤は必要な量だけ出すことが必要です。このように水を大切に使うことが環境破壊を防ぐにつながります。

私が福島市に大切にしてほしいと思うことは二つあります。一つは、果物のおいしさと果樹園の美しさです。農家の方々は一年を通して様々な作業をし、おいしくなるようにする工夫をしてたくさん努力をして

います。果樹園の花や実の美しさも農家の方々が一生懸命に育てているからです。私はそのことにほこりをもつてほしいです。また感謝をし、大切にしたいと思っています。二つ目は、節水と下水を汚さないことです。私達も生活の中で意識すればいろんな場面で気をつけることができます。海や川などの自然をきれいにしていくためには一人一人の努力が必要です。この二つを大切にしていけばより自然を大切にする市になると思います。私も改めて自然をもっと大切にしていこうと思いました。

「私たちの幸せ」

福島市立北信中学校

八 卷 遥 花

私たちの故郷である福島を思い浮かべてみてください。季節ごとに実る甘い果物。地域の方と仲良くなり、どんな時でも、助け合えるやさしさ。木や花のたくさん植えられた広場。土偶などの歴史や水などの環境問題について学ぶことの出来る施設の数々。私はこのような事を思い浮かべました。そしてこのような事は『福島市民憲章』というものに定められている一部でもあります。

では『福島市民憲章』について、知っているかどうか聞いた時、知っていると答える事が出来るのはどのくらいの人数でしょうか。私たちのクラスで聞いた時も、知っていると答えたのは数人だったと思います。私も最初は『福島市民憲章』について知らないと答えた一人です。その後、内容を理解していくうちに『このことをもつと

たくさんの人に知っていただきたい。』そう思ったのです。

私は小学校二年生から六年生まで、住んでいる地区の神社の巫女舞と、お父さんの実家の大波にある神社の獅子舞の伝承をお手伝いしてきました。先生がいる訳ではなく、前の代の方や地域の保存会の方に身振り手振りで踊りを教えていただくので、何度何度も練習を繰り返して、笛や太鼓の音に合うように舞を覚えていきます。教わった踊りを自分たちで表現するのは、とても難しく、大変でしたが、お祭りの時、上手に舞を披露出来ると練習して良かった、楽しかったと思えるのです。歴史のある文化を伝承していく人がいなければ、文化が途絶えてしまうからと、獅子舞を踊れる人はその地区の長男と決まっていたのをなくし、女子も踊れるようにすることで、少ない人数でも出来るようにしたため、舞を披露する全員が女子の事もありました。

後世に残していかなければならない伝統とそれを伝えていく難しさ。私はどちらも自分で体験ができ、よく理解しました。そして、『福島市民憲章』にも同じような内

容のものがある事に気が付いたのです。

「教育と文化を尊び希望に輝くまち」

これこそが私の体験を通して、たくさんの人に『福島市民憲章』について、知っていただき、少しでも興味を持ち、学んでもらう事のお手伝いが出来るものだと考えたのです。私のような体験者から話を聞くだけでも勉強になると思ったのです。

だからこそ私は「よりたくさんの人に福島市民憲章について知っていただきたい。」そう思ったのです。たくさんの人が、何かについて理解し、教え合いながら、次はこんなことを調べてみようかな、あんなことを調べてみようかな、と次へ進んでいき、幸せな生活、充実した生活を目指して、学んだことを活用していける世の中にしたい、その世の中こそ「私たちの幸せ」があるのだと思うのです。

「美しいまち『福島』」

福島市立西信中学校

南 陽 菜

福島は、美しいまちです。私は、自然豊かな福島が大好きです。外を歩いているだけでも自然を感じることが出来ます。

春は、桜やすいせんの花が咲き乱れます。夜、田んぼの水に月が映ると、とてもきれいです。また、四季の里の方へ行くと、菜の花畑が広がります。

梅雨は、木々の緑やあじさいの花の淡い色がとても美しく、心地よい気分になります。

夏は、緑が濃くなり、山の色も変化します。虫も活発に動き出します。私の家の田んぼでは、小さなかえるが跳ねていてかわいらしいです。夜はほたるも見ることが出来ます。ほたるは、水のきれいな所にしかいないので、これも荒川のおかげだと思います。荒川は、国土交通省河川水質調査で十年連続で日本一に輝いています。すばら

しいことだと思うので、これからも日本一の荒川を守っていききたいです。

秋は、紅葉に目をうばわれます。沢山の木が鮮やかな赤や黄に染まる姿は、とても美しく、秋の訪れを感じさせます。秋には「芸術の秋」「読書の秋」など、様々な秋があります。私は「食欲の秋」が福島にぴったりの秋だと思います。福島は食べ物がいっぱいからです。特に梨などの果物がいっぱいいます。

冬は、寒いですが、雪景色がきれいです。雪解けの季節になると、吾妻山にうさが現れます。雪の形は面白くて、色々な物に見えてきます。また、小川を流れる雪解け水は、下が見えるほど透明できれいです。

このように、一年中美しい景色を楽しめるということ、幸せなことだと思います。しかし、外を歩いていると、ポイ捨てされているゴミが見られます。私が住んでいる所では、ゴミ拾いを行っています。ゴミを拾うことは、良いことだと思います。捨てる人も捨てない人はいればゴミはなくなりません。福島の美しい自然を次の世代につないでいくためにも、ポイ捨てをやめないとい

けないと思います。

その第一歩として、まずは見つけたゴミを拾って捨てたり、ポイ捨てしている友達を見つけたら注意したり、自分達ができることをしっかりやっていきたいです。

福島を「空も水もきれいなまどりのまち」に最もふさわしいまちにするためにも、福島の豊かな自然をずっと守っていききたいと思います。

「きれいなまち」

福島市立西信中学校

佐久間 琉音

「福島市と言えばなんだろう？」

そう聞かれたら私は、「自然がたくさんある、とてもきれいなまち」と答えるだろう。

五歳の時、伊達市の月舘から引越してきた。三歳の時に起きた、東日本大震災が理由だ。私はその場所が大好きだった。自然はあるし、人も優しい。そんな場所から離れるのがすごく寂しかった。でも、福島市に来て良かったと思うことがたくさんあった。

まず、自然がたくさんある。前も自然はあったがそれよりもずっときれいだった。近くの荒川は十年連続日本一。吾妻山はきれいによく見える。周りを山に囲まれ、風がとても気持ち良い。身近にたくさんの木や花があり、色鮮やかだ。

それに、食べ物がとてもおいしい。福島

を代表とする果物「もも」以外にも「りんご」「さくらんぼ」「ぶどう」「なし」など、たくさん果物が育てられ、「きゅうり」などの野菜やいろいろな種類がある米も、とてもおいしい。

それから、地域の方々、近所の方々がとても優しく接してくれた。学校の登下校の時、会々と挨拶をしてくれる。私もそんな人になりたいと思った。

こんなにすばらしいところがある中、一つだけ、自慢できないことがある。それは、ごみが多いことだ。近所を歩いていても、食べ物、飲み物のごみがよく目立つ。自然がたくさんあっても、そのごみのせいで、まちが汚く見えてしまう。私の地区では、年に二回ほど、みんなでごみ拾いをするという活動があるが、せっかくきれいにしても次の活動の時には、またごみが増えていく。特に多いのがタバコの吸い殻やお菓子のごみだ。

ごみが増えれば、それだけ、地球温暖化が進む。福島を自然を守るためにも、ごみを増やさないと、捨てないようにする取り組みが必要だと思う。

『きれいなまち』前は何の迷いもなく、自信を持ってそう答えただろうが、今は分らない。私は、自然も、食べ物も、人も、まちの様子も、全部合わせて『きれいなまち』と自信を持って言えるようにしたい。これから私達は、「みんなが住みやすいまち」「みんなが誇れる福島市」をつくっていくかなければならない。そして、自然を愛する心を持ち、たいせつにしていくことが重要だと思う。

「最近のまちについて」

福島市立西根中学校

松 浦 葉 奈

私は、最近よく周りを見るようになりました。その理由は、一年前くらいに、ふと外を見たときにゴミが多くあるなと思ったからです。周りを見てみると一見きれいな道や場所でも少し裏の方へ入ってみるとゴミがけっこう落ちているのが気になります。

そこで私は、福島市のごみの量を調べてみました。すると福島市は、ごみの量がワースト一位ということを知りました。私は、そのとき、ショックを受けました。この事実をなんとかならないかと考えました。自分で考えた対策は三つあります。

まず一つ目は、ゴミをポイ捨てしてはいけないという意識を持つことです。そのことを自分でしっかりとおさえておけば、ポイ捨ては、少なくとも私は考えます。その意識を市民や県民の一人ひとりが頭にお

さえておけば、ゴミのポイ捨ては、確実に少なくなると思います。

二つ目は、ゴミ拾いをする事です。常に袋を持ち、そこにごみを入れるという提案です。そのごみもしっかりと分別して、ごみの量を少しでも減らしたいと思います。私は、そのことを友達などにもたくさんすすめて、ゴミ拾いをする仲間をたくさん増やしてゴミを減らしたいです。あと、みんなでごみ拾いをする日を決めて、まちなきれいを守っていききたいです。

三つ目は、身近にいる人がポイ捨てしていれば、注意することです。ポイ捨ては、いけないことなので、勇気をふりしぼって、「だめなことはだめ。」

と言えるように頑張りたいと思います。何度も何度も折れずに言い続けたいと思います。

私はいろんなことに途中であきらめはじめしてしまうので、このことだけでもしっかりと人生を通してあきずにつらぬき通したいと思っています。

私は、この三つの決めたことを守っていききたいと思います。そのことを周りの人に

たくさん広めてこの大好きなこのまちを空も水もきれいなみどりのまち、になるよう努力していききたいと思います。

今は、地球温暖化も問題視されているので福島市がごみの量ワースト一位という事実をひっくり返せるようにひとつひとつのものを大切に長く使い、分別できるものは、分別して、ごみの量を少しでも減らしていけるようなまちになるように、頑張っていきたいと思います。

少しずつでも、減らしていけば、地球温暖化がストップすると思うので、今後の未来のためにも、しっかりと、ゴミを減らしていくことが大切だと思います。

「私が福島市民憲章について

思ったこと」

福島市立西根中学校

今村 颯 来

私は、福島市民憲章の一つ『教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。』という憲章に目をつけました。

今年は新型コロナウイルスの影響ようがあり、毎年行っていた行事や祭りなどが中止になったことは少なくありません。

そんなこともあり、今の若い世代の人々は福島県や、福島市の文化財への理解が年々減りつつあると感じています。

今現在、NHKにて放送中の連続テレビ小説「エール」も、福島市出身の作曲家、古関裕而がモデルとなったドラマですが、古関裕而についてくわしく知らない人は少なくないと思います。

私自身も名前は知っていますが、くわしくはよく分かりません。

このように今の若い世代の人々は文化へ

の関心は薄れてきているような気がします。

このことをふまえ、私自身をふくめた若い世代の方々も福島のすばらしい文化を学んでいくことが大切だと思いました。

もう一つ目についた憲章は、『空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。』です。

私の家の近くにある公園は、雑草がたくさんはえていて、子供たちが使いづらい状態になっていますし、家庭で木や花を育てる家庭も減ってきているように感じます。

最近では少子高齢化の現象がおきており、高齢の方がだんだん年を重ねていくことにより、家庭で花などの植物を育てていた人も、育てるのをやめる人も減っている気がします。

そうなると職場や学校などで木や花のいっぱいある美しい環境をつくるのが大切だと考えます。

それに対して『親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。』や『きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。』などの憲章はしっかり守られて

いるような気がします。

このすばらしい福島市に生まれてきたからには定められた福島市民憲章を福島県民が一人一人心がけ、福島市民が一人となつて美しい福島をつくっていくことが大切だと思いました。

「まちをきれいに」

福島市立松陵中学校

菅野里紗

「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」

私は、福島市民憲章を初めて見た時、この憲章が目に残りました。福島市は、自然が多く、水がおいしいまちだと思います。私はそんな自然豊かなまちを美しいままに保ちたいと思いました。そのため、まずは自分が住んでいる町から改善していこうと思います、今の町の良いところと悪いところを書き出してみました。

まず良いところについてです。私の住んでいる松川町には木がたくさん植えられていて、とても自然豊かです。また、通学路にはサクラの木が植えられていて、春になるとサクラが満開に咲いてサクラロードのようになり、春を感じることができます。また、木は酸素を排出し、二酸化炭素を吸収するので空気もきれいになり、一石二鳥

です。さらに、松川町に建っている家の庭を見ると、植物を育てている家が多くあるので、町がとても色鮮やかで美しい「みどりのまち」が創り上げられていると思います。

しかし、よく町を見てみると悪いところもありました。それは、公園に落ちているごみです。近所の公園に行き、ごみが落ちていないかを見てみると、タバコの吸い殻やペットボトルが、多くはないけれど落ちていました。そして、最近よく道端などで見かけるのがマスクです。落ちているマスクの多くは、使用済みのものなので、捨てるのが難しく、見かけても放置されることが多いのです。

このように、植物が多く自然が豊かという良い部分がある反面、公園や道端に、ごみが落ちていたりという悪い部分があるということが分かりました。では、良い部分はどうのように生かし、悪い部分はどうのように改善していけばよいのでしょうか。まず、良い部分の木がたくさん植えられていることについてです。今、植えられているサクラの木は、とても長い年月をかけて育って

きているので、みんなで木を守り、これからもサクラの木の歴史を続けていきたいと思っています。次に、ごみについてです。私の住んでいる地区では、年二回一斉清掃というものがあり、決まった日に清掃をします。ですが、清掃をするのは道路沿いのみで、公園などは清掃をしません。だから、公園にごみが溜まってしまふのだと思います。そのため、公園をきれいにするには一人一人が協力して、「ごみは家に持ちかえる」など、当たり前のことを当たり前にやるということをしなくてはならないと思います。

自分たちのまちは、比較的守れているのではないか。そう思っても、よくまちを見てみると実は違っていたなんてことがよくあります。私も最初はそう思っていました。でも、これからは自分のまちをよくするために何ができるかを考えながら生活したいと思っています。

「愛情あふれる美しいまち」

福島市立松陵中学校

高 橋 望 菜

私はこの福島市を市民のみんなが親切で愛情のあふれるような美しいまちにしたいと思っています。

私はよくバスや電車に乗り家族や友達と出かけたり遊んだりしています。そこでお年よりの人がバスや電車に乗ってきてイスがなくて立っている時などは自分から進んで、

「この席どうぞ。」

と言うと

「ありがとね。」

とお礼を言ってもらえます。お年よりの人が困っている時は席をゆずってあげる事を心がけましょう。ゆずった側は自分が良い事をしたんだなって実感できますしそれにお礼を言われるとこれからも続けたいという気持ちになります。親切にするとお互いがいい気持ちになれるのでこれからも続け

てバスや電車などで困っている人が居たらゆずるなどをして親切にしていきたいです。学校とかでも同じです。自分はいく忘れ物などをして困る時がたくさんあります。だけど周りの人や友達が貸してくれたり見せてくれたりします。こういうふうに関切にされてとてもうれしかったです。周りの人や友達が物を忘れた時は今度は自分が貸してあげたいです。

美しいまちにするには人に親切な対応をすること以外にも福島市の歴史や文化、観光地などを大切に、町を綺麗にすることも大事かなと思っています。福島市には花見山、信夫山などといった美しい場所がたくさんあります。それにりんごやモモなどの市民みんなが大好きな農産物がたくさんあります。私たちは福島市民としての誇りをもって生活していきたいです。

町を綺麗にするためには、進んで地域のゴミ拾いなどに参加しあいたいです。私は家族に、

「ゴミ拾い行くよ。」

などと言われますが

「眠いから行かない。」

とすぐに断ってしまいます。けどそれじゃあいつになっても綺麗にならないと思います。だからこれからは自分から進んで地域の活動に取り組んでいきたいと思っています。それと市民の人をお願いしたいことがあります。道路や草むらなどにポイ捨ては絶対やめてください。よく下校中にゴミが落ちてある事がありとても不快です。ゴミは自分で持ち帰るようにしましょう。

愛情あふれる美しいまちにするためには一人一人が子どもやお年より、家族や友人などに親切にすること、誰にでもできる親切を自分から進み実行すること、地域の文化を大切にすることを心がければきっと今以上に美しいまちが待っていると思います。市民のみんなの心を一つにしこれから頑張っていきたいです。

「僕の願い」

福島市立信夫中学校

佐久間 遥 希

この作文の中で「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」についての僕の意見とお願いしたいことの二つを書きます。

まず僕の意見です。この町作りは、自分達の行動にも関わっているのではないかと思いました。例えば、道路に急に飛び出さない、夜遅くに外に出歩かないなどのことが安全面の一つであると考えられます。又、手洗いうがいを必ず行う、栄養の偏った食事をしないなどは健康面の一つとして考えられます。しかし、子供やお年寄り皆が気をつけたとしても、若い人達、特に十代、二十代の人の中には、周りのこと、将来のことなどを考えずに行動をしている人がいると思います。例えば、今まで夜遅くまで起きていた人が今からでも早寝する行動を出来るよう改めて生活すれば、夜に出歩く

人も減り、福島市は安全な町になると思います。そして、栄養ある食事を家族で楽しく食べる時間が増えれば、健康面も良くなると思います。

次にお願いしたいことです。安全面として、信号無視をしないことです。家族で出かけるとき、赤信号なのに渡ったり、人が歩いているときに急に車が曲がって来たりします。人にしても車にしても、信号無視は相手を傷つけてしまうだけではなく、逆に自分が傷ついてしまうかもしれません。そして、人の命を奪ってしまう可能性があります。信号無視がなくなるだけで、安全性が高くなると思うので、信号無視はやめてほしいです。健康面は、せきエチケットを徹底してほしいです。せきエチケットの「まめにマスク・まめに手洗い」の二つは、自分は出来ていると思っていても、実際は出来ていない人が多いと思っています。今はコロナウイルスも流行っているので特に大切なことだと思っています。この二つが出来ていると、自分が病気にかけにくくなる、また、相手に病気をうつしにくくなるというメリットがあります。このせきエ

チケットを市民全員が出来れば、福島市で風邪を引く人が減り、より健康な市になると思うので、実践してほしいです。

福島市民憲章の一つ「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」が一番大切なことだと思いました。どんなに空や水がきれいでも、安全でなければ福島に活気は表れませんが、安全で人々が健康に過ごせる町になれば、今よりもっと福島に活気が出てくると思います。

僕は、ここ福島市が大好きなので、よりよい福島にしたいと思っています。だから、一人でも多くの人が今からでも生活習慣を正し、決まりを守って生活すると今よりもっと福島は良くなると思います。だから、僕からのお願いを全ての人が心がけてくれると嬉しいです。

「福島未来のために」

福島市立信夫中学校

佐藤 光莉

私の、福島の好きな所を紹介します。

一つ目は、自然豊かなところです。水がきれいで、空気がいしく、自然豊かだと思っています。

二つ目は、くだものがいしくところ。季節が変わるごとに、いろいろなくだものを食べることが出来、とてもおいしいです。

この福島の福島市民憲章にある、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。について考えました。福島は、いい町です。ですが、ゴミが捨ててあったり、自転車で登校している途中にたくさんゴミを見ます。あと、プラスチックゴミが捨ててあるのを見ました。

プラスチックを捨てるのは、危険な事なのです。たとえば、プラスチックを捨てると、風で川に入り、流れて海にたどり着い

て、それを魚達が食べたら魚達がけがをしたり、その魚をつつて、その魚をだれかが食べてしまったら、体に害がおよびます。なので、プラスチックを捨てる事は危険な事なのです。そんな危険を減らすためには、プラスチック商品などを減らす事が必要です。最近、コンビニのレジ袋が有料になり、エコバッグなどを使って環境を守る活動が行われています。他にも、プラスチック商品から紙の商品になったものを見たことがあります。私は、お菓子の袋や、ペットボトルも紙パックにしたりするといいいのではないかな。と思っています。

福島の環境を守るためにもゴミとプラを分けて、ゴミ箱に捨てることを心がけたいです。

次に、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょうについて考えました。

私は、中学校に自転車で登校しています。朝、登校すると交通安全母の会のかたが十字路に立っていてくださって、笑顔で

「おはよう。気をつけていってらっしゃい。」

と言ってくださいとてもうれいし、安全に道路を渡る事も出来ます。ですが、他の十字路では、家にかくれて見えなく危ない時もあります。他にも、細い道などを通った時に車がぎりぎり通れるかんじで、危なかった時もありました。事故にあわないためにも、車を運転する人も自転車を運転する人もスピードをあまり出さずにちゃんと確認して、ゆずりあって、ルールを守り、事故にあわないように運転したいし、してほしいです。

これからも、福島市民憲章に書いてあるような、福島にしていけるように、私達が出来る事は、がんばってやりたいと思っています。

「親切や愛情」

福島市立信夫中学校

影山 未桜

私のまわりには、親切な人や愛情をくれる人がたくさんいます。その中でもあまり親切ではない人やあまり愛情をくれない人もいます。私の父や母、兄や祖父母、近所のおじいさんやおばあさんは、いつも親切でたくさん愛情をくれます。例えば、いつも笑顔であいさつをしてくださったり、やさしく接してくださったりします。それに、近所の人だけではなく、たくさん地域の人もわたしたちにやさしく親切に接してくださっています。

私がたまに体験することなんです、小学生のとき、登校中で雨が降っているとき道路に大きい水たまりがあり、そこを歩いているとき、前から車がきました。その車は、私に水がかからないように水たまりをよけて走ってくださいました。その行動に少しうれしくなりました。その他にも、信

号がない小さな交差点で、「先どうぞ」と手で表してゆずってくださいしたこともありました。

逆に、同じような雨の日に水たまりの近くを歩いていたときに、水をかけられてしまったことも何回ありました。そのときは、少し残念な気持ちになりました。人は、親切にされると心があたたく感じるのかなと思います。

私は、親切にする、親切にされるという事以外にもたくさん人々にとって良いことがあると思います。

とくに、愛情です。愛情とは人にあげるだけでなく、自分で受けることだと私は、思います。私は、家族や地域の人々などたくさんの人々に愛情を受けて育ちました。そして、あいさつというほんのささいなことも愛情なのかなと思っています。

中には、あまり愛情を受けずに育った人もいるかもしれません。例えば、自分からあいさつをしたのに返事が返ってこなかったりしたときです。やっぱ、あいさつをしたのに返事が返ってこないと少し悲しい気持ちになってしまいます。

ここまでのことから、私は、親切で愛情あふれるまちをつくるために、おたがいに思い合い、考え親切に接し、みんなそれぞれ愛情をあげ、自分で受け、ささいな事でも自分から自主的に取り組むことがまちづくりのきっかけになる大切な事なのかなと思います。

「福島市民憲章」

福島市立信夫中学校

渡 邊 悠

ぼくは、親切で愛情あふれるまちをつくるためには、三つのことが必要だと思います。

一つ目は、ゆずり合うということです。ぼくは、小学生のころ、登校するときに、車に乗っている人に、道をゆずってもらったことがあります。ぼくは、道をゆずってもらった時に、とてもあたたかい気持ちになりました。ぼくは、思わず、

「ありがとうございます。」

と、言っていました。そして、ぼくもおばあさんに道をゆずって、とてもうれしそうな顔をしていて、いいことをしたなと思いました。

二つ目は、あいさつです。ぼくが中学校に登校しているときに、おじいさんから、あいさつをもらって、とてもうれしい気持ちになりました。しかも、えしゃくも

していてまたうれしい気持ちになりました。ぼくも、

「おはようございます。」

とあいさつを返して、そのおじいさんもうれしそうな顔をしていて、あいさつは人を笑顔にすることができんだなと思いました。この事があってから、ぼくは、学校以外の所でもあいさつをして、地域の人を笑顔にできるようにしたいと思いました。

三つ目は、思いやりです。ぼくが、中学校で、自分の係の仕事を忘れていたときに、友達が、代わりに係の仕事をやっていたくて、とてもうれしい気持ちになりました。その友達は、他にもいろんな人のたのみ事を、やさしく引き受けていて、すごいなと思いました。ぼくも、その友達のように、いろんな人のたのみ事を引き受けてみようと思いました。たのみ事を引き受けた人も引き受けてもらった人もうれしい気持ちになるので、親切で愛情のあるまちをつくるには、思いやりが、一番大切なんじゃないかと思います。

ぼくは、今言った「ゆずり合い」「あいさつ」「思いやり」の三つをできるように

なると、親切で愛情あふれるまちをつくることができるのではないかと思います。ゆずり合いと思いやりには「親切心」、あいさつには「愛情」があります。ぼくは、親切心と愛情があふれるまちをつくるために、ゆずり合い、思いやり、あいさつができるように、日頃からこの三つのことを忘れずに生活できるようにがんばりたいと思います。そして、この事といっしょに地域の人も笑顔にできるようにしたいです。

「みどりのまち」

福島市立信夫中学校

川 島 成 智

僕は、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましようという作文を書こうと思っ
たきつかけは、昔海が汚れていることや、
森林が壊れていることが分かったからで
す。僕は、海が汚れていると、魚も汚れて
食べられなくなるし、森林が壊れると、二
酸化炭素が増えつづけると、地球から排出
されるはずの熱がにげられなくなり、温室
にとじこめられたように、あつくなくてし
まいます。お母さんに、海が汚れないよう
にしている工夫は何？と聞いたら
「水道には、三角コーナーを置いている
よ。後は、油などを使いおわった食器など
は、洗い流す前に、キッチンペーパーなど
でふいてから洗っているよ。」
と言われました。でも僕は、なんで洗う前
にキッチンペーパーでふいてるのだろうと
思い

「なんで、油がついた食器を洗う前に、
キッチンペーパーでふくの？」
と聞きました。そしたら

「せんざいをあまり使わずにできるし、
いっぱい使っちゃうと、海が汚れちゃうか
ら、キッチンペーパーでふいているんだ
よ。」

と言われて、僕はなっとくしました。

そして次に、おばあちゃんに、

「海を汚さないために、どんな工夫をし
ているの？」

と聞いたら、お母さんが言っていた工夫の
他に、

「米をときおわった汁や、ラーメンの汁
などは、花の水にしているよ。」

と言われました。でも、それはあまり意味
がないんじゃないのかな？と思いお母さん
に聞きました。そしたら

「ラーメンの汁がついた魚がいると、食
べたくなくなるから、水道には流さずに、
花の水にして使っているのだと思うよ。」
と言われ、僕もたしかにラーメンの汁がつ
いた魚は食べたくないなと思いました。な
のでこの工夫をしているのはいいと思いま

した。

でも、皆が海を汚さないための工夫をし
ないと、海がだんだん汚れてしまします。
なのでみなさんも、海を汚さないように油
やせんざいなどをあまり海に流さないよう
に心がけをして、この町の海をきれいにし
ていきたいです。あと、福島市は、自然豊
かな町なので森林が破壊されないように、
していきたいです。

「平田のまち」

福島市立信夫中学校

木村 純羽

私の住んでいる平田は小田と山田に分かれており、私は小田に住んでいます。私の家の近くの小川や石田のバス停の近くのごり川は地面が見えるほどすきとおってきれいな川です。しかし最近学校帰りにお酒の缶がぎゅうぎゅうに詰めた袋やタバコなどが川や道路に落ちているのを見るのが多くなってきました。私はゴミが落ちているのを見るたびに自分が大切にしているものを汚されたような気がして怒りや悲しみが湧きます。だれも、ゴミを落としてほしいなどとのぞんでいないし、ゴミが落ちている所を見て気分が良くなる人もいないし、人々に迷惑をかけるだけなのにどうしてゴミを落とすのかなと毎回疑問に思うし、なんて自分勝手なんだろうと思います。私は平気でゴミを落とす大人には絶対になりたくないし、なりません。

私が住んでいる地域では年に一回冬の朝早くにみんなでゴミ拾いをします。もちろん小川やにごり川のゴミ拾いもします。ゴミの多くはプラスチックやタバコ、空き缶です。地域の人々は協力して落ちているゴミを拾います。ゴミ拾いが終わると二、三袋はパンパンにゴミが詰まっています。ゴミが多いことはとつてもいやですが、とつてもすすります。このゴミ拾いでとつた燃えるゴミはゴミ捨て場において燃えないゴミはリサイクルの箱に入れます。

この地域のゴミ拾いのほかにも私の家では夏の暑い日に、そつこや小川のそうじを家族で行います。なので私の家の近くの小川は年に二回そうじをするのですきとおっていて、冷たくてきれいです。周りが森で木々に囲まれているので空気もきれいでおいしいです。私はこういう地域でのそうじの行事や家でのそうじは毎年参加して行っています。

しかし、私はこういう、そうじの行事はゴミを落とす人がいるからこそやっているのではないかと思います。ゴミを落とす人がいなければ、冬の朝早く起きてそうじを

しなくていいし、夏の暑い日にもそうじをしなくても良いし、みんなが気持ち良く過ごせると思うので、そういう人が絶対にいなくなつてほしいです。もし、ゴミを落としている人がいたら注意をして、ゴミを落とす人を少しでも減らせるように私にできることを徹底的にしていきたいと思います。

「福島市のほこれる水」

福島市立信夫中学校

阿部 劉 命

郡山のおじいちゃん、おばあちゃんが僕
の家に遊びに来て、必ずお水を飲むと

「福島市の水は、モンドセレクションを
取ったうまい水なんだよな。ペットボトル
に入って売っているんだよ。」

「うまい。」

と言っています。

モンドセレクションとは、何だろうと思
い調べました。品質、成分、味覚、パッ
ケージ等について、ベルギー厚生省に認可
された機関及び業界有識者で組織される委
員会により評価され、「最高金賞」を授与
されることを知りました。二〇一七年度か
ら、二〇二〇年度まで最高金賞をとってい
ます。また国際味覚審査機構、優秀味覚賞
を受賞し、とてもおいしい水を毎日飲んで
いることを知りました。

僕が小学生のときすりかみ川で、川遊び

を何度かしました。水がとてもすきとおつ
ていてとても冷たかったのを覚えていま
す。ライフジャケットを着用し、少し川の
流れが速い所から、川の流れに沿って流れ
る体験をしたり、泳いだり、ゴーグルを着
用し水の中をのぞいたりしました。何でこ
んなに、川の水がきれい何だろうと思いま
した。

福島市は、自然が豊かで浄土平やばんだ
い吾妻スカイラインや、摺上溪谷、信夫山
などの緑が豊かな山々があります。そこか
ら流れる荒川、すり上川などがあります。
そこから流れる川の水で、福島市のほこれる
おいしい果物やお米、野菜が作られていま
す。食べるととても新鮮で甘くみずみずし
くてとてもおいしいです。このおいしさは、
福島市の大自然と、おいしい水が使われて
いるからだと感じました。

生活用水にも使われているすり上川の
水、お風呂で頭を洗ったり、トイレに使わ
れたり、食事を作る時にも使い食器を洗う
時にも使われています。僕はこの福島市の
ほこれる水を大切に使わなければいけない
と思いました。この水は福島市に住んでい

る約二十九万人が使ってるのだと思うと、
水を流したままにしたり、ムダ使いをする
と資源が少しずつ奪われていきます。資源
を大切にするとともに、自然豊かな福島市
が自慢できる、モンドセレクション最高金
賞を受賞した福島市のすり上の水を今後、
僕たちが守り続けていかなくはなりません。
僕たちがおとなになった時も、モンド
セレクション最高金賞に続くように守って
いきたいと思いました。

「僕の住む町」

福島市立信夫中学校

高橋 永士

僕の住む町には山があつて、春は山全体が桜でいっぱいになる。桜を始め、椿や梅や菜の花が一斉に咲いて、とても綺麗だ。

中でも町一番の自慢は「見守り隊」の皆さんだ。ボランティアで朝や学校帰りの子どもを見守りをしてくれる。雨の日も暑い日も、いつも地域の人達が見守ってくれている。

お給料も出ないのに、自分の子どもでもないのに、何で毎日たくさん地域の人が見守り隊をしてくれるのだろう。

見守り隊は小学校の帰り道をずっと付きそってくれる。中学生になった僕のそばにはいないけれど、帰り道、地域の人を見ると、なんとなく見守ってくれているような気がする、安心する。

初めての中学校。小学校の卒業式も短縮で六年生を送る会も、クラスのお別れ会も

中止になった。入学式が縮小されて、またすぐに長い春休みになった。春休みは全部で三ヶ月近くにも及んだ。その間、ずっと家の中で過ごした。勉強も少ししたけど、ほとんどはゲームをしていた。

そしてやっと、五月末からの分散登校。六月からは本格的に学校が始まった。どんな友達に出会えるだろう、と僕はワクワクした気持ちだった。

中学校では教科ごとに先生が違うので、一見怖そうだなと思う先生も、授業はとても面白かったり、新たな生活が始まった。部活動も始まった。僕は小学生時代からやってきたハンドボール部に入った。色々やりたい部活があつたけれど、やれるのは一つだけだ。見学の期間も短いから、的をしぼっていくつか見学に行った。

中学生になってすぐ、疲れた。新しい生活様式で、マスクをしながらの登下校に授業。家に帰るとドツと力が抜けた。学校は楽しいし、友達と一緒にふざけていると、すごく楽しい。けれど毎日、疲れ切っていたそんなある日。

「おはよう」

「おはようございます」

朝登校の時に円通寺の近くを通った時に、見守り隊のおじいさんが笑顔であいさつしてくれた。

小学生の時の見守り隊の緑色のチョッキの色や、地域のお祭りで、大人の人達に沢山の食べ物、みかんやお菓子やジュースやとん汁を「いっぱい食べなよ」ともらったこと、お祭りでおみこしをかつぐ人の「太鼓持ち」をやったこと等、思い出した。皆、優しくしてくれた。

僕も大人になったら、地域の皆さんみたいな優しい大人になりたい。自分のことだけじゃなく、地域の人が安心して暮らせるように、「こんにちは」と声をかけて。僕の住む町を優しい住みやすい町にしていきたい。

「親切心がうつる福島」

福島市立信夫中学校

後 藤 沙 織

私は、

「一、親切で愛情あふれるまち」

という文章が一番最初に目にとまった。私が住んでいる地域には、まだ保育園や幼稚園に上がっていない幼児や介護が必要な方がいたり、施設で介護されている方がいたりする。また、私達のような学生や若い方もいる。

私のまちは、住民一人一人が優しく、今このまちに住んでいて良かったと思える。

私が学校への登下校中や遊びに行く時に、雨の日や雪の日でも、毎日歩道の近くに立っているおじいさんや見守り隊の方、知り合いのおじいさんがいる。毎朝、その方は、

「おはよう。いつてらっしゃい。気をつけて。」

と、二言、必ず通る学生や若い方に言っ

ている。帰宅する時には、

「お帰り。今日も暑かったね。」

などと声をかけてくれる。

また、私が市の公共交通機関を使っていると、子供連れの方が乗ってきて、それに気づいた女性二人が席をどけ、親の肩をたたき席をゆずっていた事があった。学生が老人に席をゆずっていた事もあって、優しい方だと思い、私も影響されてか、同じ行動をとっていた。良い行動は人にうつっていくのだと思った。

福島は、近所の人達や近くの家の人達と仲がよく、祖父の家では、よく果物をいただいたり、野菜をいただいたりしている。また、私の家の近所の方もパンやクッキーなどを分けてくださっていたり、外で会うと、よく立ち話などをしていたりして、本当に仲がいいのだと思った。

私は、この福島市民憲章作文コンクールの内容を考えるにつれて、私がこのまちを好きなのは、全て、周りの人や近所の人達の温かさや親切心、愛情あふれる人のおかげなんだろうと、中学生になって分かった気がする。

今まで私のことをここまで育て、支えてくれた近所の方には感謝の気持ちが、この気持ちをしっかりと伝えていけるようにしていきたい。

今回、福島市民憲章について考えてみるとやっぱり福島には福があふれていて、親切な方、愛情たっぷりに接してくれる方が多いと実感した。また、これからは今よりもっと福であふれていて、親切心や愛情あふれるまちを作っていきたい。

また、私は、親切心がうつって増えていく福島がとても大好きだ。

「よりよい福島市にするために」

福島市立野田中学校

渡 辺 梨 瑚

私は、福島市民憲章というものを知りませんでした。ですが、見てみると良い目標ばかりで、この目標を自分でも目指し、そのために何ができるかを考えました。

一つ目は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」です。今現在も、道や公園、川などきれいなところもありますが、少しごみが落ちているところも見かけます。そこで中学生の自分ができることは、ごみを見かけたら拾うなど積極的にすることだと考えました。

また、「まちや職場や家庭を木や花のいっぱいある美しい環境にしましょう。」の目標は地域の人たちが花壇に花を植えてくれているし、家の近くに木がたくさんあるので、できていると思いました。自分でも花を育ててみたりしてもっと美しい環境に自分からしていきたいと思いました。

二つ目は、「だれにでもできる親切を自分から進んで実行しましょう。」です。私は、おとしよりの方や子どもが困っていたとしても、少しはずつく、あまり自分から進んでは親切ができていません。ですが、この市民憲章を見て親切を自分から実行すれば、自分も親切された人も良い気持ちになるなど改めて強く思いました。もし、困っていた人がいたら進んで親切していきたいと思います。

似ている目標ですが、「ひとにはいつも明るく、やさしい態度で接しましょう。」も行っていきたいと思いました。実際、私もやさしくしてもらって温かい気持ちになったことがたくさんあります。自分がしてもらってうれしかったことは、相手にも行い、お互い良い気持ちで過ごせる福島市にできるようにしていきたいです。

三つ目は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」です。福島市は横断歩道の近くに、旗が置いてあったり、安全なまちだと思います。ですが、歩いているとお年よりの人が道を横切っていく、車が急停止するのを見かけ、

ひやっとする場面が何度かあります。そのようなことをなくすために、自分自身が気をつけるのが一番大事だし、車に乗っているときは、運転手の親などに気をつけてと言っただけでも、安全なまちになっていくと思います。

このような、目標に向かって何ができるかというのを実際に行い、自分から福島市をよりよくしていきたいと思います。また、家族や友達とも協力していきたいです。

「福島市民憲章と福島市の問題点」

福島市立野田中学校

安 西 蒼 太

ぼくは福島市は住みやすくてとても良いところだと思っていますが、今まで福島市民憲章について考えたことも聞いたこともありませんでした。この初めて知った憲章には、福島市をよいものにするために必要なことが全て記されており、どれもすばらしいことです。ぼくたちが当たり前だと思っていたことが全てこの憲章に記されています。しかし、古くからあるこの憲章ですが、守れていないと感じるものがあります。それは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」です。福島市は一見すると自然ゆたかなよいところという印象を受けます。しかしそれは全体の印象を軽く感じただけであり、普段は見向きもされないような細い路地や下町の方へ行ってみると、道路のわきや川、草むらなどの公共の土地や、守るべき自然あふれる場所にゴミ

が捨てられています。他のところよりはきれいだと思えますし、自然もいっぱいあると思いますが、その福島市の長所でもある豊かな自然を自らが傷つけていくのでは本末転とうです。それに、福島市民憲章自体昭和四十八年に制定されたものです。制定され、元号が二度変わってもなお守らない人がいるというのは、知名度の低さも関係ない訳ではないと思います。もう一度、福島市民憲章の内容を呼びかけ、それを守るようにうながしていけば効果が見込めるのではないのでしょうか。もし仮に実行されたとして、これを機にゴミを辺りへ捨て、自然を汚すようなことをせずに、福島市の自然を守るという意識をもった人が増えれば、福島が本当に「空も水もきれいなみどりのまち」になると思います。

ぼくにはもう一つ気になった憲章があります。それは「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」ということです。福島市は教育を受けている身としてはとても良く、満足していますが、文化についてはふれる機会が少ないように感じます。小学校でもかや場梨など福島市の文

化にふれることはありませんでした。しかし、ふれた時間が少なく、ぼくは福島市の文化についてふれて学ぶ時間をもっと多くし、このような文化にふれられる所をもっと増やし、福島市に対する考えを変え人が増えれば、辺りにゴミを捨てるような人も減ると思います。

これまで福島市の改善点を福島市民憲章に合わせて示しましたが、いいところもちろんあります。「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」です。福島の人たちはみんなやさしく性格がいいです。話していて人情味があふれていますし、ぼくの家族や近所の人といっしょに生活していてとても楽しいです。

ぼくは、福島市の未来をになう人の一人です。その一人として、福島市をもっとよくするためにこれからも行動していきたいです。

「暮らしやすいまちにするために」

福島市立野田中学校

佐藤 ゆうな

私は、今まで「福島市民憲章」というものがあることを知りませんでした。でも、読んでみると、これがあるおかげで私たちが福島市で気持ちよく暮らすことができているのだと思いました。その中で印象に残った二つのことについて書きます。

一つ目は、「空も水もきれいなみどりのまち」についてです。福島には、美しい自然がたくさんあるので大切にし、守っていく必要があると思います。しかし、最近はお川や海にごみが流され、それを魚が食べてしまったりからまってしまったりしているのが問題になっています。私が毎日通っている通学路にも壊れた傘や使い終わったマスクなどが捨てられていたりがありました。誰も拾わずに捨てられているばかりでは、ごみが道路や歩道にたまってしまい、暮らしやすいとは言えません。誰かに拾っ

てもらうのではなく、自分のごみは自分で処理をし、それでも落ちていたら拾うということが大切だと思います。

二つ目は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」についてです。テレビなどで交通事故のニュースを見ることがあるけど、交通ルールをしっかり守っている人が事故にまきこまれて加害者になってしまったり、被害者になってしまったりすることがあって、かわいそうだと思います。そのような事故を起こさないためには、車や自転車を運転する人と歩行者のどちらも交通ルールを守る必要があると思います。また、健康については、特に十代の私たちくらいの子どもは、外で遊ばず、家でゲームをしたり、スマートフォンでメールなどのやりとりをしたりして、運動をしないことが問題になっています。運動をせずに食べてばかりいると肥満につながってしまいます。運動をするとおなかがすき、ご飯がおいしく食べることができます。健康的な体をつくることができます。日常生活でも運動することを意識して、移動をするときに車などを使っている人は、歩いたり自転車を

使ったり工夫すると思います。

私は、福島市民憲章について考えてみて、「誰かがやってくれるから私はやらない」ではなく、私たちの一人一人が「福島市のために守る」ということを心がけることが必要だと思います。また、私のように福島市民憲章を知らない人に教えてあげて、みんなが暮らしやすい福島市をつくっていききたいです。そして、ここで暮らしていて良かった、ずっとここで暮らしたいと思ってもらえる魅力であふれる、素敵なまちにしていきたいです。

「もっと素敵にするために」

福島市立野田中学校

中野 結依

私が「福島市民憲章」を読んで、心に残ったものは「空も水もきれいなみどりのまち」と、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」です。

最初に目にとまった「空も水もきれいなみどりのまち」は、少し気になることがあります。

私の通学路は、きれいな花や木がたくさん植えられています。虫もよく見かけるので、虫にとっても生きやすい環境になっているのではないかと思います。その点についてはとても良いのですが、問題は、落ちているごみについてです。

木にマスクが何か所もひっかかっていたり、ごみ袋も落ちていたりしています。これでは環境にも悪いし、せっかく植えられている花や木がだいなしです。

そこで私が考えたのが、「みんな一人一

人がごみを落とさないようにする」というものです。市民一人一人が「ごみを落とさない」意識を持って生活すると、市全体がもっと素敵になるのではないかと思います。誤って落としてしまったのならば、すぐに拾い、家で捨てることも意識したらいいのかな、と思いました。

もう一つ気になったのが「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」です。

場所に関係なく、とても速いスピードで走っていく自転車や車を見かけます。もしもそこに小さい子供が飛び出してしまったら、少し歩くのがおそくなってしまう方々がまだ横断歩道を歩っていたら…。とても危険だし、最悪事故になりかねません。

これも、先ほどの「一人一人がごみを落とさないようにする」というのに似て、「一人一人が交通ルールを守り、運転手は歩行者がいることを意識する」ことを意識すれば良いと思います。交通関係の事故も絶えない中、一人一人がきちんと意識すれば、事故も大はばに減るのではないか、と考えました。

何事にも「一人一人が意識する」という

ことが大事だと思います。一人一人が意識するだけでもっと福島市は素敵になります。

私が「福島市民憲章」を知る前は、道ばたにごみが落ちていても特に何も考えず通りすぎていました。でも、「福島市民憲章」を知ってからは「自分は落とさないようにしよう」と意識するようになりました。交通ルールについても、知る前は「全部車や自転車が悪い」と思っていました。歩行者の自分たちも交通ルールを守ろうと意識するようになりました。

「福島市民憲章」にあることを、一人一人が意識し、守るだけで福島は今以上に素敵になれます。私達福島市民で、福島市を素敵にしていきましょう！

「みんなが幸せに

暮らす日々を願って」

福島市立野田中学校

佐藤 真那

登下校中、たくさんのお年寄りに会います。私は、お年寄りが大好きです。私が大きな声であいさつをすると、ニコッと笑って、負けないくらい大きな声であいさつをしてくれるからです。最近、かなり高齢でも、いつまでも若々しく元気な方が多いです。でも身体が不自由な方もたくさんいます。そこで福島の取り組みが気になっていました。

道徳の授業の時に教科書をめくっている、足が悪い人のために、そっこうにつえが引つかからないようなものや車イスの人でもトイレがしやすいように広々としたトイレなどの工夫がのっていました。中でも私は、自動はんばい機のジュースを受け取る部分が上のほうについているのに心をひかれました。こしが悪い人にでも取りやす

くしているためでした。そして、国語の授業のときに福島市民憲章を渡された時に「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」と「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」という憲章があり、私は自分にもできることはないかと考えました。

私のおじいちゃんは体が動かしにくくて、いつも寝たきりで年々、足やこしの筋肉がおちてしまい今は少ししか歩けません。そこで私はそのような人も少しでも楽に歩けるようになる器具やその看護をしている人のサポートがあつたらいいと思いました。それに施設に入っても看護の人が少なく寝たきりの状態に入っている人も多いことをお母さんから聞いて悲しい気持ちになりました。

私はなぜお年寄りの方に元気に健康に暮らしてほしいかというと、お年寄りの方に助けてもらったことがあるからです。私が小さい時や小学生になった初めのころ、外は好きだったのですが登下校が不安な時もありました。でも、気にかけて話しかけてくれるお年寄りの方がいました。「おはよ

う」何気ないあいさつや、「おかえり。学校どうだった。」と気にかけてくれました。福島市のおじいさんやおばあさんはいつも元気でたくさんのパワーをくれます。次は、私のばんだと思います。元氣のない人、障がいのある人を今まではげましてくれたのをかえしたいと思いました。

「おはよう」「こんにちわ」そんなあいさつで福島はもつと幸せがあふれる福の島になれると思いました。

私は、今回初めて福島市民憲章に接して、この福島をほこりに思えるようなこともたくさんありました。次はこの福島を私達が守っていけるように身近なあいさつをしっかりとやり子供からお年寄りまで笑顔で愛情あふれる福島を守っていきたいです。

「福島を住みやすい地域にするために」

福島市立野田中学校

椎野 菜那

私が思う、福島県のいいところはたくさんあります。フルーツがおいしいところや、いろいろなところに緑があることなど、まだまだあります。そんないいところがたくさんある福島にも、もう少しがんばったほうがいいことがあります。それは、私が通る通学路にけっこうごみが落ちていることです。私が通る通学路だけにごみが落ちていないわけではないと思います。道路にごみが落ちていたら、そこを歩く人がいやな気持ちになってしまふし、せっかく緑もあってきれいなところなのに、ごみが落ちていたら、もったいないなと思います。そこで、ごみのポイ捨てを減らすために、私たちができることを二つ考えました。

一つ目は、ごみ拾いをする事です。毎日ではなくても、拾う量が少なくても、た

くさんの人たちがやれば、確実に道路に落ちているごみの量は減ると思います。

二つ目は、ポスターなどで呼びかけをすることです。ポスターをはることで、それを見た人たちがたくさんの人に広めたり、ポスターをたくさん作っていろいろな場所にはれば見る人も増えると思うので、ごみ拾いの活動に参加してくれる人も増えると思います。

私は道路にごみが落ちていること以外にも改善したほうがいいところがあると思います。それは、まちや職場などに木や花が少ないということです。私が知る限りでは木などの緑はたくさんあると思いますが、花はあまり見かけません。まちには木や花がありますが職場などにはないと思います。

そこで、まちにある自転車の駐輪場などの近くに花を植えます。そうすれば、まちや職場にも花が増えてとてもきれいで住みやすい地域になると思います。私がよく見る自転車の駐輪場は自転車倒れていたり、ぐちゃぐちゃになっていることが多いです。そこで、花を植えたりすれば、花が

植えてある場所に自転車は置かないと思います。そうすれば、自転車を置く場所なども分かって置きやすくなり、きれいに見えます。

これらの点が私の改善したほうがよい点だなど思うところです。これらの点を改善すればもっと良い地域になっていくし、住みやすいところになるかなと思います。もっと福島の良いところが増えるようにがんばっていきます。

福島市民憲章にもあるように、「空も水もきれいなみどりのまち」を目指し、私たち中学生は住みやすい地域にするために、ごみ拾いや自転車の駐輪場に花を植えるなどのことをやっていきます。

「福島市と僕」

福島市立野田中学校

吉田 湊 太

僕の通学路には、綺麗な田んぼが沢山並んでいます。しかしそこには、ゴミも沢山捨てられています。最近では、新型コロナウイルスの影響もありマスクを多く見かけます。これは、福島市民憲章にある「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」に反する行為だと思っています。このことをふまえ、三つのことを考えました。

一つ目は、ポイ捨てされたゴミの行く先についてです。捨てたゴミが、川や田んぼ、畑などの土地に入ると自然を汚し、いずれ人間が口にする魚や米、野菜に取り込まれます。すると、私たち人間の健康を害することに繋がります。つまり、ポイ捨ては回り回って自分たちに帰ってくる、いわば「因果応報」なのです。そのため、物事の先を見据えて行動することが大切だと思います。

二つ目は、ゴミが落ちていることに対する意識の問題です。いつもゴミ一つない道路であれば、誰もゴミを捨てようとは思わないはずです。その逆だと、みんながやっているからと安易に考える人がいたり、ゴミが落ちていることに違和感を持たない人もいるでしょう。ゴミ拾いのボランティアへの参加による意識改革が一番の近道ですが機会に恵まれるとは限らないので、例えば一日一個はゴミを拾うといった自分に合う目標を実行していくことが求められているのではないのでしょうか。

三つ目は、福島市がゴミ排出量全国最多だということです。全国平均から見ても、一人当たりのゴミ排出量が一・三倍多いようです。しかも、その中で割合が高いのは農作業で出たゴミと生ゴミだそうです。福島市のゴミを減量させるにはまず、生ゴミを減らすことが重要です。そのためには、食品の賞味期限を確認し、無駄にしないように管理することと生ゴミの再利用が必要になってくると考えました。僕の祖母の家では畑で様々な野菜を栽培しており、その一角にゴミを積み上げて堆肥にしています。

す。小学生の時僕が、

「これは何。」

と聞いたとき、祖母は

「落ち葉とか生ゴミを積み上げて堆肥を作ってるんだよ。ゴミを減らせるし、時間はかかるけど畑の肥やしにもなるから一石二鳥よ。」

と教えてくれました。それを聞いた当時は、あまりピンときませんでした。でも、今回のテーマを考えていくうちに自分の身近な人がゴミの問題に真剣に向き合っていることに改めて気付かされました。

このゴミについての三つの問題を解決することができれば福島市民憲章の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」の実現へ一歩ずつ近づいていくと思います。僕も一市民として、川や道路のゴミ拾いや家庭内でのゴミの減量に取り組んでいきたいです。

「輝くみどりの町をつくるため」

福島市立野田中学校

和田 悠 亜

私は毎朝、通学路であるものを見つめます。それは、たばこやティッシュなどの「ごみ」です。

これを見ると毎朝、とても嫌な気持ちになります。また、福島の良い自然が台無しになってしまいます。

私はずっと福島に住んでいます。が、「福島市民憲章」のことを知りませんでした。ごみのない輝く町にするためには、市民みんなが常に心がけていないといけないと思います。特に私が大事だと思うのは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」です。最近地球温暖化が進み、福島の夏も暑くなってきたように感じます。このままでは福島の自然もなくなってしまうかもしれないので、中学生の私にも何かできることがないかと考えました。

小学校の時に、「ごみ」について学びま

した。その時に福島市が日本一ごみの多い町だとしり、驚いたのを今でも覚えています。そして、「3R」を教えていただきました。この「3R」を守る人が増えれば、市から県へ、日本全体へと広まり、無駄のない社会を作ることにつながると思います。私も先日、エコバッグを買いました。このような小さなことでも、周りの人に呼びかけることが私にできることだと思います。

一方、福島市は自然が多いという長所もあります。春には様々な所で桜が咲いていて、とてもきれいだなと感じます。秋は紅葉も美しく、福島に住んでいて良かったと改めて思うことができます。この美しい自然をもっと良くするために、私は二つのことを考えました。

一つ目は、花を植えることです。駅前や公共施設に色とりどりの花が植えてあったら、地元の人はもちろん、旅行から来た方々も気持ち良くなると思います。その花を植えるイベントがあれば、花に愛着がわく人も増えるのではないのでしょうか。

二つ目は、草木の手入れをすることです。

私の通学路に放置されたような草むらがあります。中からハチが飛んできたりして、とても危険だと思います。そういった場所をきちんと清そうし、木や花を植えていれば、美しい景色になると考えました。

このように、福島市の魅力はたくさんありますが、課題もあると思います。私も市民憲章の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という言葉を中心に留め、地域のために働いていけるようになりたいと思います。

「きれいな水とおいしい作物」

福島市立吾妻中学校

玉根 侑奈

私が大切にしたいのは福島市の綺麗な水と、それで育った果物や野菜、お米です。福島市に通っている川。荒川は、日本で一番綺麗とされている川です。だから、荒川の水はとてもおいしくて、スッキリしています。水は、人が生きていくうえで、とても必要（大切）なものです。普段からよく飲むし、私は喉が渇くと一番飲みたくなる飲み物です。だから、そんな水が日本一というのは、とても誇り高いです。

それから、果物、野菜、お米です。これらは、福島市の綺麗な水で育った食べ物達です。私の家は昔から畑や田んぼを持っていて、色々な種類の果物、野菜、お米を毎年作っています。去年も今年もきつと来年も、お婆ちゃん、お爺ちゃん、お母さん、お父さん、お兄ちゃん、弟、そして私で果物、野菜、お米を育てて、福島市の美味しい食

べ物を広げていきたいと思っています。実際、うちで作った果物を、母や父の会社の人達や、その親戚の方々が買ってくれていて、買ってくれた人達は皆んな必ず「おいしかった。」とか「また宜しく。」なんていう言葉をくれています。色々な人達から、美味しいといってもらえるのは、一生懸命大切に果物を育てている、農家の人達のおかげというのは勿論ですが、福島市の美味しい水も、少なからず関わっているのじゃないかと思っています。野菜も同様で、とてもみずみずしくて、甘みもある野菜です。だから、野菜が苦手な私でも、美味しいと思える様な味がします。福島市の野菜は人の好みを変えることのできる、魔法の野菜です。そして、お米です。お米は、うちでは主に「コシヒカリ」と「つや姫」を作っています。どちらもとても甘みがあつて、どんなおかずにも合う様な美味しいお米です。

私の家の畑や田んぼは、とても広くて数もあります。そして、私が住んでいる吾妻地区にも、たくさん田畑があります。いつも学校へ行くために通っている道には、

何メートルも続く田畑がずっと並んでいます。特に今の時期は、田んぼに綺麗な緑色をして、真っ直ぐ立っている稲があります。そして畑にも、鮮やかな桃色をした桃が木からぶら下がっていて、とても見映えが良いです。朝にその景色を見ながら自転車道で走れるのは、福島市民の特権です。凄く気持ち良く学校に向かうことができます。

福島市は、とても自然に恵まれていて、そのおかげで美味しい水が飲め、美味しい果物、野菜、お米を毎日食べることが出来ます。今日も福島市には、笑顔がいっぱいいます。私はそんな福島市をずっと大切にしていきたいと思っています。

「福島の色々な良いところ」

福島市立吾妻中学校

新田 梨乃

私はこの福島で育ってきました。その福島の良いところは何かを考えてみました。

福島市と聞いて一番最初に思い浮かべることは自然という言葉ではないでしょうか。私は去年の夏、東京へ行きましたが周りには木がほんの数本、建て物だらけで、さすが日本の首都、いつもの風景がなく空気の匂いもちがく、居心地が少し悪かったです。福島市にもどったら居心地の悪さは治るだろうかと思っていました。新幹線を降りると驚くほどの安心した気持ちや安心する風景、安心して居心地を感じ取れました。しかしその中でも一番最初を感じ取ったのは空気の差でした。福島の空気はすき通った風がとても良かったです。その風を毎日うけていると考えると、どんな強い風でもたえられると思いました。福島の一番良いのは空気だけではありません。山

に囲まれている福島市は災害もそれほどなく、安全な地域なので安心して住むことができます。しかし九年前の東日本大震災で福島も被害を受けました。放射線の心配があり、外で遊べなかったり、果物を育てられなかったりと福島の自然を長い間感じることができませんでした。ですが福島市民の協力でまた果物を育てられ、外でも遊べるようになりました。今では福島産の果物がテレビに映るなど福島は少しずつ有名になってきたのではないかと感じ、最近は災害も少なく住みやすい市となったのではないのでしょうか。テレビに映るのは果物のほかにもあります。それは温泉です。福島には色々な種類の温泉があります。特に有名なのは、高湯温泉なのではないかと思いました。たびたびテレビにも映り、観光で来たお客さんも高湯温泉を楽しんでいます。私の祖父母も高湯温泉へ行ったことがあります。

「すごく気持ちが良いので疲れがとれるよ。」

とうれしそうに笑顔で言っていました。私は高湯温泉へ数えられるほどしか行ったこ

とがないのでまた行きたいです。福島は温泉など良い物に囲まれているおかげか、市の人も親切な方が多く、明るい方も多いです。毎日学校へ行く時、帰る時にすれちがう方が明るく

「いつてらっしゃい」

「おかえり」

と声をかけてくれます。私も明るく返そうとしますがまだまだ負けています。早くそのあいさつを明るく返せるように、毎日明るさに気を付けたいと思っています。私達ぐらいの年の人も親切であいさつが明るい人になれるといいです。

福島の自然について深くは考えませんがこの作文を書いたおかげで新しい良いことに気付くことができました。この良さがずっと続いてほしいです。

「福島市の果物」

福島市立吾妻中学校

堀 陽 色

福島市は、果物がおいしく有名で桃の収穫量ランキング二位ですがなぜでしょうか。

福島市の畑の面積を調べると市の面積の約三十四パーセントです。北海道と比較すると、畑の面積は北海道の面積の約十パーセントでした。

福島市の農家についても人口の約一パーセント、北海道の農家は人口の約一パーセント以下です。福島市は、畑の面積も広く、農家も北海道より多いことが分かりました。実際に、僕のおじいちゃん、おばあちゃんも朝早く起きて毎日、長い時間果物を一生懸命育てています。僕やお母さんも手伝いに行きますが僕は、少し手伝うだけで

「疲れた。」

と言うことが多いのですがこれを毎日育てる農家の人たちは、本当にすごいと思いま

す。僕が毎日登下校するとき、桃などの果物を作っている人をよく見かけます。今年は特に暑い中、農家の人たちは、毎日細かい作業を欠かさず行っているからおいしい果物ができるのかなと思います。

それに、県北地域は、夏は気温が高く年間の降水量が少なく、冬は寒冷という恵まれている地域で桃以外のサクランボやナシ、ブドウ、リンゴ、カキなどの果物が生産されていることが分かりました。

僕がテレビをつけてたら福島市の果物について放送されているのを三回くらい見ました。福島市の果物をめしあがっていたりポーターの人は、

「福島市の果物は酸味があつて甘くておいしいです。」

というリポーターの人や、

「今まで食べた果物の中で一番おいしくて、ずっと食べられます。」

と言っていて僕もそうだなと思いました。

僕は、東北地方の果物を食べた時がありますが、僕は、福島市の果物が一番好きでおいしいと思います。僕の友達も

「おいしい、もっと食べたい。」

と言っています。僕は、おじいちゃんとおばあちゃんの手伝いを積極的に行ってたくさん果物の事を知りたいです。これから果物を食べる時は、食べられることがあたりまえではないので、農家の人たちの苦労を忘れずにしっかり味わって食べることが大切だと思います。

「福島市民憲章について」

福島市立吾妻中学校

櫻井 まりあ

私は、福島市民憲章の三つの文を見て考えたことがあります。

一つ目は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」についてです。この文は、私の住んでいる地域によく合っているなと思います。なぜかというと、朝、登校するときは見守り隊の方々が、雨の日も風の日も立って安全に登校できるよう見守ってくださいっています。私がいさつしようとするときに、大きな声であいさつをしてくださいいます。地域の方々もそうです。暑くても、私がいさつをするといつも、笑顔で「いってらっしゃい」や「おかえり」などと返してくださいいます。これは、私の地域だけではないと思いますが、もしそうでなかったら福島市全体に広がってあいさつをする声が、色々なところから聞こえるようなまちになってほしいです。

二つ目は、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう」についてです。今、コロナのために、私達学生も外に出れない日々が続く、ストレスがたまる部分もあります。ですが、一番大変なのは、働いている方々です。コロナのせいでお客さんが減り、うまく働いていないと思います。特に医りよう関係の方々は大変です。コロナに感染しないよう感染予防をしながら、毎日たくさんの方々の検査を行ったり、患者さんを診てくれたりしています。テレビでは、つらい様子などをよく見る中で、最近では、第二波のニュースもたくさんでています。これは、福島市や福島県だけではなくですが、これ以上感染を広げないためにも、そして、力をあわせて楽しく働けるまちにもどってほしいよう、私にできることをしていきたいです。

三つ目は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」についてです。福島市はとても暮らしやすいところですが、不審者が出ることもあります。私達はこの情報があるととてもこわいし、この状況なので更に不安が増していき

ます。お年寄りの交通事故も多いと感じています。警察の方々が、どちらの事故などにも気をつけてくれているけれど、私達も気をつけないとだめだなと、改めて思いました。そして、自分達ができることは、手洗いやうがいです。まずは、自分達にできることをやっていきたいです。

私は、小学生のころ、福島市民憲章をお手本に、自分の小学校の合言葉をつくりました。その合言葉は、小さい子たちにも分かりやすいものでした。福島市民憲章があることによつて小さい子たちのように、いきょうを受ける人もいます。私も今回深く考えることができました。いろんな年代のまだ知らない人達にもさらに広がって、深く知ってほしいです。そして、早くもとの生活にもどってほしいです。

「福島 of 自慢」

福島市立吾妻中学校

山 岸 大 志

僕は、福島の自慢は、きれいな水とたくさん of 緑だと思います。

その理由は、僕は、吾妻中学校に通っていて、毎朝学校に来るたびに見える景色が、とても、きれいで、この学校で良かったと思えることが多いからです。そして、僕は、福島の水もおいしくて、いいところだなあと思いました。部活動や、体育のあとに水道の蛇口をひねると出る水を飲むと、冷たくて、スッキリします。この福島の水と緑は、福島の自慢だと思います。

次に、僕が、これは福島の自慢だと思ったことは、桃や、梨などのフルーツがおいしいところです。そう思う理由は、僕は小学校三年生のときに総合 of 学習で、梨畑で梨を育てて、収穫するという授業を受けたからです。僕は、収穫したあとに、育てている農家の方から梨を食べさせていた

いただきました。食べてみると、みずみずしくて、シャキシャキしていて、すごく甘くて、おいしかったです。このことがあって、僕は、福島のフルーツも福島の自慢の一つだなあと思います、今では、いっぱい福島の桃や、梨を食べています。また、いろいろな人に福島のことを知ってもらうために、フルーツなどをPRしていきたいです。

次に、僕が福島の自慢だと思うことは、福島の人は、だれにでも、優しく、親切にしてくれることだと思います。そう思う理由は、小学校のときに朝、雨が降っていても、雪が降っていても、毎日、元気よく見守り隊の人があいさつしてくれるからです。僕は、毎朝、その見守り隊のあいさつを聞くたびに元気ができました。そして、見守り隊の人は、ボランティアでやってくれているので、とても、心が優しい人だなあと思いました。僕も大人になったら、見守り隊の人みたいに、自分が住んでいる地域の役に立てるようなボランティア活動をやって、その地域に住んでいる人に少しでも、感謝されるようになりたいです。

今、日本や世界では、「新型コロナウイルス

ルス」に苦しめられていると思います。福島でも、今、コロナウイルスで飲食店やいろいろなお店が大変になっていると思います。でも、福島のいいところをなくさないためにも、福島の人、全員で協力して、今ある危機を乗り越えていきたいです。福島市民憲章の五つの言葉のような福島市を作るために、僕達中学生にも、できることがあったらやっていきたいです。

「健康で快適な町にしよう」

福島市立吾妻中学校

米 田 和 奏

健康で快適な町にしようと思った理由は三つあります。一つ目は、お年よりや障害を持っている人が使いやすい物があると良いと思ったからです。お年よりは足腰が弱い人や病気を持っている人もいて、障害を持つている人は目が見えなかったり、耳が聞こえなかったりそういう人達が事故にあわないように、体が不自由な人や体が弱い人用の歩道があったら便利だと思います。そして私は、電車やバスではお年よりやにん婦さん、体が不自由な方などに、中々席を譲ることができないので積極的に譲れるようにしたいと思います。

二つ目は、街灯が少ないのもっと増やした方が良いと思います。前に姉の帰りが遅いので外に出たら、街灯があまりなく暗かったです。もし、街頭がない所で車が通り、人が歩いているのに気づかず行つて

しまつたら事故が起きてとても危ないと思います。そして、街頭がない所だと人通りが少ないので、もし、不しんな人に声をかけられて連れ去られたら、危険なので街灯をもっと増やせば安全だと思います。

三つ目は、コロナウイルスの予防についてです。特に東京で感染者が多いので、福島も感染しないようにしたいです。そのためには手洗いや消毒をしつかりやり、休みの日には県外に行かず、人がたくさんいる所はさけ、そして、出かけるときは、必ずマスクを付けて感染を予防したいです。しかし、どれだけ予防をしていても、ニュースで東京で感染者が増えて行きます。私は、「どうしてみんな自しゆくしないのだろう。」

と不思議に思いました。特に飲食店や家での集団感染が多いです。ニュースでやっていた飲食店やカラオケなどでは、夜の十時にお店を閉めても、感染者が増えていくので、もう何日かお店を閉めた方が良いと私は思います。そうすれば、感染者も少なくなると思います。今、コロナウイルスで旅行にも行けず、大変だけれど、私はできる

限りでコロナウイルスの感染を予防して、コロナウイルスが治まってほしいです。いつかコロナウイルスが治まつたら、また家族と旅行に行けるようにしたいと思います。

福島市を健康で快適な町にするために、この三つのことをまちづくりに活かせたら良いと思います。

「人が優しく自然豊かな福島」

福島市立吾妻中学校

佐々木 瑠奈

私が思う福島の良いところは二つあります。一つ目は、人が優しいということです。福島の人は知らない人でも困っている人がいれば助けてくれます。この前、自転車で遊びに行く途中、自転車のチェーンがはずれて動けなくなっていたところ、通りかかったおじさんが直してくれました。このことから福島には親切な人が多いなと思いました。それに、毎朝学校に来る時近所の人などが「気を付けてね。」などと声をかけてくれます。困った時は話を聞いてくれたりして、本当に優しい人がたくさんいるのだなと思いました。私も将来大人になったら子どもの気持ちを考えられる優しい人になりたいと思いました。

二つ目は、ゴミが少なく空気が綺麗だということです。福島は、木や山などがたくさんあって空気がとても綺麗だと思います。

す。それにゴミのポイ捨ても少ないと思います。少し前に東京に行った時は、ポイ捨てが多く、福島との違いに驚きました。それに他の県に住んでいる友達に、「福島は空気がきれいだね。」と言ってくれてとても嬉しかったです。このような体験から、福島はゴミが少なく空気がきれいなところだと思います。大人になっても福島に住んでいたいなと思いました。

三つ目は果物がおいしいということです。福島はとくにももがおいしいと思います。小学校の時、果樹園に見学に行った時、ももの花一つ一つにいていねいに花粉をつけていて、福島のももがおいしい理由が分かりました。それに私のおじいちゃんが果樹園で働いていて、毎年ももがとれる季節になると、ももを持って帰ってきてくれます。福島のももはやわらかくてとてもおいしいです。

四つ目は、景色がきれいということです。私は小さい頃から自然の風景を見るのが好きなので景色がきれいな福島がとても好きです。休日はお父さんと一緒に景色がきれいな場所に行って写真を撮ったりし

ます。私は川や田んぼの風景を撮るのが好きなのでよく撮りに行きます。友達などに見せても綺麗だねと言ってくれてとても嬉しいです。

私は、空気がきれいで自然豊かな福島にずっといたいんです。私は自然豊かな福島が大好きなのでずっとこの環境が続いてほしいなと思います。

「私の町の素敵なあいさつ」

福島市立吾妻中学校

佐藤 すみれ

みなさんは、日ごろから、元気なあいさつを心がけていますか？私は、素敵なあいさつをする人が多いということが、福島市や、私の住んでいる町の良いところだと思います。

毎日、登下校の時に会うみまもり隊の方や、すれ違った人が笑顔で「おはよう。」や、「いつてらっしゃい。」とあいさつしてくれます。そのあいさつを聞いたときに、今日も一日頑張ろうと思ったり、みんなフレンドリーで明るい、良い町に住んでいるなど感じます。

ですが、私は時々、すれ違った人があいさつをしてくださったのに、疲れていたりねむかったりして、返さなかったり、小さな声で返したりすることがあります。あいさつはした人がおたがいに明るい気持ちになれる言葉ですが、返さなかったり、返し

ても相手が聞こえないような小さな声だったりすると、相手が明るい気持ちになれないと思います。だから、いつでも最高に明るいあいさつはできないかもしれません。お互いに明るい気持ちになれるよう、相手を暗い気持ちにさせないように、今よりも素敵なあいさつを心がけて、もっと元気なあいさつがあふれる町にしていきたいです。そして、できるだけ自分から進んであいさつをし、あいさつの輪を広げていきたいです。

私は、もともとたくさんの人に、自分のあいさつを見直してほしいと思っています。私の身の回りには、いつも元気なあいさつをしてくださる方がたくさんいますが、あいさつをしない人や、ぼそりとした声でする人もいます。今、この作文を読んでいるみなさんはどうでしょうか。自分は日ごろから、した人がお互いに明るい気持ちになる、素敵なあいさつができてると思いますか？できていると思う人は、ぜひ、そのあいさつを続けてください。できていないと思う人は、はずかしがらずに、あいさつができるようにすると良いと思います。いき

なり知らない人にあいさつするのは無理でも、先生や友達に元気にあいさつをしてみよう。きつと自信がつくと思います。私もふくめ、みなさん一人一人が素敵なあいさつを心がければ、今在るあいさつがあふれる町がもっと素敵になると思います。これから一緒に、あいさつが素敵な福島市をもっと素敵なあいさつがあふれる所にし、もっと素敵な福島市にしていきたいです。

「優しくて明るい福島」

福島市立吾妻中学校

新谷

凜

私が登校する時に通る道には、ゴミ捨て場があります。ゴミ出しをする日にはたくさんゴミが捨てられます。カラスが荒らさないようにネットがかぶせてありますが、やはり荒らされてしまいます。散らかっているゴミを回収する人も大変だし、朝から散らかっているのを見ると気分が良くはありません。けどゴミを触るのはいいやだったので片づけることはできませんでした。けれど近所のおばさんがほうきやちりと리를持ってゴミを片づけているのを見ました。自分のゴミだけではなく他の人のゴミもあるのに片づけていてとても親切なんだなと思いました。ゴミ回収をする人が感謝しているところも見ることがあります。そのおばさんは、ゴミの片づけだけではなく通学路の草のいれやあいさつもしてくれます。一年間に数回しかない草かきを

しない道なので、草がたくさんあります。でも、おばさんが切ってくれるので安心して通れます。私の通学路は、庭坂駅が近いので、朝はたくさんの方が通ります。おばさんは、通る人に「おはよう」「いつてらっしゃい」などといさつをしているのを毎朝見ます。私も歩きで登校することが多いので、おばさんが毎朝あいさつをしてくれます。「いつてらっしゃい」と言われると頑張ろうという気持ちになります。学校と部活が終わり、疲れて帰っていると「おかえり」などを言ってくれます。私はその言葉を言われてとてもいい気持ちになります。私が小学生の時は、地域の方が参加できるイベントなどで、お手伝いをしているところを見たことがあります。地域の人のためや子供達のために働いているのは、いいことだなと思いました。私が小学二年生のころからずっと優しく元気にあいさつをしてくれたり、地域のことをやってくれたりして、本当にいい人なんだなと思いました。こう思うのは、私だけではなくあいさつされた人や色々な人が思っていると思います。そのおばさんだけではなく、地域の

方達は笑顔で優しくあいさつをしてくれます。私は、そのあいさつに元気をもらっているの、私も笑顔で優しく元気にあいさつをしたいなと思いました。相手より先にあいさつをすることを心がけて、登校や下校をしたいなと思います。もちろん、学校や他の場所でもあいさつは大切だと思います。でも、これからは積極的にしたいと思います。みんなが優しく、明るい福島が大好きです。これからも、いいと思うことは続けてもつといい福島になればいいなと思います。

「住んでるまちの良いところ」

福島市立飯野中学校

安 齋 華梨奈

私が住んでいる飯野町の良いところは、大きく二つあります。一つ目は、自然がたくさんあるところです。自分の家の周りや通学路には、きれいな花や木がたくさんあります。私は、登下校の際に花などを見るときれいだなと思います、二つ目は、近所の方がとても親切なところです。私がいさつをすると、あいさつを返してくれたり、話しかけてくれます。

今回、国語の授業で福島市民憲章というものがある事を初めて知りました。また、私に通っている飯野中学校には志保井が丘憲法というものがあります。この志保井が丘憲法は合計十個の憲法があり、九個目は空白になっています。この空白には、自分で決めて憲法を入れる事ができます。私は、まだ九個目の空白が埋まっていません。だから、福島市民憲章の五つの中で私が一番

大切にしたいと思う一つを参こうにし、志保井が丘憲法の空白に入れたと思いますした。

私が、福島市民憲章の五つの中で一番大切にしたいと思ったのは、親切で愛情あふれるまちをつくりましょうです。そのためにながらばりたい事は、三つあります。一つ目は、小さい子どもや、おとしよりに親切にする事です。私の周りには、小さい子どもやおとしよりがたくさんいるので、ちゃんと親切にしたいと思いました。二つ目は、親切にすることなどを自分から実行する事です。誰かがやりそうだからいいやと思っ

て無視するのではなく、誰かがやりそうだけど私がやろうと思っ

の九個目の空白は、このように入れました。誰にでも明るく、優しく接し、親切を自分から実行することにしました。

私が、福島市民憲章を見て感じたことは、福島市民として、この福島市民憲章の五つにしっかりと協力し、他の市民の方と心を合わせて、よりよい福島市を作っていきたいなと思いました。

「福島市民憲章を通して

考えたこと」

福島市立飯野中学校

齋藤 萌衣

私は今まで福島市民憲章を知りませんでした。でも、今回、福島市民憲章を知って一条の空も水もきれいなみどりのまちについて考えることができました。

私が住んでいる飯野町は自然豊かです。ですが、私の通学路にはときどきごみが落ちています、タバコの箱や缶などです。私はこのように、落ちているごみを見るとイヤな気持ちになります。そしてなぜ平気なままごみを落とせるのか疑問に思います。ここで私は、自分にできることはないか考えました。まず思いついたのは、ボランティアでごみを積極的に拾うことです。私は理科でプラスチックはさびにくく、くさりにくいと習いました。プラスチックのごみが落ちていると環境に悪く、いつまでも残ってしまうので、プラスチックのごみこそ自

分から進んで拾っていききたいです。そして、お母さんに聞いてみると

「ポスターなどにして、みんなに呼びかけてみたら？」

と言われました。ポスターならたくさんの人に呼びかけられるのでそれはいい！と思いました。目に入りやすく、みんなが注意しようと思えるように、興味を引くキャッチフレーズ、納得のいく内容を書いてみんなが気持ち良く生活できるよう、心がけていききたいです。

私の学校にも、志保井が丘憲法というものがあります、志保井が丘憲法は十条まであり、一条はあいさつをする、二条は服装を正す、三条はていねいな言葉使い、四条は時間厳守、五条は整理整頓、六条は交通ルール厳守、七条は自分の行動に責任を、八条は何事にも真剣に、九条はあき、十条は当たり前のことは当たり前にです。あいた九条には、自分の目標が入ります。私の九条目はいつでも努力です。私が九条目をいつでも努力にしたのは、努力は大事だということを知ったからです。

私は六年生まで、バレーボールのスポー

ツ少年団に入っていました。私はずっとエースアタッカーになってスパイクをたくさん決めるという目標を持っていました。アタッカーになったばかりのころは全くスパイクが決まらずくやしい思いをしていましたが、家で少しずつ努力をしていたので、中学校に入ってからエースアタッカーになることができました。このことをきつかけに、私は努力をすることが大事なことで知りました。だからこれからも、バレーボールだけでなく、苦手な数学もコツコツ努力してテストで良い点が取れるよう、志保井が丘憲法の九条に立てた、いつでも努力をしっかりと守って頑張りたいです。

福島市民として、この憲章をしっかりと守り、これからもみんなで気持ち良く、明るい福島になっていけるようみんなで協力し、様々なことに努力していききたいです。

「愛しいふるさと福島」

福島市立飯野中学校

白 澤 凜

私は、福島市民憲章を知りませんでした。何となく市民憲章という言葉は耳にしたことはありましたが、このコンクールではじめて知りました。

憲章は五つあり、私は「空も水もきれいなみどりのまち」について書いてみたいと思いました。

私の住んでいる町は、自然がとても豊かで四季折々の花が咲き、鳥や虫の声もたくさん聞こえて来るとても素敵な町です。

上を見れば、いつでもきれいな空が見えます。夜は星空がとてもきれいです。

この恵まれた環境をあたりにまえて思っている人はたくさんいるでしょう。

私もその一人でした。

「空も水もきれいなみどりのまち」に生きている幸せをもっと多くの人が気づいてほしいと思います。

自然が破壊され、いたる所で都会化が進み川も汚染され、人間が持ち込んだ外来魚の増加により魚の生態系に影響が出ています。全国の川にも外来魚の生息数が増加しています。

私の住む町を流れる阿武隈川も外来魚の問題を抱えています。

星空も街の灯りにかき消され夜空がかすみ見えないところもあります。

多くの人が「空も水もきれいなみどりのまち」の気持ちを持つていれば、私の住む町のような美しくて素敵などころが増えていくのだと思います。

今回、福島市民憲章を通して、普段はあまり思うことのない自然の大切さや尊さを改めて考えることができました。

私の中学校では、志保井が丘憲法という一条から十条までの決まり事があります。

その中で第九条は自分で決まりを決めることになっています。

今の私の九条は「何事にもあきらめないでチャレンジする」と決めています。

この作文を通して私の九条にもう一つ決まり事を付け足したいと思っています。

「空も水もきれいなまち」が守れるように意識して行動する」の気持ちを忘れないで生活したいと思います。

福島のスバらしい自然を次の世代へと伝えていくために、自分に何ができるのかをいつも立ち止まって考えていこうと思います。

いつまでも「空も水もきれいなみどりのまち」を守っていくために。

「みどりがたくさんの町づくり」

福島市立飯野中学校

府野 明香李

私の住んでいる飯野町の良いところは、緑が多いことです。町を歩いてみると、いろんなところに花が咲いていたり、木がたくさん生えていたりします。私は飯野町が大好きです。そして私は、福島市憲章というのがあることを知りました。五章ある中でも、私は第一章の、「空も水もきれいなみどりのまち」がいいな、と思いました。理由は、飯野町も自然がたくさんあるところなので、飯野町にぴったりかな、と思ったからです。

飯野町には女神川という川もあります。いい川なのですが、私が気になったことは、ゴミがあることです。小学生のときに、みんな川に行ったら、ペットボトルが流れていました。周りにもいくつかゴミがありました。川だけでなく、いつも通っている道にもときどきゴミがあります。たばこの

ゴミやレジ袋などが落ちていました。これではせっかく緑のステキな町なのに、ゴミのせいでだいいなくなってしまう。福島市憲章にも書いてあるとおり、「空も水もきれいなみどりのまち」をつくるために、ゴミをなくすことは大切だと思います。だから私は、ゴミが落ちていたら拾ったり、自分でも落とさないようにしたりして、ゴミを減らしていきたいです。川などは危険で、なかなかゴミを拾うことはできないので、一人一人ゴミを捨てないよう気をつけていけば、もっとステキな町になると思います。

私の家の庭にはたくさんの花が咲いていたり、畑で野菜を作ったりしています。周りも木で囲まれていてとても自然豊かです。私を通っている道にも花だんがあります。いくつか花が咲いています。花はともきれいで、虫も集まってくるので、「みどりのまち」を作っていくのには最適だと思います。だから、もっとたくさんの花をいろんなところに植えてほしいです。そうすれば、もっともっとステキな町になると思います。

最近、木を切ってしまうところが多くなっています。道路を車で走っていると、木を伐採しているところが見られます。だんだん木などの「緑」がなくなっている。なので、私たちは、今ある「緑」をもっと大切にしなければいけないと思います。最近では、レジ袋が有料になり、エコバッグを使う人が増えたので、ゴミは前より少なくなるんじゃないかな、と思っています。そうやって工夫していったら、「空も水もきれいなみどりのまち」をみんなで作っていききたいと思います。

「やさしいまち」

福島市立飯野中学校

本 田 翔

僕は今まで、福島市民憲章というものがある事を知りませんでした。でもこの作文で初めて知りました。

飯野中には志保井が丘憲法があり、福島市民憲章と同じで、生活するためのきまりなどが書いてあります。その中で僕が一番大切にしているのは、四条の時間厳守です。僕は今まで、集合時間を何分も遅れてしまう事が多くありました。でも、中学校に入ってから、この憲法を見て、直さないとダメだと思い、十分前くらい前に集合場所に行くようになりました。九条は自分で行く所で、僕は、市民憲章にある、「きまりを守り、力をあわせて」にしたいと思います。理由は、これを守って生活したら今までよりもっと楽しくできると思いました。飯野町の人全員がこれを守れば、もっと雰囲気の良い町になると思います。

僕が自転車で走行している時に転びました。その時、

「大丈夫？」

と声をかけてくれた人がいました。僕はその時、うれしくなりました。僕みたいに転んでる人などがいたら声をかけてあげたいと思います。飯野町には、こういう人がたくさんいると思うので、しっかり力をあわせていつてほしいです。

もう一つ大切にしているのは、「空も水もきれいなみどりのまち」です。最近ニュースでも、地球温暖化の事について報道されることも多くあります。だから、使った油を直接流さない、洗剤を使いすぎないなどいろいろな事に気をつけて生活しています。また、僕だけでなく、家族にも注意するように、と呼びかけています。僕は、木の植樹祭にも積極的に参加したいと思います。理由は、僕は「空も」というワードで、木を植えて、たくさん光合成してもらえば、きれいになるのではないかと思っただからです。また、植樹祭などの祭りが、力をあわせての中にも入ると思いました。

僕は、五つの市民憲章を守りながら、今

挙げた二つの憲法「きまりを守り力をあわせて」「空も水もきれいなみどりのまち」を頭の中に入れながら、他県から来た人に、良い印象を与えられるように努力します。そして、守れていない人や、だめな行動をしている人には注意しようと思いました。

「自然を大切に」

福島市立飯野中学校

大 波 利 美

みなさんは、自然を大切にしていますか。私は自然を大切にするために日常的に心がけていることが大きく分けて二つあります。

一つ目は、ゴミを減らすことです。

福島県は、全国でも家庭で出すゴミの量が多いということを、いつか聞いたことがあります。ゴミを燃やすときに、二酸化炭素が排出されます。ゴミの量が増えると排出される二酸化炭素も増えます。すると、地球温暖化の進行につながり自然を大切にできません。

そこで私がゴミを減らすために実践していることが使えるものは使う、買う時は、本当に必要なものを確かめるということです。

まだ使えるものは使うということは、例えばえんぴつなら、短くなつて持てなく

なってしまったら、持ちやすくする道具などを使って、最後まで使い切るようにしています。また、着られなくなってしまった服はゆづったりやフリーマーケットに出品したりして、ゴミを少しずつ減らす努力をしています。今後リサイクルなどを活用して、ゴミを減らす取り組みなども、今後もっとたくさん活用していきたいと思います。みなさんも、このようにリサイクルなどを活用してみても、ゴミを減らす取り組みをしてみてはどうでしょうか。

買う時は本当に必要なものを確かめるということは、買いたい物が頭に浮かんだ時に、その物が本当に必要なものを確かめるために、二週間くらい考えて二週間後にまだ欲しいと思うようになったら自分のもっているお金に見合っているのかをしっかりと考えてから買うということです。これをする、ムダな買い物が減り、その物を買って要らなくなつて捨てることもありません。そうすると、全体のゴミの量も減らすことができます。

二つ目は、緑を大切にすることです。緑を大切にすれば、いろいろな動物たち

にも優しくできるはずです。ただ緑を大切にせずポイ捨てをし、木を大量に切つたりしては動物たちにも、森にも優しいとはいえません。動物たちの生態系が崩れ、バランスが悪くなつてしまうこともあるかもしれません。

私は、そのようなことを防ぐため、緑を大切にしています。緑を大切にするためには、まず一人一人の心がけだと思います。例えば落ちているゴミをひろつたり、草木に優しく接したりと、一人一人の考えたことを実践していけるようになれば、もっと緑豊かな町になると思います。私も、もっと考えたことを実践していけるように頑張ります。

この日常的に心がけている二つをこれからもしっかりと守り、今後も自然を大切に、もっと自然を愛せるようにしていきたいです。

そして、福島市や全国、世界中の人々が自然を大切に、地球がもつときれいになつてほしいと思います。

「このまちは親切であふれている」

福島市立飯野中学校

齋藤 望

みなさんは、どんな時「親切」を感じますか？

例えば、荷物を持ってくれた、だとか、けがの手当てをしてくれた、など、この世の中には、たくさんの方が親切が転がっています。

私は、「親切なことをされるだけで、人は優しくなれる」という言葉を聞いたことがあります。そんなことある訳ない、親切だけで人が優しくなれるのなら悪い人がいるはずない。最初は、そう思いました。ですが、親切は、してもらったと感じたとき、親切というものが生まれるのです。そう考えると、親切は、人の心を温かくするものなのです。心が温かくなる、それは「嬉しい」と同じです。嬉しいと、それまで悩んでいた、モヤモヤしていたことも晴れて、すっきりします。

すっきりといえば、あいさつもです。あいさつは、するとすっきり、返してもらえると、さらに気分が良くなります。そう考えれば、何気なくしていたあいさつだって、その人の心を温かくしていたということになります。私の住む町は、近くに住む人の顔と名前がわかる、それに、名前は分からなくても、いつもここで会うなあ、と思う人もいる、そんな町です。そして、そんな人にも、全く知らない人にも、笑顔であいさつをする。これを、私は欠かさずに行っています。そして、相手が、声は出さなくても、笑顔でえしやくを返してくれるだけでも、ああ、あいさつをして良かった、私の笑顔が人を笑顔にできたんだ、と思います。

私は、感情は人に伝わると思います。雰囲気を感じ取ったり、その人が思いを口にすることもあります。その人の感情を読み取り、言葉を選ぶ、これも、何気ない親切です。

このように、私たちは、知らず知らずのうちに、親切にされて、親切をしていたのです。それを通してみると、「親切で愛情

あふれるまちをつくりましょう」という憲章が生きているのでは、と思います。「親切」も「愛情」も、どちらも、無ければ、この社会は成り立ちません。人を思いやる気持ち、それこそが、人のことをも、自分のことをも、変えていってくれます。この、親切こそが、幸せの道へのかぎとなると、私は思います。

私は、これからも、親切で愛情あふれるまちを目指して、どんなささいなことでも、少しずつ、親切をしていきたいです。

私は、この親切であふれる福島が大好きです。

「みどりのまち☆」

福島市立飯野中学校

高野 みのり

私は小学六年生の時に二本松市から福島市に引っこしてきました。しかし、小学校は転校せずそのため、二本松市の小学校に通っていました。だから登下校は家の人の車やスクールバスでした。歩いて学校に行ったことがなく、せつかく自然や緑がある所にもかかわらず、それに触れることはなくただ通りすぎるだけでした。

中学校は引っこした先の飯野中学校に入学し、徒歩通学できることが楽しみでした。入学してすぐに新型コロナウイルスのえいきょうで臨時休校になってしまい家にとじこもる毎日でしたが、学校が再開されてからはやっと楽しみだった徒歩通学が始まりました。新しくできた友達と一緒に登校するとき、川が流れていたり、道路わきに花が植えてあったりすることに気がつきました。朝の澄んだ空気にふれて登校するのは

目も覚めて気持ちがいいです。

学校の帰り、友達とお話をしながらゆっくり帰る時、川の流れを見ていたら、ゴミなどもなくきれいに水が流れていました。この地域に住んでいる人たちで清掃活動をしたり、川にゴミをすてないように呼びかけたりしているのだと思います。通学路に花が植えられているのも地域の方たちが協力してきれいに植えられているおかげなのだと思いました。

もしも毎日登校する時に排気ガスで空気が汚れ、ゴミで町や川が汚れ、花や緑が全くない通学路だったら、気分も悪くなり、学校に行くのがつらくなるかもしれません。町の雰囲気も悪くなって、危険にあって暮らすことになるかもしれません。

私たち中学生が毎日安心して登校できているのは、この町に住む方たちが普段から住みやすく安全な町づくりをしてくださっているからだと思います。

それから信号機のある横断歩道の所に見守りをしてくださる大人の方が毎日いてくださり、交通事故から私たちを守ってくださっています。感謝の気持ちをもって過ご

していこうと思います。

私が住んでいる地域にきれいな空気や水やみどりがあること、毎日安心、安全に暮らせることに感謝を忘れないようにしたいと思います。私にできることは地域の方にあいさつをしたり、ボランティア活動に参加することだと思います。それから自分の家のまわりをきれいにすることだと思います。

そして、さらにステキな福島市になるように協力していきたいです。

「笑顔であふれる明るい町へ」

福島市立飯野中学校

府 野 久瑠美

私は、この町をもっと温かい町にしたいと思っています。例えば、いつでも笑顔であいさつをしたり、困っている人がいたら声をかけてみるなど、このようなことができる町にしていきたいです。そのために、私にできることは何か、考えてみました。

一つ目は、いつでも笑顔であいさつをすることです。町のどこかで誰かとすれ違ったら温かい心であいさつをしたいです。笑顔であいさつすることで、あいさつされた側の人も嬉しくなるのではないかなと思いました。そして、一人から二人、二人から四人と、笑顔であいさつをする人がだんだん増えていくのではないかと考えました。町のどこかで「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」という声が聞こえてくるといいなと思いました。

二つ目は、困っている人がいたら助けるということです。まだ幼い子、お年寄り、もちろん学生も、困っていたらまず声をかけてみるのが大切だと思います。あいさつと同様に、声をかけるときは、明るく笑顔で声をかけたいです。暗い雰囲気だと、逆に怖がられてしまうかもしれないので、常に笑顔で明るい雰囲気であることも大切なのではないかと思います。そして、声のかけ方も工夫した方がいいと思いました。幼い子への適した声のかけ方、お年寄りには、お年寄りへの、適した声のかけ方があるのではないかと考えました。例えば、まだ幼い子に難しい言葉を使って声をかけたら理解できるのだろうかと思いました。そして、あやしい声のかけ方だと怖がられて、何かあやしい人だと思われてしまう可能性もあると思います。そのため声をかけるときは言葉にも注意しようと思いました。

三つ目は、常に明るい雰囲気であることです。明るい雰囲気とはどういうことかという、笑顔、悪口を言わない、差別をしない、どのようなことです。常に明るくいることで周りからも声をかけられやすくな

ると思います。一緒にいると笑顔になれるような存在でいたいと思いました。まず身近にいる人たちを笑顔にしていき、それをどんどん広めていきたいです。

この三つのことを、意識していきたいです。絶対忘れていけないのは「笑顔」と「明るく」ということじゃないかと思っています。書いただけ、言うだけでなく、有言実行をしたいです。私たちの力で、町を笑顔であふれる明るい町にしていきたいです。